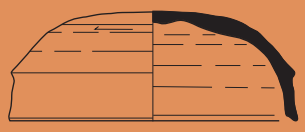
水戸市埋蔵文化財調査報告第 69 集

御茶園遺跡

（第４地点第２次）

―　宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　―



２０１６

水戸市教育委員会

水戸市埋蔵文化財調査報告第 69 集

御茶園遺跡

（第４地点第２次）

―　宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　―

２０１６

水戸市教育委員会

ごあいさつ

水戸市は，那珂川の流域に位置し，八溝山系の山並みと，那珂川・千波湖の豊かな自然に囲まれています。私たちの祖先もこの豊かな自然のもと，生活を営んできました。

御茶園遺跡は，千波湖の北，桜川と逆川に挟まれた千波･緑岡台地の上に立地しています。小字名の由来となる茶園は，天保６年に第９代水戸藩主徳川斉昭により開かれたものです。かつては農村でしたが，第２次世界大戦後には，経済成長で急速に都市化が進みました。

このたびの調査は，当該遺跡内において宅地造成工事が計画され，遺跡への影響が予想されたため，文化財保護の観点から十分に協議を重ねましたが，遺跡の現状保存が困難であるとの結論に至り，次善の策として発掘調査を実施し，記録の上での保存措置を講ずることとしたものです。このたびの調査は，当該遺跡内におけるはじめての本発掘調査となりました。

本調査により，縄文時代から古墳時代を中心とする遺構・遺物が確認されました。特に古墳時代においては，竪穴建物跡８軒を中心に集落遺構が検出され，当時の土地利用の一端が明らかになり，当該地域における過去の土地利用の事例についての，新たな知見を得ることが出来ました。

本書が，かけがえのない貴重な文化財に対する意識の高揚と学術研究等の資料として，今後広くご活用いただければ幸いです。

終わりに，本調査の実施にあたり，多大なご理解とご協力をいただきました事業主，地域住民の皆様，並びに種々のご指導・ご助言を賜りました皆様方に，心から御礼と感謝を申し上げます。

平成 28 年３月

水戸市教育委員会

教育長　本多　清峰

例　言

１．本書は，水戸市に所在する御茶園遺跡（第４地点）の発掘調査報告書である。

２．調査は，関東文化財振興会株式会社の調査支援を受け，水戸市教育委員会が実施した。

３．調査の概要は下記の通りである。

所　在　地　茨城県水戸市千波町字千波山 2591-1，2592-1，2593-2，2594-1，2594-3 の一部，2594-4 の一部，2594-6，2594-7 の一部，2595-7 の一部，2595-10

調 査 面 積　562 ㎡

調 査 期 間　平成 27 年３月７日～平成 27 年４月 10 日

調 査 指 導　米川暢敬（水戸市教育委員会事務局　教育部　歴史文化財課　埋蔵文化財センター主幹）

調 査 担 当　宮田和男・萩原宏季（関東文化財振興会株式会社）

調査参加者　大越慶子，大橋正子，大山晴美，川又恵美子，郡司ゆき子，佐久間憲子，佐久間弘美，佐久間順美，高野正行，對馬むつみ，中井川肇，平井百合子，藤倉秋之助，益子光江，山崎美知子

４．本書の執筆・編集は，第１章第１節を水戸市教育委員会が，第１章第２節から第４章までを水戸市教育委員会の指導を受けて宮田和男・林邦雄（関東文化財振興会株式会社）が担当した。

５．遺物の写真撮影は宮田が行い，遺構・遺物図面のトレースは對馬むつみ（関東文化財振興会株式会社）が行った。

６．調査組織は下記のとおりである。

水戸市教育委員会教育長　　本多　清峰

事務局

飯村　博史　　水戸市埋蔵文化財センター所長　（平成 27 年３月 31 日まで）

長谷川　仁　　水戸市埋蔵文化財センター所長　（平成 27 年４月１日から）

米川　暢敬　　水戸市埋蔵文化財センター主幹

山戸　祐子　　水戸市埋蔵文化財センター嘱託員

太田有里乃　　水戸市埋蔵文化財センター埋蔵文化財専門員（平成 27 年４月１日から主事）

丸山優香里　　水戸市埋蔵文化財センター埋蔵文化財専門員

鈴木　　学　　水戸市埋蔵文化財センター埋蔵文化財専門員（平成 27 年３月 31 日まで）

昆　　志穂　　水戸市埋蔵文化財センター埋蔵文化財専門員

７．発掘調査から本書の刊行に至るまで，下記の方々・諸機関より御教示・御協力を賜った。記して深く謝意を表す次第です（五十音順・敬称略）。

阿久津久　後藤一成　カワヒロ産業　古川登記測量事務所　茨城県教育庁文化課

８．本調査における出土遺物および写真等は，水戸市教育委員会において保管している。

凡　例

１．本書に記してある座標値は，世界測地系第Ⅸ系を用いている。方位は座標北を示す。

２．本文中の色調表現は，『新版標準土色帖』2008 年版（農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所指色票監修）を用いた。

３．標高は海抜高である。

４．掲載した図面の基本縮尺は，以下の通りである。

遺構図　調査区全体図 1/300，竪穴住居跡 1/30・1/60・1/80，溝跡 1/60・1/80，土坑 1/30

なお，変則的な縮尺を用いた場合には，スケールによりその縮尺率を表している。

遺物図　土器・石器 1/3 を原則とする。ただし，その種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては個々に縮尺をスケールで示した。

５．写真図版は，原則として実測図の縮尺に合わせて掲載した。また遺物番号は本文，挿図，写真図版と一致する。

６．遺構・遺物実測図中のスクリーントーンおよび記号は，以下に示すとおりである。

火床面・焼土範囲・繊維土器断面

カマド構築材・粘土・黒色処理・赤色付着物

赤変範囲・煤範囲　柱アタリ範囲　須恵器断面

● 土器　■ 石器　－－－－ 硬化面範囲

７．本書中に用いた略記号は以下を示す。

ＳＩ：竪穴建物跡　ＳＤ：溝跡　ＳＫ：土坑　ＴＰ：テストピット　Ｋ：撹乱

Ｐ：土器

８．遺物属性一覧に付した（）は復元値，〈〉は残存値である。

９．「主軸」はカマドを持つ竪穴建物跡についてはカマドを通る軸線とし，他の遺構については，長軸（長径）とみなした。また，「主軸（長軸）方向」は，その主軸が座標北から見て，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。（例　Ｎ－10°－Ｗ）

10. 計量表における「坏類」「甕類」は，遺物が小片であるため，坏（甕）や高坏（壺），高台付坏（鉢）などと判断できなかったものを，まとめて計量している。また，判断できた遺物は独立させて項目を作っている。

11. 本遺跡の略号は 201325 - 004 である。遺物の注記もこれに従っている。

目　　次

ごあいさつ
例言
凡例
目次
第１章　調査に至る経緯と経過 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　発掘作業の経過 …… 1
　第３節　整理作業の経過 …… 1
第２章　遺跡の位置と環境 …… 2
　第１節　地理的環境 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 3
　第３節　御茶園遺跡における既往の調査 …… 7
第３章　調査の方法と成果 …… 8
　第１節　調査の方法 …… 8
　第２節　基本層序 …… 8
　第３節　遺構と遺物 …… 11
　　１　縄文時代の遺物 …… 11
　　２　弥生時代の遺物 …… 15
　　３　古墳時代の遺構と遺物 …… 16
　　４　中世以降の遺構 …… 52
第４章　考察 …… 65
引用・参考文献
写真図版
報告書抄録

挿図目次

第１図　御茶園遺跡の位置…… 2
第２図　御茶園遺跡と周辺の遺跡位置…… 4
第３図　基本層序図…… 8
第４図　御茶園遺跡と調査地点の位置…… 9
第５図　調査区全体図…… 10
第６図　縄文時代の遺構外出土遺物…… 12
第７図　弥生時代の遺構外出土遺物…… 15
第８図　第１号竪穴建物跡…… 17
第９図　第１号竪穴建物跡出土遺物…… 17
第 10 図　第２号竪穴建物跡 …… 19
第 11 図　第２号竪穴建物跡出土遺物 …… 19
第 12 図　第３号竪穴建物跡 …… 21
第 13 図　第３号竪穴建物跡炉跡 …… 22
第 14 図　第３号竪穴建物跡出土遺物 …… 22
第 15 図　第４号竪穴建物跡 …… 24
第 16 図　第４号竪穴建物跡カマド …… 25
第 17 図　第４号竪穴建物跡出土遺物 …… 27
第 18 図　第５号竪穴建物跡 …… 29
第 19 図　第５号竪穴建物跡炉跡 …… 31
第 20 図　第５号竪穴建物跡出土遺物 (1) … 31
第 21 図　第５号竪穴建物跡出土遺物 (2) … 32
第 22 図　第５号竪穴建物跡出土遺物 (3) … 33
第 23 図　第６号竪穴建物跡 …… 36
第 24 図　第６号竪穴建物跡カマド …… 37
第 25 図　第６号竪穴建物跡出土遺物 (1) … 37
第 26 図　第６号竪穴建物跡出土遺物 (2) … 38
第 27 図　第７号竪穴建物跡 …… 40
第 28 図　第７号竪穴建物跡カマド …… 41
第 29 図　第７号竪穴建物跡出土遺物 (1) … 42
第 30 図　第７号竪穴建物跡出土遺物 (2) … 43
第 31 図　第７号竪穴建物跡出土遺物 (3) … 44
第 32 図　第７号竪穴建物跡出土遺物 (4) … 45
第 33 図　第８号竪穴建物跡 …… 49
第 34 図　第８号竪穴建物跡出土遺物 …… 49
第 35 図　古墳時代の遺構外出土遺物 (1) … 50
第 36 図　古墳時代の遺構外出土遺物 (2) … 51
第 37 図　第１号溝跡 …… 53
第 38 図　第２号溝跡 …… 55
第 39 図　第１号から第５号土坑 …… 57
第 40 図　第６号から第８号土坑 …… 59

表目次

第１表　御茶園遺跡と周辺の遺跡一覧…… 5
第２表　御茶園遺跡における既往の調査一覧 …… 7
第３表　縄文時代出土土器属性一覧…… 13
第４表　縄文時代出土石器属性一覧…… 15
第５表　弥生時代出土土器属性一覧…… 15
第６表　第１号竪穴建物跡内部施設属性一覧 …… 16
第７表　第１号竪穴建物跡出土土器属性一覧 …… 18
第８表　第２号竪穴建物跡出土土器属性一覧 …… 20
第９表　第３号竪穴建物跡内部施設属性一覧 …… 21
第 10 表　第３号竪穴建物跡出土土器属性一覧 …… 23
第 11 表　第４号竪穴建物跡内部施設属性一覧 …… 26
第 12 表　第４号竪穴建物跡出土土器属性一覧 …… 28
第 13 表　第４号竪穴建物跡出土石器属性一覧 …… 28
第 14 表　第５号竪穴建物跡内部施設属性一覧 …… 31

第 15 表　第５号竪穴建物跡出土土器属性一覧 …… 33
第 16 表　第５号竪穴建物跡出土土製品属性一覧 …… 34
第 17 表　第６号竪穴建物跡内部施設属性一覧 …… 35
第 18 表　第６号竪穴建物跡出土土器属性一覧 …… 38
第 19 表　第７号竪穴建物跡内部施設属性一覧 …… 39
第 20 表　第７号竪穴建物跡出土土器属性一覧 …… 46
第 21 表　第７号竪穴建物跡出土石器属性一覧 …… 47
第 22 表　第８号竪穴建物跡内部施設属性一覧 …… 48
第 23 表　第８号竪穴建物跡出土遺物属性一覧 …… 50
第 24 表　古墳時代遺構外出土遺物属性一覧 …… 51
第 25 表　出土遺物計量表 …… 60

写真図版目次

図版１　調査区完掘全景　北西より，調査区完掘全景（中央部～西部）　南東より，調査区完掘全景（東部）　南西より

図版２　第１号竪穴建物跡完掘状況　南東より，第１号竪穴建物跡遺物出土状況　南より，第２号竪穴建物跡遺物出土状況　南東より，第２号竪穴建物跡遺物出土状況　北東より，第２・６号竪穴建物跡完掘状況　東より，第２号竪穴建物跡遺物出土状況　東より，第２号竪穴建物跡土層　北東より，第３号竪穴建物跡完掘状況　北西より

図版３　第３号竪穴建物跡土層　南西より，第３号竪穴建物跡炉跡土層　南より，第４号竪穴建物跡完掘状況　南東より，第４号竪穴建物跡土層　南東より，第４号竪穴建物跡カマド完掘状況　南東より，第４号竪穴建物跡カマド土層　南東より，第４号竪穴建物跡遺物出土状況　南東より，第４号竪穴建物跡掘り方完掘状況　南東より

図版４　第４号竪穴建物跡カマド掘り方完掘状況　東より，第５号竪穴建物跡完掘状況　南より，第５号竪穴建物跡土層　南より，第５号竪穴建物跡炉跡完掘状況　南より，第５号竪穴建物跡貯蔵穴完掘状況　東より，第５号竪穴建物跡貯蔵穴土層　東より，第５号竪穴建物跡２号ピット土層　南東より，第５号竪穴建物跡遺物出土状況　南より

図版５　第５号竪穴建物跡遺物出土状況　東より，第５号竪穴建物跡掘り方完掘状況　南より，第６号竪穴建物跡カマド完掘状況　南より，第６号竪穴建物跡貯蔵穴遺物出土状況　東より，第６号竪穴建物跡貯蔵穴土層　東より，第６号竪穴建物跡カマド袖部断ち割り状況　南より，第７号竪穴建物跡完掘状況　南西より，第７号竪穴建物跡土層　南東より

図版６　第７号竪穴建物跡カマド完掘状況　南東より，第７号竪穴建物跡カマド土層　西より，第７号竪穴建物跡カマド１号ピット土層　東より，第７号竪穴建物跡遺物出土状況　南より，第７号竪穴建物跡遺物出土状況　北より，第７号竪穴建物跡遺物出土状況　南より，第７号竪穴建物跡遺物出土状況　南西より，第７号竪穴建物跡カマド遺物出土状況　南より

図版７…第７号竪穴建物跡カマド遺物出土状況　南より,第７号竪穴建物跡掘り方完掘状況　南より，第８号竪穴建物跡完掘状況　南より，第８号竪穴建物跡土層　南西より，第８号竪穴建物跡掘り方完掘状況　北西より，第１号土坑土層　南東より，第２号土坑土層　南西より，第３号土坑完掘状況　北西より
図版８…第４・７号土坑完掘状況　北東より，第５号土坑完掘状況　南東より，第６号土坑完掘状況　南西より，第８号土坑完掘状況　南東より，第１号溝跡・第４号土坑完掘状況　北より，第２号溝跡完掘状況　南東より，基本層序　北東より
図版９…第１号竪穴建物跡遺物１・２，第２号竪穴建物跡遺物１～４，第３号竪穴建物跡遺物１・２
図版 10　第４号竪穴建物跡遺物１～７
図版 11　第４号竪穴建物跡遺物８，第５号竪穴建物跡遺物１～６
図版 12　第５号竪穴建物跡遺物７～ 13・15
図版 13　第５号竪穴建物跡遺物 14・16，第６号竪穴建物跡遺物１～４
図版 14　第６号竪穴建物跡遺物５，第７号竪穴建物跡遺物１～７
図版 15　第７号竪穴建物跡遺物８～ 14
図版 16　第７号竪穴建物跡遺物 15 ～ 19
図版 17　第７号竪穴建物跡遺物 20 ～ 25
図版 18　第８号竪穴建物跡遺物１～３，縄文時代の遺構外出土遺物⑴
図版 19　縄文時代の遺構外出土遺物⑵，弥生時代の遺構外出土遺物
図版 20　古墳時代の遺構外出土遺物

第１章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

平成 26 年 12 月３日付で，宅地造成工事に伴い，事業者から茨城県教育委員会（以下，県教委）教育長あての文化財保護法第 93 条第１項に基づく届出が，水戸市教育員会（以下，市教委）に提出された。

開発が計画されている千波町 2591 番１ほかは，周知の埋蔵文化財包蔵地「御茶園遺跡」の範囲に該当していた。そのため，市教委は，当該地点における埋蔵文化財の存否を確認するため，平成 26 年９月９日から９月 12 日にかけて，試掘調査を行った。その結果，数多くの埋蔵文化財が発見され，今回の事業計画と照合したところ，開発道路及び雨水浸透貯留槽埋設箇所において，確認された埋蔵文化財への影響は避けられないとの判断に至った。これを受けて市教委は，埋蔵文化財の保存のあり方について事業者との協議を重ねたが，設計変更等による遺構の現状保存が極めて困難であるとの結論に達した。このため市教委は，事業者から提出のあった届出を県教委へと進達し，県教委から上記部分において，次善の策として記録保存を目的とした本発掘調査を実施すること，調査の結果重要な遺構が確認された場合には，その保存について別途協議を要する旨の指示・勧告があった。

これを受けて，事業者は市教委・関東文化財振興会株式会社と発掘調査実施に係る協定書を締結したうえで，関東文化財振興会株式会社と発掘調査業務委託契約を締結し，当該調査を御茶園遺跡第４地点第２次発掘調査として，平成 27 年３月７日から発掘調査を実施することとなった。　（米川）

第２節　発掘作業の経過

発掘調査は平成 27 年３月７日から平成 27 年４月 10 日までの約１ヶ月間にわたって実施した。３月７日より資機材の搬入などを行い，翌日の８日より重機を用いて調査区の表土除去と並行してジョレンなどを用いて遺構の確認作業を行った。重機による表土掘削および遺構確認作業は 10 日までに完了し，順次遺構の掘削作業や撹乱土の除去作業を調査区北西部から開始している。遺構は一部，撹乱により壊されていたが，順調に進捗し，４月６日には竪穴建物跡の掘り方を含めた遺構の掘削を完了し，全景写真を撮影した。その後，７日から９日に残務作業および撤収作業と並行して調査区の埋め戻しを行い，10 日に調査区埋め戻し作業を終了し，発掘作業の全日程を完了している。　（林）

第３節　整理作業の経過

整理作業は平成 27 年４月 11 日より平成 28 年３月 18 日までの約 11 ヶ月間にわたって実施した。

４月から６月期は遺物の洗浄・注記・接合作業を中心に行い，５・６月期は遺構図面の修正および遺物の実測，６月から８月期は遺物写真の撮影・図版作成・原稿執筆・報告書編集作業を行った。９月１日に入稿し，平成 28 年１月 18 日に校了，３月 18 日に発行した。　（林）

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

御茶園遺跡は，北緯 36 度 21 分 56 秒，東経 140 度 26 分 52 秒（世界測地系）の茨城県水戸市千波町字千波山 2591-1 ほかに所在する。

茨城県の中央部を大きく蛇行しながら南東に流れる那珂川の両岸には広大な沖積低地と洪積台地が形成されている。水戸市は那珂川の下流部，県中央部東側に位置して，那珂川右岸の沖積低地と洪積台地を中心に発達しており，市域の地形区は主に那珂川やその支流である桜川支谷により構成される沖積低地，東茨城台地の北東部をなす「水戸台地」と呼ばれる洪積台地，八溝山地の中央部にあたる鶏足山塊の外縁部にあたる丘陵部に分けられ，御茶園遺跡はこのうち，通称「千波・緑岡台地」と呼ばれる洪積台地の北側先端部，標高 19.5 mから 22.3 m付近に位置する。遺跡西側には桜川が蛇行しながら流れ，支流である沢渡川と合流し，北側で千波湖に注ぐ。御茶園遺跡が位置する千波町は東に元吉田町，西に見川町，南に笠原町，北に千波湖と接し，梅香一丁目や備前町，常磐町一丁目と隣接している。町内を南北に走る県道 50 号線は，旧陸前浜街道である。天保年間の検地帳には田畑百七町余，分米七百六石余とあり，第２次世界大戦前までは麦畑や農家が点在する農村風景が広がっていた。しかし，終戦後の経済発展に伴い，急速に都市化が進み，現在では住宅や商店などが立ち並ぶ状況となっている。（林）

第１図　御茶園遺跡の位置　（国土地理院発行１：50,000「水戸」に加筆，修正）

第２節　歴史的環境

御茶園遺跡は，県指定史跡「水戸城跡」の南西３㎞に位置する遺跡であり，その範囲は東西 170m，南北 450m に及ぶ（第２図）。御茶園遺跡が立地する千波・緑岡台地には，旧石器時代から近代に至るまでの多数の集落跡や古墳，中世以降の城館跡等が確認されている（第２図・第１表）。以下では，今回の発掘調査で確認された縄文時代から古墳時代を中心とする周辺遺跡を概観する。

（１）旧石器時代から縄文時代

旧石器時代の遺跡は，御茶園遺跡から桜川の開析谷を挟んだ北側 1.0 ㎞ほどに位置する植松遺跡（043）のみ報告されているが，その詳細は不明である。

御茶園遺跡周辺の縄文時代の遺跡は数多く確認されているが，大半は踏査による確認である。下本郷遺跡（012），見和遺跡（013），釜神町遺跡（020），並松町遺跡（021），植松遺跡（043），見川塚畑遺跡（044），千波山遺跡（106），宮西遺跡（144），柳崎貝塚（146），根本町遺跡（159），泉上遺跡（335）などが登録されている。市内では，若林遺跡や坏遺跡，アラヤ遺跡，軍民坂遺跡，大串貝塚，谷田貝塚，吉田貝塚などが該当する。当該期の水戸市域において，生活の痕跡が確認できる最初の時期は，早期稲荷台式期の撚糸文系土器である。集落跡など，発掘調査が行われた事例は少ないものの，アラヤ遺跡の台地縁辺部分において，早期の竪穴状遺構が７基検出されていることは注目すべきである。前期も概ね早期と集落などの状況に変化はないが，前期前葉の貝塚が確認されている。千波町の柳崎貝塚，谷田町の谷田貝塚，『常陸國風土記』に巨人伝説が記され，古代からその存在が知られていた大串貝塚などがこれにあたる。前２者はいずれも小規模な貝塚である。これらの早期や前期の遺跡の立地をみると，台地縁辺部分に集中して存在する傾向を持つ。中期になると，集落は台地の縁辺部から内部に分布域が拡がり，遺跡数も早・前期に比べ増加傾向にある。本遺跡の近隣では，桜川を挟んだ対岸である見和台地に位置する若林遺跡や坏遺跡などから，多量の中期中葉阿玉台式期から後葉加曽利Ｅ式期の土器と共に，袋状土坑や竪穴建物跡などが検出され，大規模集落の存在が想定されている。また，那珂川北岸の軍民坂遺跡では縄文時代中期後半加曽利ＥⅢ式期の竪穴建物跡が調査され，うち１軒は，東北地方においてよく知られ，県内でも類例が少ない石組複式炉を持つことが明らかとなっている。また，元吉田町の吉田貝塚などの貝塚も確認されている。後期では，水戸市域では中葉の加曽利Ｂ式期を中心に検出・出土しているが，中期と比べ遺跡数は少なくなる傾向が確認される。アラヤ遺跡においては，初頭の称名寺式期から加曽利Ｂ式期までの包含層や竪穴建物跡，土坑などと共に，異形注口土器が検出されている。晩期になると，遺跡数は極端に少なくなり，関東一円の傾向と歩を同じくする。水戸市域では，遺跡数の減少傾向は弥生時代後期頃まで続く。

（２）弥生時代

御茶園遺跡周辺における弥生時代の遺跡は植松遺跡（043），見川塚畑遺跡（044），米沢町遺跡（058）などが登録されており，その他には堀遺跡や大鋸町遺跡，お下屋敷遺跡，薬王院東遺跡などが該当する。堀遺跡や大鋸町遺跡では，弥生時代後期の竪穴建物跡から，弥生土器と土師器が共伴して出土し，古墳時代への過渡期の遺構・遺物として注目されている。お下屋敷遺跡では４軒，薬王院東遺跡では 10 軒の弥生時代後期の竪穴建物跡が検出されている。当該期の集落は，吉田台地や上市台地上を中心に拡がっているが，その他の地域では少ない状況である。

第２図　御茶園遺跡と周辺の遺跡位置　（茨城県遺跡地図１：25,000「水戸Ｌ・Ｒ」に加筆）

第１表　御茶園遺跡と周辺の遺跡一覧

遺跡番号	遺跡名	種　類	時　代							備　考
			旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中世	近世	
012	下本郷遺跡	集落跡		○						
013	見和遺跡	集落跡		○		○				湮滅
020	釜神町遺跡	集落跡		○					○	
021	並松町遺跡	集落跡		○						
043	植松遺跡	集落跡	○	○	○	○				
044	見川塚畑遺跡	集落跡		○	○				○	
058	米沢町遺跡	集落跡			○	○	○			
059	横西遺跡	集落跡					○			
060	坂上遺跡	集落跡				○				湮滅
061	東町遺跡	集落跡				○	○			湮滅
062	茨城高等学校遺跡	集落跡		○			○			
073	払沢古墳群	古墳群				○				円墳２，湮滅
074	福沢古墳群	古墳群				○				円墳４，一部湮滅
075	千波山古墳群	古墳群				○				前方後円墳１，円墳２
078	五軒町古墳群	古墳群				○				円墳２，湮滅
103	横竹隈遺跡	城館跡						○		
106	千波山遺跡	集落跡		○						
107	大内田遺跡	集落跡		○		○				
142	鷹匠町遺跡	火葬墓					○			
144	宮西遺跡	集落跡		○		○				湮滅
146	柳崎貝塚	貝塚		○						
159	根本町遺跡	集落跡		○						
167	沓掛遺跡	集落跡				○				
173	見川城跡	城館跡						○		
174	笠原水道	水道跡							○	県指定史跡
234	笠原古墳群	古墳群				○				前方後円墳１，円墳１
275	笠原南塚	塚							○	
287	七面製陶所跡	生産遺跡							○	
288	囲裏窯跡	生産遺跡							○	
301	舟付遺跡	包蔵地					○			
314	西堀原遺跡	包蔵地					○			
315	見和一丁目遺跡	包蔵地					○			
316	見和二丁目遺跡	包蔵地					○			
324	旧偕楽園	庭園跡							○	
325	御茶園遺跡	包蔵地								
326	笠原中組遺跡	包蔵地								
327	米沢中組遺跡	包蔵地					○	○		
331	丹下一ノ牧野馬土手跡	野馬土手							○	
332	丹下権現遺跡	包蔵地					○		○	
333	小吹西原北遺跡	包蔵地					○			
334	小吹西原南遺跡	包蔵地					○			
335	泉上遺跡	包蔵地		○			○			

（３）古墳時代

御茶園遺跡周辺における古墳時代の遺跡は，見和遺跡，坂上遺跡（060），植松遺跡，東町遺跡（061），宮西遺跡，沓掛遺跡（167）などが登録されている。市内では大鋸町遺跡，台渡里官衙遺跡宿屋敷・南前原地区，堀遺跡などが該当する。集落跡は前期から後期にかけて確認されているが，大半は踏査による確認である。当該期が中心となる集落の調査事例は少ない。市内では，大鋸町遺跡より前期から後期に至る 31 軒の竪穴建物跡が検出され，９点の古式須恵器が出土している。台渡里官衙遺跡群や堀遺跡では，終末期の竪穴建物跡が検出されている。

御茶園遺跡の周辺に営まれている古墳群は，後期から終末期を中心に確認されている。円墳２基の払沢古墳群（073），円墳４基の福沢古墳群（074），前方後円墳１基と円墳２基の千波山古墳群（075），前方後円墳１基と円墳１基の笠原古墳群（234）が登録されている。その他，八角形墳とみられる国指定史跡の第１号墳を含む吉田古墳群が該当する。しかし，大半の古墳は中世以降の土地改変により湮滅している。吉田古墳群は４基の古墳が確認されており，そのうち，国指定史跡である第１号墳の横穴式石室玄室奥壁には，武器や武具の線刻画が刻まれ，水戸市教育委員会による近年の調査により，県内でも類例の無い八角形墳と確認されている。造営年代は７世紀半ばと考えられる。その他，台渡里官衙遺跡･南前原地区において，那賀郡衙の前身施設である評衙あるいは豪族の居館と考えられる，一辺 75 m程の堀で囲まれた区画域が検出されている。この区画域の堀跡から７世紀後半の土器が出土している。なお，当該期には本遺跡周辺だけでなく，水戸市域全域にわたり集落や古墳が造営されている。古墳は台地ごとにある程度のまとまりを見せており，古墳に代表される墓域，台渡里官衙遺跡宿屋敷・南前原地区にみられるような公の施設等，生活区域が分かれていたものと推測される。

（４）古代以降

御茶園遺跡周辺における奈良･平安時代の遺跡としては，米沢町遺跡，横西遺跡（059），東町遺跡，鷹匠町遺跡（142），舟付遺跡（301），西堀原遺跡（314），見和一丁目遺跡（315），見和二丁目遺跡（316），米沢中組遺跡（327），丹下権現遺跡（332），小吹西原北遺跡（333），小吹西原南遺跡（334），泉上遺跡など数多くの遺跡が該当する。市内では，那賀郡衙とその郡名寺院と考えられる台渡里廃寺跡を含む国指定史跡の台渡里官衙遺跡群，その周辺遺跡であるアラヤ遺跡や堀遺跡，河内駅家と考えられる田谷遺跡（旧田谷廃寺跡）や白石遺跡などが挙げられる。台渡里官衙遺跡（長者山地区）では，正倉院と考えられる基壇や掘立柱建物跡，２重の区画溝などや大量の瓦などが検出・出土している。台渡里廃寺跡は，水戸市教育委員会による発掘調査により，北側の寺院は７世紀後半ごろに創建され，９世紀後半において火災により廃絶，その後，南側に寺院を再建しようとしたが途中で中止となった可能性が指摘されている。アラヤ遺跡や堀遺跡からは，当該期の竪穴建物跡や掘立柱建物跡とともに，工房跡や粘土採掘坑などが検出されている。田谷遺跡からは，多数の瓦が出土し，３箇所の基壇と礎石の存在が確認されるとともに，隣接する白石遺跡からは，長さが桁行約 88 mにもなる掘立柱建物跡が報告されている。これらは８世紀前半に帰属すると考えられている。

中世には水戸市周辺において 20 近くの城館が確認されており，戦乱の激しさを物語っている。御茶園遺跡の周辺では，横竹隈遺跡（103），見川城跡（173）が城館跡として，包蔵地として米沢中組遺跡が登録されている。市内では，水戸城跡や河和田城跡，吉田城跡，長者山城跡が該当する。水戸城は平安時代末から鎌倉時代初期に常陸大掾馬場資幹（水戸大掾氏）が築城し，当初は，馬場城と呼称されていた。応永 33（1426）年に河和田城主・江戸通房によって占拠されると，天正 18（1590）

年の太田城主・佐竹義重・義宣による江戸氏討伐までの 165 年間，江戸氏によって支配された。その後，佐竹氏が文禄２（1593）年から慶長７（1602）年の秋田転封までの間，積極的に城郭の拡張や地割の変更などを行い，水戸城の基礎が築かれている。横竹隈遺跡は，大掾氏一族の立原氏の築城，吉田城跡は大掾氏一族の吉田氏の居城であったといわれる。見川城跡や長者山城跡は，江戸氏一族の春秋氏の居城であったといわれるが，春秋氏については資料が少なく，はっきりとしたことは分かっていない。中世の水戸市域は戦乱が激しかったものと推測されるが，近世に続く町割りなどの基礎が築かれた時期でもあった。

慶長７（1602）年の佐竹氏秋田転封後，徳川家康の第５子の武田信吉が入封したが，翌年病死したため，第 10 子頼宜が，水戸城主となる。続いて第 11 子頼房が入城して水戸徳川家初代藩主となり，水戸藩の基礎を築いていく。御茶園遺跡周辺における近世の遺跡は，釜神町遺跡，見川塚畑遺跡，笠原水道（174），笠原南塚（275），七面製陶所跡（287），囲裏窯跡（288），偕楽園（324），丹下一ノ牧野馬土手（331），丹下権現遺跡などが挙げられる。当該期は，塚や水道跡，窯跡，野馬土手など遺跡の種類が多様であることが特徴である。釜神町遺跡では，平成 20（2008）年の水戸市教育委員会における発掘調査で蒔絵の箱物が出土している。笠原水道は寛文３（1663）年に築かれ，その後改修を経て現在までその姿を保っており，昭和 13（1938）年に県指定史跡に指定された。七面製陶所跡および囲裏窯跡は近世の窯跡であり，七面製陶所跡では徳川斉昭の命により開窯して，天保４（1833）年～明治４（1871）年の約 40 年と短い期間に「七面焼」と称された陶器や磁器などを焼成している。囲裏窯跡は平成 18（2006）年に確認された窯跡で，七面製陶所跡と同時期に操業されていたと考えられ，日常的に使用される雑器を中心に焼成されていた。偕楽園は徳川斉昭が天保４（1833）年に構想し，天保 13（1842）年着工開始，翌年完成した庭園で，明治以降は常磐公園と改称され，大正 11（1922）年に国の史跡及び名勝として指定された。（林）

第３節　御茶園遺跡における既往の調査

御茶園遺跡においては，これまで３地点において発掘調査が行われている（第２表・第４図）。しかし，過去３回の調査において，ごく少量の遺物は出土しているが，遺構は検出されていない。従って，今回の調査が本遺跡における初めての本格的な調査となる。（米川）

第２表　御茶園遺跡における既往の調査一覧

地点名	調査個所	調査年度	種別	調査原因	遺構	遺物
第１地点	千波町 2501	H24	試掘	個人住宅	―	―
第２地点	千波町 2507	H25	試掘	個人住宅	―	―
第３地点	千波町 2540-12	H26	試掘	個人住宅	―	―

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

調査区の座標は公共座標を基準に設定した。

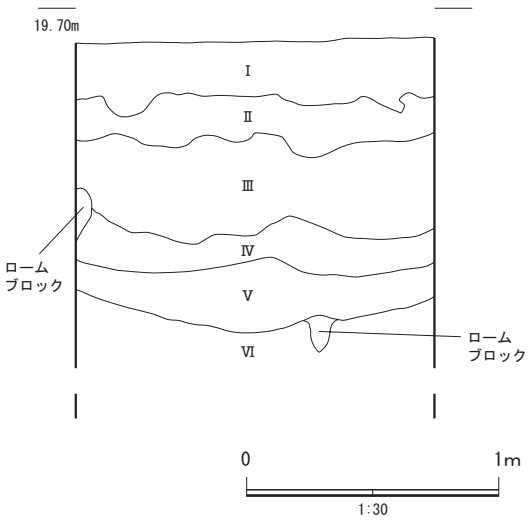
調査対象地は，宅地造成工事の道路予定地で，北西から南東に延びる幅７ｍほどの細長い調査区である。また，３ヶ所に下水用の枡を設置するため，北側や南側に向かい突出する部分がある。調査総面積は 562 ㎡を測る。調査区内は，撹乱などが調査区中央部や東側を中心に分布するが，概ね遺構の残存は良好であった。

調査にあたっては，重機を用いて表土・盛土層を除去した後に，ジョレンなどを用いて遺構確認を行い，移植ゴテなどを用いて遺構の掘削を行った。また，平面図の作成については，遺構断面は手実測，平面は光波測量機を用いて測量を行っている。なお，出土遺物状況図については，原則として光波測量機を用いて３次元記録を実施した。写真撮影にあたっては 35 ㎜モノクロフィルム，35 ㎜カラーリバーサルフィルム，デジタルカメラ（1,600 万画素）を併用し，適宜，記録撮影を行った。（林）

第２節　基本層序

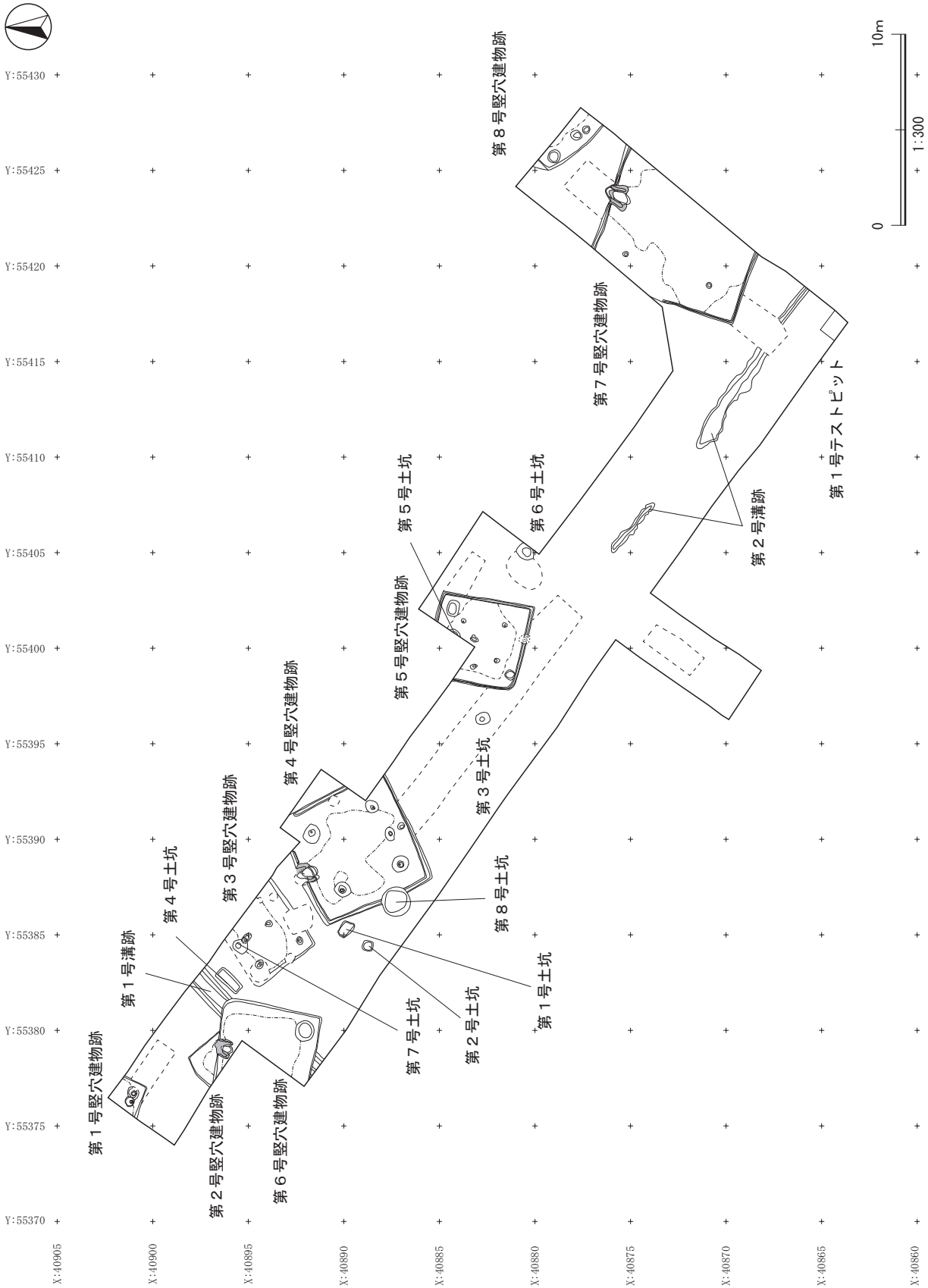
調査区の南東隅において，基本層序確認のための第１号テストピットを深く設け，土層観察作業を行った。Ⅰ層は現・旧表土である。調査区の一部において旧表土と現表土を分けることができる位置と，混在している位置がある。旧表土中から遺物は出土していないため，旧表土層がどの時期にあたるのかは不明である。Ⅱ層は遺構確認面である明黄褐色の軟質のローム層である。水戸市域で多く確認される今市･七本桜層はこの上面に位置すると思われるが，削平されているため確認されていない。Ⅲ層は層厚が厚い黄褐色のローム層である。Ⅳ層はハードローム層である。上層のローム層と比べ褐色に寄った色調であるため，第２黒色帯を含む層と判断される。また，Ⅳ層の下面に鹿沼軽石層が本来存在すべきであるが,地形上の理由なのか確認されていない。Ⅴ層は濃い褐色のハードローム層で，常総粘土層の漸移層である。Ⅵ層は灰白色を呈する常総粘土層となる。基本的な層序は水戸市域の他の場所と変わりはないものの，台地の縁辺部分という本調査地点の立地に拠るためか，鹿沼軽石層は確認されていないことが特徴となる。（林）

Ⅰ層	7.5YR3/3 暗褐色土	現・旧表土層。
Ⅱ層	2.5Y6/6 明黄褐色土	軟質ローム層。締まりに欠ける。
Ⅲ層	2.5Y5/4 黄褐色土	ローム層。層厚は厚く，粘性・締まりともに強い。
Ⅳ層	10YR6/2 灰黄褐色土	ハードローム層。
Ⅴ層	10YR6/1 褐灰色土	ハードローム層。粘性・締まりが強い。粘土粒子を少量，赤色粒子を微量含む。
Ⅵ層	2.5Y7/1 灰白色土	常総粘土層。



第３図　基本層序図

第４図　御茶園遺跡と調査地点の位置（水戸市都市計画区域図1：2,500に加筆）


第８号竪穴建物跡
第７号竪穴建物跡
第１号テストピット
第２号溝跡
第６号土坑
第５号土坑
第５号竪穴建物跡
第４号竪穴建物跡
第３号土坑
第３号竪穴建物跡
第８号土坑
第４号土坑
第１号溝跡
第１号土坑
第７号土坑
第２号土坑
第１号竪穴建物跡
第２号竪穴建物跡
第６号竪穴建物跡
0
10m
1:300
Y:55430
Y:55425
Y:55420
Y:55415
Y:55410
Y:55405
Y:55400
Y:55395
Y:55390
Y:55385
Y:55380
Y:55375
Y:55370
X:40905
X:40900
X:40895
X:40890
X:40885
X:40880
X:40875
X:40870
X:40865
X:40860

第５図　調査区全体図

第３節　遺構と遺物

御茶園遺跡第４地点は，千波湖の南側へ 800 mほど離れた台地縁辺部に位置する。

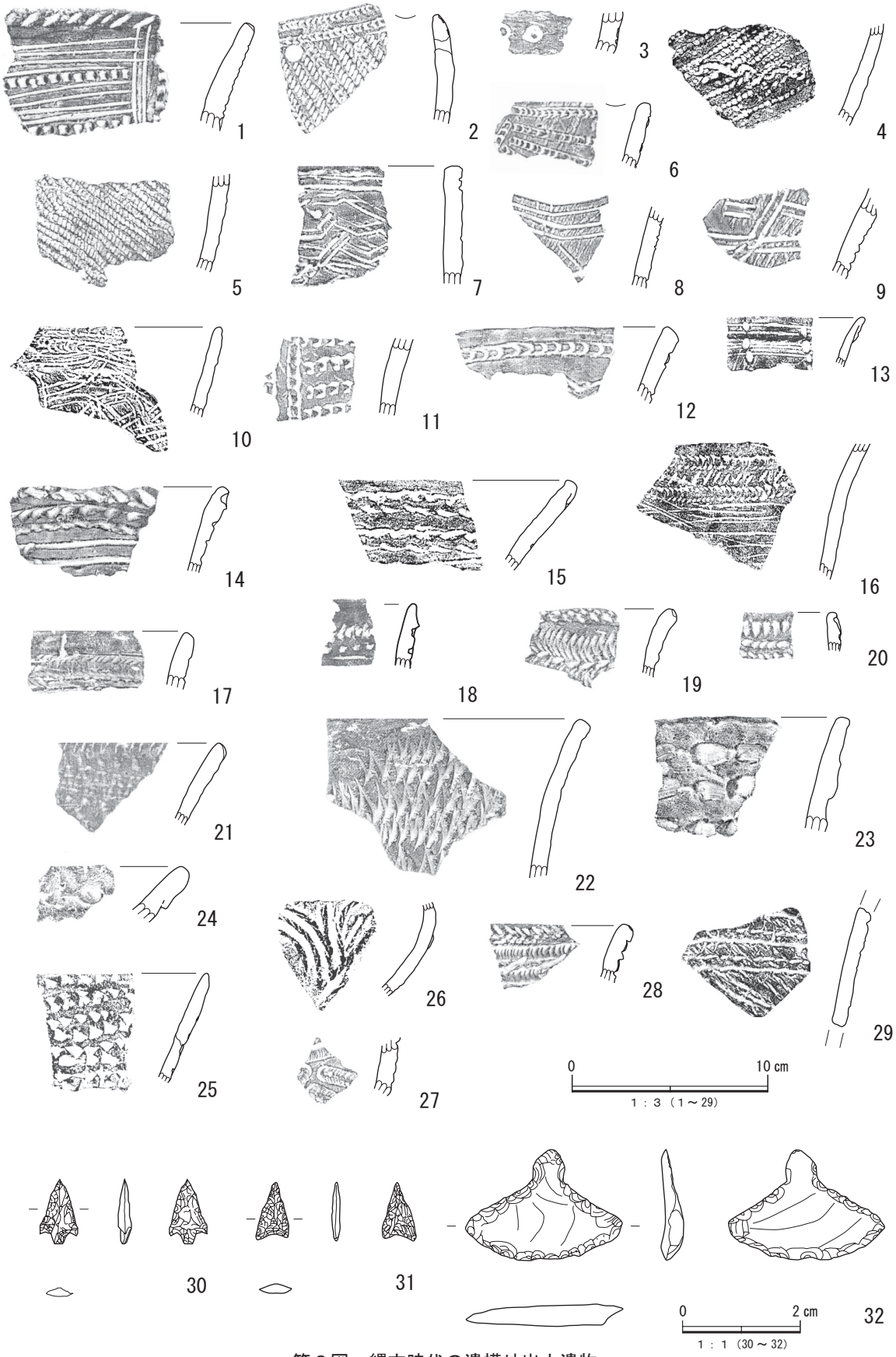
過去の３地点における発掘調査において遺構は確認されていないが，今回の調査地点では，竪穴建物跡が８軒，溝跡が２条，土坑が８基が検出されている。時期は，古墳時代と中世以降である。

遺物は，縄文土器や弥生土器，須恵器，土師器，陶器，磁器，炻器，土製紡錘車，石鏃，石匙，凹石，台石など，計 4,117 点，83,747.4g が出土している。時期は古墳時代中期を中心とし，縄文時代の遺構は検出されていないが，縄文土器が多量に出土している。近世以降では陶器や磁器，炻器片が３点出土している。

１　縄文時代の遺物

今回の調査地点から，当該期の遺構は検出されていない。しかし，遺物は 1,131 点と全遺物点数の約 27%，重量でも 21,392.4g と全遺物重量の 25%強を占めている。土器は前期中葉黒浜式期から後葉浮島式期や諸磯式期の遺物が中心で，その他は早期中葉の三戸式や中期中葉阿玉台式期，加曽利Ｅ式期がごく少数出土している。また，前期の土器では詳細は不明だが，胎土に繊維が含まれる土器が多量に出土している。石器は石鏃や石匙，凹石，台石など８点，8,102.3g 出土している。このうち，図示することができた 32 点の遺物に対しては本項で説明する。凹石，台石については，第７号竪穴建物跡のカマド芯材として転用されていたため，第７号竪穴建物跡の項目で説明する。

１は縄文時代早期中葉の三戸式土器である。口縁部片で口唇部に刻みが施され，沈線文で区画して内部に刺突文が施される。２から５は,胎土に繊維が含まれる縄文時代前期中葉の黒浜式土器である。２は波状口縁部片で爪形文，３は胴部片で竹管文が施される。４・５は胴部片で結節縄文や単節の縄文を施文する。６から 13 は縄文時代前期後葉の浮島Ⅰ式土器である。６から９は地文に撚糸文が施される一群である。６は波状口縁部片で爪形文，７から９は沈線文が施される。10・11 は沈線文や刺突文が施される一群である。10 は口縁部片で刺突文の下位に沈線文が施される。11 は胴部片で刺突文で区画されている。12 は口縁部片で爪形文の下位に沈線文が施される。13 は沈線文で区画して，その沈線文上に小豆状の押捺文が施される。14 から 17 は浮島Ⅱ式土器である。14 は口縁部片で口縁部直下に刺突文，その下位に変形爪形文と横位の平行沈線文を施す。15 は口縁部片で波状の沈線文の間に刺突文を施す。16 は胴部片で上位はＣ字状爪形文の間に刺突文を施し，下位は条線文が施されている。17 は口縁部片で爪形文が施される。18 から 25 は浮島Ⅲ式土器である。18 は口縁部片で刺突文，19 は口縁部片で口唇部に刺突文を施し，口縁部に爪形文と刺突文を施す。20 は口縁部片で刺突文と爪形文，21・22 は口縁部片で貝殻文が施される。21 は口唇部に刻みを施し，下位にアナダラ属の貝殻を用いて波状貝殻文を施す。22 はハマグリ類の貝殻を利用している。23・24 は口縁部片で輪積痕を強く残している。25 は口縁部片で三角文が多段に施される。26 から 29 は諸磯ｂ式土器である。26 は刻みをもつ浮線文が貼り付けられた胴部片である。27 は胴部片で沈線文の区画内に爪形文が施される。28 は口縁部片で口唇部に刻みが施され,縄文を施文後,爪形文や刺突文を施している。29 は胴部片で撚糸文を施文後，押引文が施文される。29 は破片を砥石として再利用している。30 から 32 は石器である。30・31 はチャート製で，30 は平基有茎石鏃，31 は凹基無茎石鏃である。32 は頁岩製の横長石匙である。



第６図　縄文時代の遺構外出土遺物

第３表　縄文時代出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	種別	器種	残存部位	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
1	SI－２ ３区２層	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	〈5.5〉	口唇部は平坦に作出され，上面に斜位の刻み目を施す。口縁部には残存部で縦位２条の沈線文と半截竹管状工具による刺突文を施し，その後に同様な施文具による横位の沈線文４条と刺突文１条を交互に施す。内面に横位のナデを施す。	白色粒子・石英粒	良好	10YR7/6 明黄褐色	三戸式
2	SI－２	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	〈5.5〉	波状口縁。口縁部に幅の狭い無文帯を挟んで２条のＣ字状爪形文を施し，以下に単節縄文ＲＬを横位回転で施している。内面には横位のナデを丁寧に施す。補修孔あり。	白色粒子・石英粒・長石粒・白雲母片・繊維	良好	10YR3/3 暗褐色	黒浜式
3	SI－４ １区１層	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	〈2.1〉	残存部に円形竹管文を２ヵ所以上を施す。内面には横位のナデを施す。	白色粒子・石英粒・繊維	良好	7.5YR6/8 橙色	黒浜式
4	SI－６ １区	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	〈5.1〉	残存部全面に単節縄文ＬＲとＲＬの結節縄文を横走。	白色粒子・小礫・繊維	良好	7.5YR6/6 橙色	黒浜式
5	SI－５ ３区２層	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	〈4.9〉	残存部全面に単節縄文ＲＬを横位回転で施す。内面に丁寧な縦位のナデを施す。	白色粒子・繊維	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	黒浜式
6	SI－２ ３区１層	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	〈3.3〉	波状口縁。口唇部は平坦に作出される。口縁部に撚糸文Ｌを斜位に施し，その上に縦位，横位のＤ字状の爪形文を施す。内面は横位の丁寧なナデを施す。	白色粒子・石英粒・白雲母片	良好	10YR6/4 にぶい黄褐色	浮島Ⅰ式
7	表土	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	〈6.0〉	口縁部に横位の平行沈線文と鋸歯状沈線文を施す。地文に横位の撚糸文を施す。内面は横位の丁寧なナデを施す。	白色粒子・小礫	良好	10YR6/6 明黄褐色	浮島Ⅰ式
8	SD－１	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	〈3.9〉	撚糸文Ｌの地文上に半截竹管文による横位，斜位の沈線文を施す。内面は横位のナデを施す。	白色粒子	良好	5YR5/8 明赤褐色	浮島Ⅰ式
9	表土	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	〈4.5〉	撚糸文Ｌを斜位に施した地文上に半截竹管文による横位，斜位の沈線文を施す。内面は縦位のナデを施す。	石英粒・長石粒	良好	10YR4/3 にぶい黄褐色	浮島Ⅰ式
10	SI－６ ２区２層	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	〈4.6〉	口縁部直下に半截竹管状工具による４条の連続刺突文を横走，その下位に平行沈線による弧文や円文を施す。	白色・赤色粒子・長石粒	良好	7.5YR6/6 橙色	浮島Ⅰ式
11	SI－１ 貯蔵穴	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	〈3.9〉	残存部で縦位２条，横位４条の半截竹管状工具による刺突文が施される。内面は丁寧な横位のナデを施す。	白色粒子	良好	5YR6/8 橙色	浮島Ⅰ式
12	SI－６ １区	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	〈3.7〉	口唇部は外削ぎ状を呈する。口縁部無文帯の下に１条のＤ字状爪形文と波状の沈線文を巡らす。内面は横位の丁寧なナデを施す。	白色粒子・長石粒・白雲母片	良好	5YR5/6 明赤褐色	浮島Ⅰ式
13	SI－６ １区１層	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	〈2.6〉	半截竹管状工具による平行沈線を横および斜走，沈線上に小豆大の押捺文。	白色粒子	良好	10YR6/4 にぶい黄褐色	浮島Ⅰ式

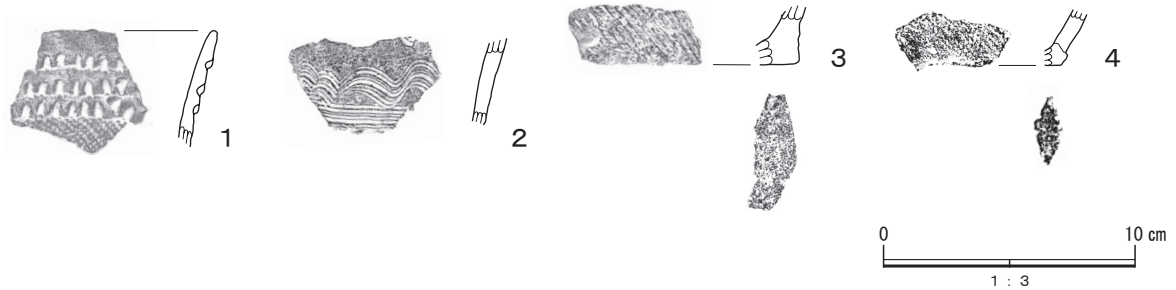
図版番号	出土地点遺構	種別	器種	残存部位	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
14	表土	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	〈4.4〉	口縁部直下に斜位の刺突文を付し，以下にＣ字状の変形爪形文と横位の平行沈線文を施す。内面には横位のナデを施す。	石英粒・白雲母片・小礫	良好	10YR6/6 明黄褐色	浮島Ⅱ式
15	SI－６ ２区２層	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	－	－	〈4.7〉	口縁部下位に波状の沈線文を多条に横走させ，沈線間に連続刺突文。内面横方向磨き。	白色・赤色粒子・長石粒	良好	5Y6/6 橙色	浮島Ⅱ式
16	SI－１ 貯蔵穴	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	〈7.0〉	２条のＣ字状爪形文を横走し，その間に連続刺突文を横走。下位は横および斜方向条線文。	白色・黒色粒子・長石粒	良好	10YR8/6 黄橙色	浮島Ⅱ式
17	表土	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	〈2.8〉	口縁部に幅広の変形爪形文を浅くＣ字状に施す。内面は横位のナデを施す。	白色粒子・石英粒	良好	10YR6/6 明黄褐色	浮島Ⅱ式
18	SD－１	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	〈3.7〉	口唇部は平坦に作出され，口縁部直下に無文帯を残し，以下に２列の左から右に向けて刺突文を施す。内面には丁寧な横位のナデ施す。	石英粒・白雲母片	良好	10YR8/4 浅黄橙色	浮島Ⅲ式
19	SI－６ ２区２層	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	〈3.5〉	口唇部は外削ぎ状を呈し，上面に櫛歯状工具による刺突文を加える。口縁部に幅広の変形爪形文を施し，下端に斜位の刺突文を施す。内面は横位のナデを施す。	白色粒子	良好	10YR6/6 明黄褐色	浮島Ⅲ式
20	表土	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	〈2.0〉	口縁部に縦位の刺突文を施し，以下にＣ字状の変形爪形文を施す。内面は横位のナデを施す。	白色粒子・石英粒	良好	7.5YR5/6 明褐色	浮島Ⅲ式
21	SI－４ ４区４層	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	〈4.5〉	口唇部は外削ぎ状を呈し，外端に斜位の刻み目を付す。口縁部にはアナダラ属の貝殻による波状貝殻文を２段以上に施す。内面は横位のナデを施す。	白色粒子・石英粒・白雲母片	良好	10YR5/6 黄褐色	浮島Ⅲ式
22	表土	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	〈8.1〉	口縁部は外反し，口唇部は平坦に作出される。口縁部は横位のナデ成形の後にハマグリ類による波状貝殻文を多段に施す。内面には横位のナデを施す。	白色粒子・石英粒・長石粒	良好	7.5YR5/3 にぶい褐色	浮島Ⅲ式
23	表土	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	〈5.8〉	口縁部は無文で輪積痕を残し，輪積み部分に左から右への工具痕を施す。内面は横位のナデを施す。	白色粒子・石英粒・長石粒・白雲母片	良好	10YR4/2 灰黄褐色	浮島Ⅲ式
24	SD－１	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	〈3.1〉	無文で輪積痕を残し，その上に指頭圧痕を加える。内面に横位のナデを施す。	白色粒子・石英粒	不良	10YR7/6 明黄褐色	浮島Ⅲ式
25	SI－６ ２区２層	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	〈5.9〉	横走する三角文を多段に施文。	白色粒子・長石粒	良好	10YR7/4 にぶい黄橙色	浮島Ⅲ式
26	SI－１ ３区１層	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	〈4.8〉	地文は縄文。多条の浮線文を円形や縦位，横位に貼り付ける。その浮線文上に斜方向の刻み。	白色・黒色粒子・長石粒	良好	10YR8/6 黄橙色	諸磯ｂ式
27	表土	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	〈3.0〉	半截竹管状工具による横位，斜位の区画内にＣ字状爪形文，Ｄ字状の爪形文を施す。内面にナデを施す。	白色・赤色粒子	良好	10YR4/4 褐色	諸磯ｂ式
28	SD－１	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	〈3.0〉	口唇部は丸みをもち，口唇上に斜位の刻みを付し，直下に単節縄文ＬＲを横位回転で施す。以下にＣ字状の爪形文を２列施し，間に斜位の刺突を加える。内面に横位の丁寧なナデを施す。	白色粒子	良好	10YR8/4 浅黄橙色	諸磯ｂ式
29	SI－６ ２区２層	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	〈6.1〉	地文は撚糸文を横走。口縁部直下より半截竹管状工具による押引文を斜走。	白色粒子・長石粒	良好	7.5YR5/6 明褐色	上端・左端を転用砥石として利用。諸磯ｂ式

第４表　縄文時代出土石器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	種別	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	石質	特徴	備考
30	SI－６ １区２層	石器	石鏃	2.2	1.26	0.42	8.3	チャート	平基有茎石鏃。全面に細かい調整を施す。	
31	SI－７ ３区	石器	石鏃	1.95	1.14	0.3	5.8	チャート	凹基無茎石鏃。全面に細かい調整を施している。	
32	SI－４ １区１層	石器	石匙	3.7	5.25	0.71	10.8	頁岩	横形石匙。剥片の周縁部を交互に押圧剥離を施す。つまみ部の裏面には調整ははぼ施されていない。	

２　弥生時代の遺物

今回の調査地点から，当該期の遺構は検出されていない。遺物は壺形土器を中心に 35 点，421.0g であり，縄文時代や古墳時代と比べごく少数である。出土地点は表土中や撹乱土中，遺構に伴わない状況での出土で,調査区の中央部やや西側を中心としている。このうち４点を図示することができた。以下，遺物の説明を加えていくこととする。１から４は壺形土器である。１は口縁部片で口唇部の押圧と３段の有段口縁，その下位の刺突が特徴である。２は，６から７条の多条の施文具による波状文が施されるが，十王台式とは様相が異なる。３・４は胴部から底部片である。胴部に撚糸文や付加条縄文１種が施される。以上は弥生時代後期の所産と考えられる。



第７図　弥生時代の遺構外出土遺物

第５表　弥生時代出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	種別	器種	残存部位	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
1	表土	弥生土器	壺形土器	口縁部	－	－	〈4.5〉	口唇部に押圧を加えて，口縁部に３段の輪積み痕を残し，その上に刺突を施す。以下に単節縄文ＲＬを横位回転で施す。外面には炭化物が付着する。内面は横位のナデを施す。	白色粒子	良好	外面：10YR2/3 黒褐色 内面：7.5YR5/6 明褐色	弥生時代後期
2	SI－５ ３区２層	弥生土器	壺形土器	頸部	－	－	〈3.4〉	残存部に横位の櫛描直線文と波状文を施す。直線文の後に波状文を施す。６から７条の多条の施文具によるもので十王台式とは異なる。内面は縦位のナデを施す。	石英粒・長石粒・小礫	良好	7.5YR5/8 明褐色	弥生時代後期
3	SI－５ ４区２層	弥生土器	壺形土器	底部	－	－	〈2.3〉	底部直上に撚糸文Ｒを斜位に施す。底部外面に一部布目痕らしきものがみられる。内面は軽いナデを施す。	石英粒・小礫	良好	10YR6/4 にぶい黄橙色	弥生時代後期
4	SI－４ ３区３層	弥生土器	壺形土器	胴部～底部	－	－	〈2.3〉	胴部外面ＲＬ＋Ｒの付加条縄文１種を斜走。	白色粒子	良好	10YR6/4 にぶい黄褐色	弥生時代後期

３　古墳時代の遺構と遺物

今回の調査地点において，主体となる時代である。当該期の遺構は竪穴建物跡が８軒検出されている。遺物は坏や碗，高坏，坩，甕，壺，鉢，甑，土製紡錘車，砥石などを中心に 2,937 点で 61,117.1g と，全体からみて点数で 71.3%，重量で 73.0%が出土している。以下，検出された遺構や遺物に対して説明を加える

竪穴建物跡

第１号竪穴建物跡

位　　置　調査区北西側，標高 19.28 m地点に位置する。本跡の大半は調査区外に延びている。

規模と形状　長軸 188 ㎝以上，短軸 174 ㎝以上の方形と推定される。主軸方向は東壁および南壁を基準にＮ－ 21°－Ｅを示す。壁高の最大高は 28 ㎝を測り，緩やかに立ち上がる。

重複関係　単独で存在する。

土　　層　４層に分かれ，自然な埋没状況を示す。４層は壁の崩落土である。

床　　面　貼床は存在しない。概ね平坦で，本跡中央部で検出された部分はよく踏み固められているが，他は軟弱である。

壁　　溝　検出されていない。

カマド・炉　検出されていない。

柱　　穴　２基検出された。どちらも本跡の南東部に位置する主柱穴であろう。１号ピットは２号ピットに後続しており，柱の据え替えが行われた可能性が高い。また，２号ピット底面には柱のアタリ痕が確認できた。

貯 蔵 穴　検出されていない。

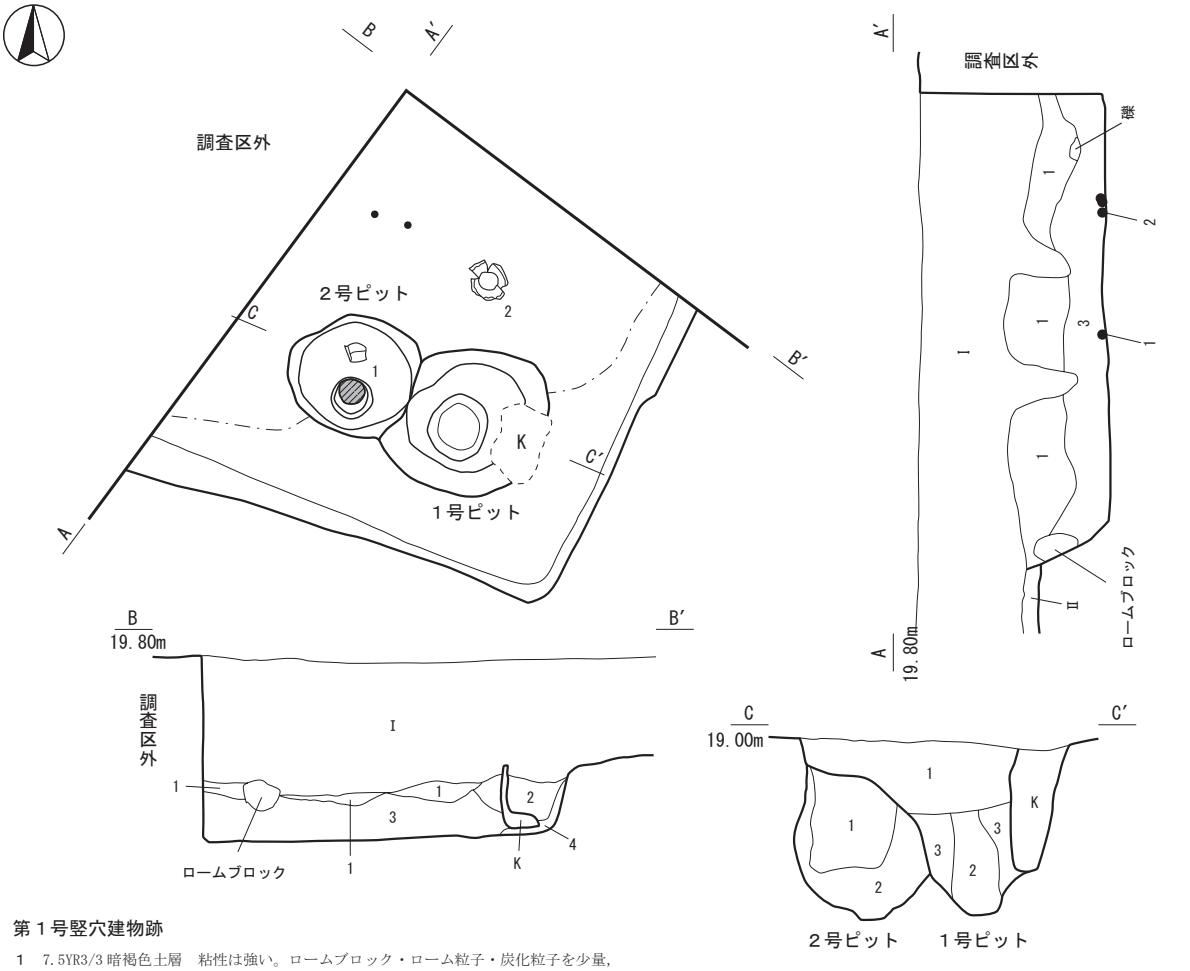
掘 り 方　本跡壁際やピット周囲を中心に床面から３㎝から５㎝の深さまで掘り込まれている。

遺物出土状況　112 点，1768.0g の遺物が出土している。内訳は縄文土器の深鉢が 39 点，土師器坏類が 37 点，甕・壺類が 23 点，器種不明が 12 点，砂岩の礫が１点である。このうち２点を図示することができた。１・２は丸底の土師器坏である。１は口縁部が大きく開き，２は口縁部が直立する土師器坏である。双方とも床面直上の出土である。

所　　見　出土した遺物から６世紀前葉頃と考えられる。

第６表　第１号竪穴建物跡内部施設属性一覧

遺構番号	位置	平面形態	長径（㎝）	短径（㎝）	床面からの深さ（㎝）	断面形態	切り合い関係	備考
１号ピット	南東側	不整円形	49	42	69	筒状	本跡２号ピットに後続する。	
２号ピット	南東側	円形	44	－	64	筒状	本跡１号ピットに先行する。	南西側の一部を撹乱で破壊されている。柱抜き取り痕および圧痕あり。



第１号竪穴建物跡

1　7.5YR3/3 暗褐色土層　粘性は強い。ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を少量，炭化物・赤色粒子を微量含む。

2　7.5YR4/3 褐色土層　締まりは強い。ロームブロックを多量，ローム粒子を少量，赤色粒子を微量含む。

3　7.5YR3/4 暗褐色土層　ロームブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子・赤色粒子を微量含む。

4　7.5YR3/4 暗褐色土層　締まりは弱い。ローム粒子を少量，赤色粒子を微量含む。

第１号竪穴建物跡２号ピット

1　7.5YR3/3 暗褐色土層　粘性は強い。ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。

2　7.5YR4/3 褐色土層　ロームブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含む。

第１号竪穴建物跡１号ピット

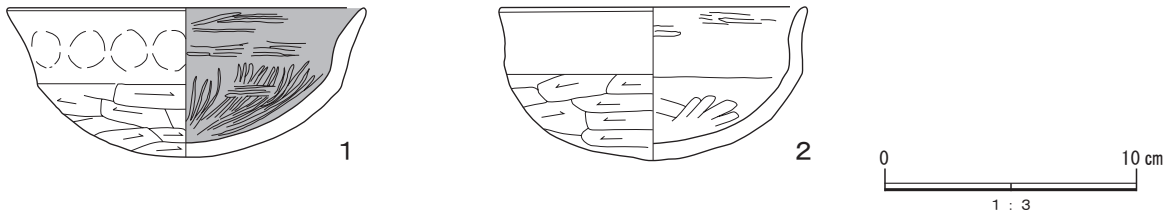
1　7.5YR3/4 暗褐色土層　粘性は強い。ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子・赤色粒子をふくむ。

2　7.5YR4/3 褐色土層　ロームブロックを少量，ローム粒子・炭化粒子を微量含む。

3　7.5YR4/4 褐色土層　ロームブロック・ローム粒子を多量，炭化粒子を少量含む。

0　1m
1:30

第８図　第１号竪穴建物跡



第９図　第１号竪穴建物跡出土遺物

第７表　第１号竪穴建物跡出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	種別	器種	残存部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
1	No2	土師器	坏	口縁部～底部	75	14.0	－	5.9	丸底で内面黒色処理された須恵器蓋坏模倣坏。口縁部は外反して体部との境に不明瞭な稜。口縁部外面ヨコナデおよび指頭痕，内面ヨコナデ後横方向ミガキ。体部外面横方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ後２条１単位の放射状の暗文。	白色・赤色粒子・石英粒・白雲母片	良好	外面：7.5YR6/4にぶい橙色 内面：10YR2/1黒色	
2	No1	土師器	坏	口縁部～底部	95	12.2	－	6.2	丸底の須恵器模倣坏。口縁部は直立して，上位が僅かに外反。口縁部外面ヨコナデ，内面ヨコナデ後横方向のミガキ。体部外面横方向ヘラケズリ後ナデ，内面多方向ヘラケズリ後丁寧なナデ。	赤色粒子・石英粒・長石粒	良好	10YR8/4浅黄橙色	

第２号竪穴建物跡

位　　置　調査区北西部，標高 19.4 m地点に位置する。本跡の南側２/３が調査区外にあり，また，南部を第６号竪穴建物跡に掘り込まれており，その部分は検出することができなかった。

規模と形状　長軸 231 ㎝以上，短軸 180 ㎝以上の方形と推定される。主軸方向はＮ－ 42°－Ｗを示す。壁高の最大高は 21 ㎝を測り，急角度で立ち上がる。

重複関係　第６号竪穴建物跡に先行する。

土　　層　２層に分かれるが，当初の範囲確定時において全面を掘削してしまったため，埋没状況は不明である。

床　　面　貼床は存在しない。概ね平坦で，本跡中央部で残存する部分はよく踏み固められているが，他は軟弱である。

壁　　溝　検出されていない。

カマド・炉　検出されていない。

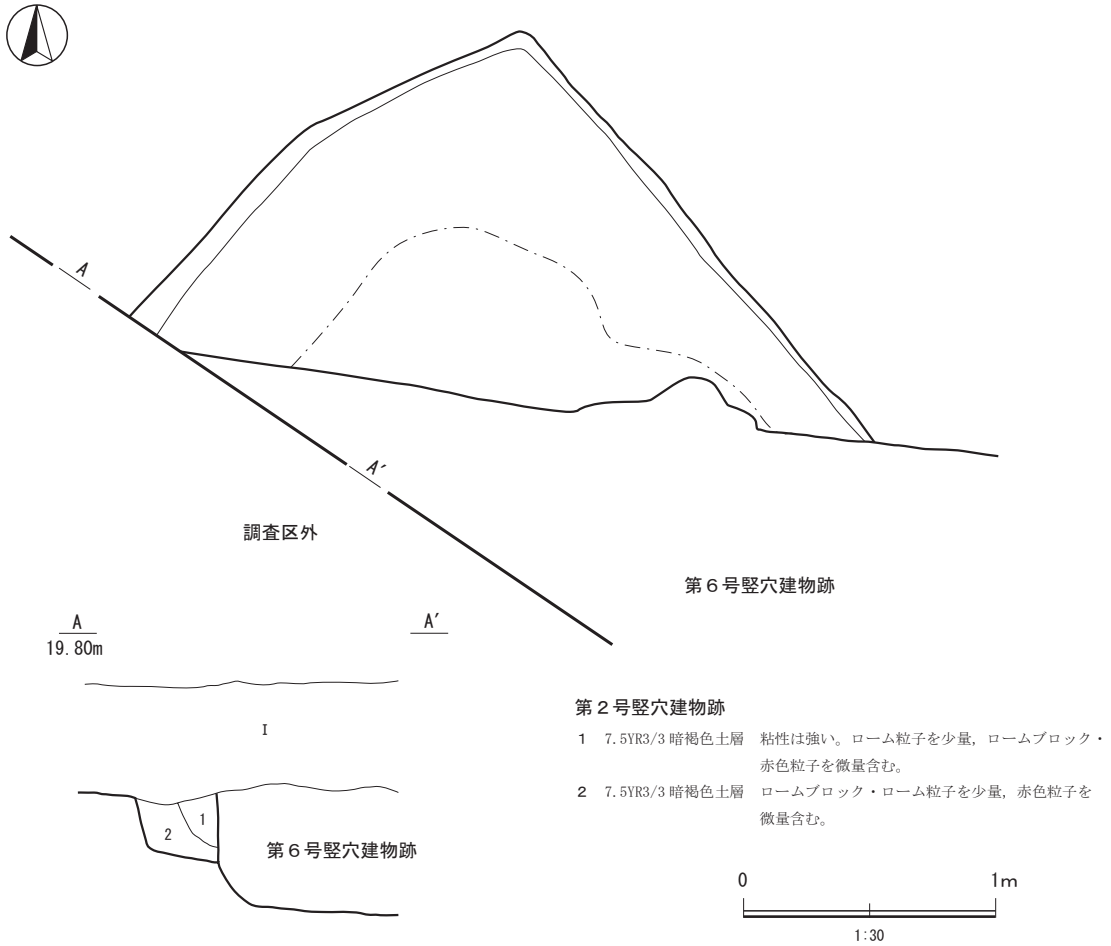
柱　　穴　検出されていない。

貯 蔵 穴　検出されていない。

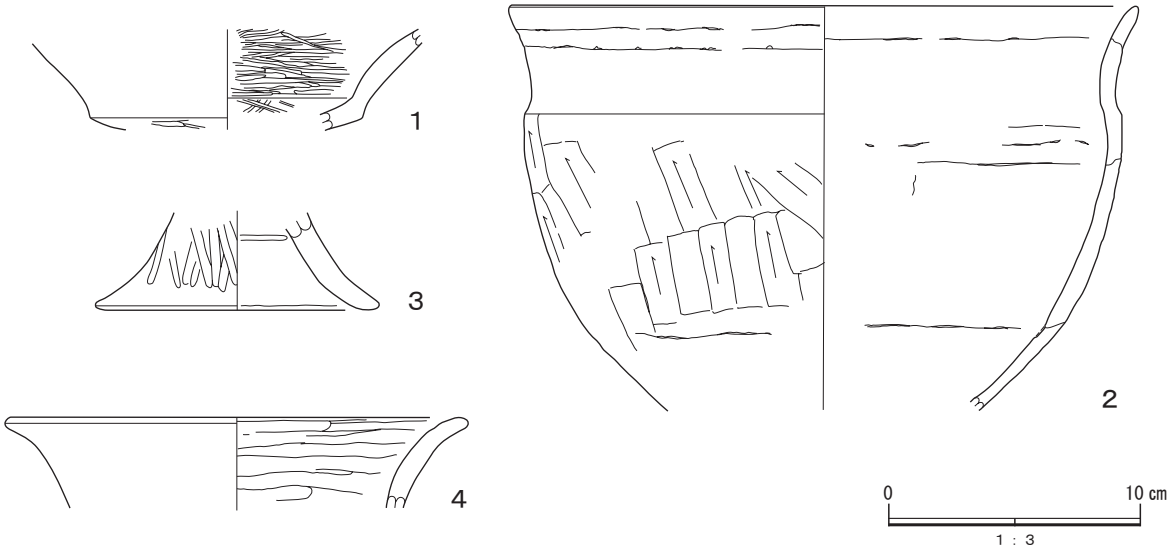
掘 り 方　検出されていない。

遺物出土状況　312 点，5294.6g の遺物が出土している。内訳は縄文土器の深鉢が 173 点，土師器坏類が 24 点，碗が１点，高坏が３点，鉢が１点，甕・壺類が 95 点，器種不明が６点，砂岩の礫が９点である。このうち４点を図示することができた。１は土師器の高坏の坏部である。２は胴部が丸みを帯び，口縁部が長い土師器の鉢である。３は外面にミガキが施される台付甕の脚部である。４は口縁部に横方向のミガキが施される土師器甕である。

所　　見　本跡は，当初第６号竪穴建物跡の北西隅部分と判断して調査を行っていたため，土層断面は調査区壁である南側でごく一部のみ確認している。また，本跡の時期は，出土した遺物から５世紀前葉から中葉頃と考えられる。



第 10 図　第２号竪穴建物跡



第 11 図　第２号竪穴建物跡出土遺物

第８表　第２号竪穴建物跡出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	種別	器種	残存部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
1	覆土	土師器	高坏	口縁部	5	－	－	〈4.0〉	体部外面丁寧なナデ後横方向ミガキ，内面丁寧なナデ後横方向ミガキ。	白色粒子・石英粒・長石粒	良好	2.5YR5/8 明赤褐色	
2	Ｎｏ１・２	土師器	鉢	口縁部～胴部	15	(24.8)	－	〈16.0〉	下位で窄まる器形，口縁部は長く僅かに外反する。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面斜方向へラケズリ後ナデ，内面ナデ。	白色・赤色粒子・石英粒・長石粒	良好	2.5YR6/6 橙色	
3	覆土	土師器	台付甕	脚部	15	－	10.2	〈3.8〉	脚部外面ナデ後縦方向ミガキ，内面ナデ。	白色粒子・石英粒・長石粒	良好	外面：5YR6/3 にぶい橙色 内面：2.5YR6/6 橙色	
4	No 3	土師器	甕	口縁部	5	(18.0)	－	〈3.7〉	口縁部外面ヨコナデ，内面ヨコナデ後横方向ミガキ。	白色・赤色粒子・石英粒・長石粒	良好	7.5YR7/4 にぶい橙色	

第３号竪穴建物跡

位　　置　調査区北西部，標高 19.32 m地点に位置する。本跡の北東部が調査区外にあり，西壁や南壁の一部，北西側が撹乱を受けていたため，その部分は検出することができなかった。

規模と形状　長軸 421 ㎝以上，短軸 387 ㎝の長方形と推定される。主軸方向はＮ－ 40°－Ｗを示す。壁高は上面をＩ層により削平されているため，立ち上がりを明確に確認できなかった。

重複関係　第７号土坑に先行する。

土　　層　２層に分けられるが，上面が削平され，遺存状態が浅いため，埋没状況は不明である。

床　　面　貼床は存在しない。概ね平坦で，本跡中央部で残存する部分はよく踏み固められているが，他は軟弱である。

壁　　溝　検出されていない。

カマド・炉　本跡中央部東寄りに地床炉が１基検出されている。平面形は不整楕円形で長軸 38 ㎝，短軸 34 ㎝，深さ３㎝の皿状を呈する。火床面は全面がやや起伏を持ち，赤変しているものの，硬化は弱い。

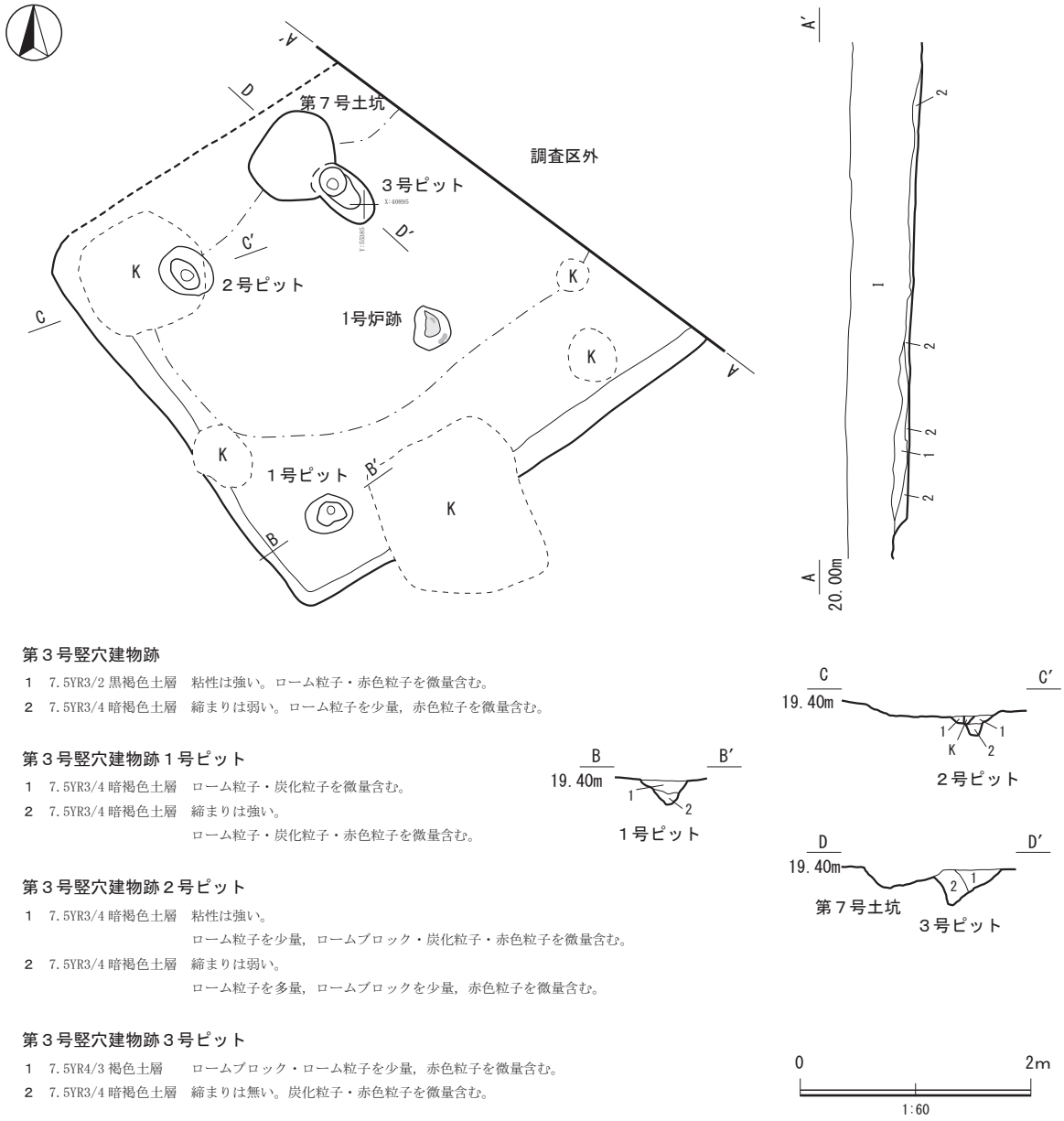
柱　　穴　３基検出された。各ピットの位置からどれも主柱穴であろう。このうち３号ピットの土層断面から柱抜き取り痕が確認されている。

貯 蔵 穴　検出されていない。

掘 り 方　検出されていない。

遺物出土状況　４点，179.3g の遺物が出土している。内訳は土師器甕・壺類が４点である。このうち２点を図示することができた。1・２は共にピットから出土し，ハケ目が施される土師器甕胴部である。

所　　見　出土した遺物がきわめて少量のため判断が難しいが，４世紀代と考えられる。



第３号竪穴建物跡

１　7.5YR3/2 黒褐色土層　粘性は強い。ローム粒子・赤色粒子を微量含む。

２　7.5YR3/4 暗褐色土層　締まりは弱い。ローム粒子を少量，赤色粒子を微量含む。

第３号竪穴建物跡１号ピット

１　7.5YR3/4 暗褐色土層　ローム粒子・炭化粒子を微量含む。

２　7.5YR3/4 暗褐色土層　締まりは強い。
ローム粒子・炭化粒子・赤色粒子を微量含む。

第３号竪穴建物跡２号ピット

１　7.5YR3/4 暗褐色土層　粘性は強い。
ローム粒子を少量，ロームブロック・炭化粒子・赤色粒子を微量含む。

２　7.5YR3/4 暗褐色土層　締まりは弱い。
ローム粒子を多量，ロームブロックを少量，赤色粒子を微量含む。

第３号竪穴建物跡３号ピット

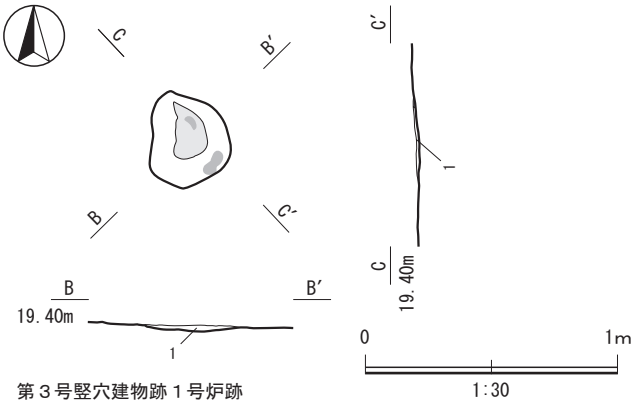
１　7.5YR4/3 褐色土層　ロームブロック・ローム粒子を少量，赤色粒子を微量含む。

２　7.5YR3/4 暗褐色土層　締まりは無い。炭化粒子・赤色粒子を微量含む。

第 12 図　第３号竪穴建物跡

第９表　第３号竪穴建物跡内部施設属性一覧

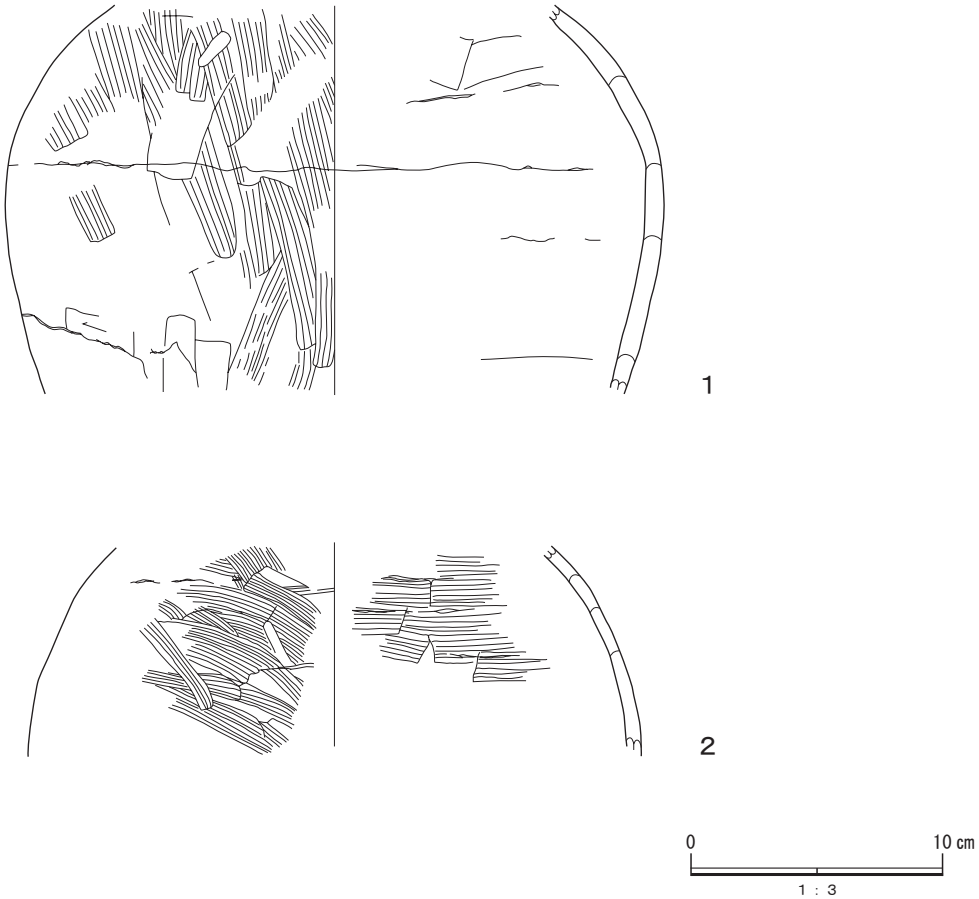
遺構番号	位置	平面形態	長径（cm）	短径（cm）	床面からの深さ（cm）	断面形態	切り合い関係	備考
１号ピット	南東側	楕円形	42	32	23	有段筒状	－	主柱穴
２号ピット	南西側	楕円形	48	39	22	中央部が窪む筒状	－	主柱穴。上面を撹乱で削平される
３号ピット	北西側	長楕円形	(60)	34	30	筒状	第７号土坑に先行する	主柱穴



第３号竪穴建物跡１号炉跡

１　5YR3/4 暗赤褐色土層　粘性は無い。焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含む。

第 13 図　第３号竪穴建物跡炉跡



第 14 図　第３号竪穴建物跡出土遺物

第 10 表　第３号竪穴建物跡出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	種別	器種	残存部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
1	ピット覆土中	土師器	甕	胴部	5	－	－	〈15.5〉	肩がやや張る器形。胴部外面縦および斜方向ハケ目後ナデ，内面横方向ヘラナデ後ナデ。	白色・赤色粒子・石英粒・長石粒・小礫	良好	5YR7/6 橙色	
2	ピット覆土中	土師器	甕	胴部	5	－	－	〈8.3〉	胴部外面斜方向ハケ目後ナデ，内面横方向ハケ目後ナデ。	白色・赤色・黒色粒子・石英粒・長石粒	良好	5YR6/6 橙色	

第４号竪穴建物跡

位　　置　調査中央部やや北西側，標高 19.15 m地点に位置する。本跡の北東隅および南東隅は調査区外であり，また南西壁に８号土坑が存在しているため，その部分は検出することができなかった。

規模と形状　長軸 646 cm，短軸 640 cmの方形を呈し，主軸方向はＮ－ 22°－Ｗを示す。壁高の最大高は 56 cmを測り，ほぼ垂直に立ち上がる。

重複関係　本跡南西壁際で第８号土坑に先行する。

土　　層　12 層に分けられ，レンズ状の自然埋没状況を示す。また，11 層には灰黄褐色粘土が含まれ，カマド崩落による流出土と思われる。

床　　面　ロームブロックを含む褐色土で構築された緻密で堅固な貼床が厚さ３cmから５cmほど貼られており，概ね平坦である。

壁　　溝　北東隅を除き検出された範囲で全周する。幅 12 cmから 34 cm，深さ５cmから８cmを測る。断面形は箱形状を呈する。

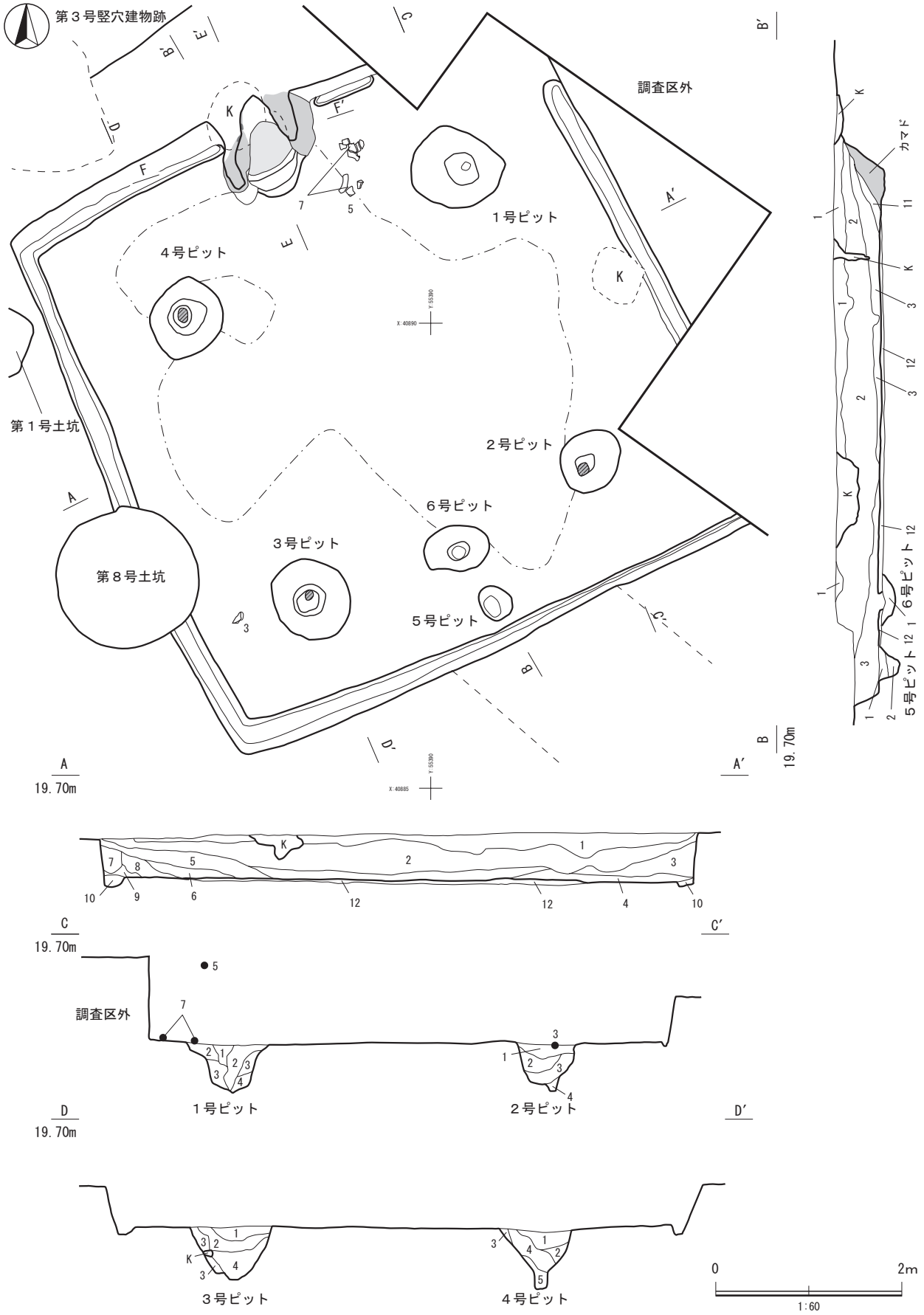
カマド・炉　北西壁中央部にカマドが位置し，にぶい黄橙色砂質粘土で構築されている。西袖部から煙道部にかけて撹乱が存在する。焚口部から煙道までは 110 cmを測る。天井部分は崩落しており，カマド土層断面図中の２・４・６・７層が崩落土と考えられる。また，東袖部は比較的良好に遺存しており，地山を残して造られる。また，内壁の一部が被熱により赤変していることが確認され，基部の最大幅は 60 cmを測る。火床部は床面から 21 cmほど掘り窪めて造られており，赤変するが硬化は弱い。煙道は壁外へ突出せずに造られ，火床面から丸味を帯び，急角度に立ち上がる。また，焚口部の前面にカマド袖部と同材質の粘土塊が検出されている。

柱　　穴　６基検出された。各ピットの位置から１号から４号ピットは主柱穴，５・６号ピットは出入口ピットと考えられる。２号から４号ピット底面には柱のアタリ痕，１号および４号ピットの土層断面では柱の抜き取り痕が確認できた。

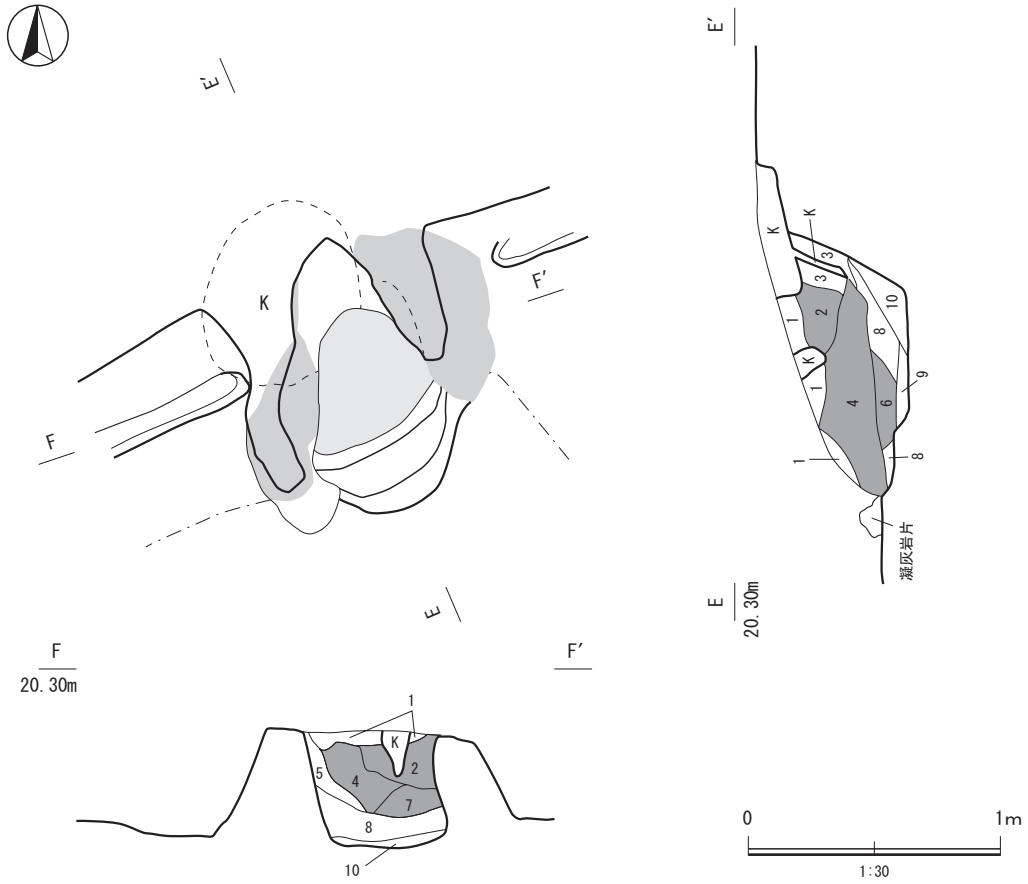
貯 蔵 穴　検出されていない。

掘 り 方　本跡隅やピット周囲を中心に床面から５cmから８cmの深さまで掘り込まれており，概ね平坦である。

遺物出土状況　781 点，8337.0g の遺物が出土している。内訳は縄文土器の深鉢が 190 点，石器が１点，弥生土器の甕・壺類が 11 点，土師器坏類が 121 点，碗が４点，高坏が１点，鉢が２点，甕・壺類が 386 点，甑が 13 点，器種不明が 48 点，石器は砥石が１点，陶器の碗が１点，炻器の甕が１点，石英の礫が１点である。このうち８



第 15 図　第４号竪穴建物跡



第４号竪穴建物跡カマド

1	7.5YR3/4 暗褐色土層	粘性は無い。ローム粒子を少量，ロームブロック・焼土粒子を微量含む。
2	10YR6/3 にぶい黄橙色土層	粘土粒子を多量，粘土ブロック・砂粒を少量，焼土粒子・小礫を微量含む。
3	10YR4/2 灰黄褐色土層	粘土ブロックを多量，粘土粒子・砂粒を少量，焼土ブロック・焼土粒子を微量含む。
4	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	締まりは強い。粘土ブロックを多量，粘土粒子・小礫・砂粒を少量，焼土ブロック・焼土粒子を微量含む。
5	10YR6/2 灰黄褐色土層	粘土ブロック・粘土粒子を多量，小礫・砂粒を少量，焼土ブロックを微量含む。
6	10YR6/4 にぶい黄橙色土層	粘性は無い。粘土ブロックを多量，粘土粒子・小礫・砂粒を少量，焼土ブロックを微量含む。
7	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	締まりは無い。粘土ブロックを多量，粘土粒子・砂粒を少量含む。
8	10YR6/2 灰黄褐色土層	粘土ブロック・粘土粒子を多量，砂粒を少量含む。
9	5YR4/3 にぶい赤褐色土層	焼土ブロック・焼土粒子・砂粒を少量，粘土ブロック・炭化粒子を微量含む。
10	5YR4/3 にぶい赤褐色土層	焼土ブロック・焼土粒子を多量，粘土粒子を少量，粘土ブロック・炭化粒子を微量含む。

第 16 図　第４号竪穴建物跡カマド

点を図示することができた。１から３は丸底の土師器坏である。１は口縁部が大きく開き，２・３は口縁部が内傾する器形である。また，３は内面に黒色処理及び放射状暗文が施される。４は土師器高坏坏部である。扁平で口縁部は短く直立する。内面に放射状の暗文が施される。５は土師器壺である。縁部中位に補強帯の様な粘土の貼り付けをもつ。６は土師器甕である。胴部は横方向へラケズリ後ナデを施される。７は土師器の甑である。単孔で，甕タイプの器形である。８は砂岩製の砥石である。自然礫を利用しており，砥面は４面以上を数える。

所　　見　出土した遺物から，６世紀中葉から後葉頃と考えられる。

第４号竪穴建物跡

1　7.5YR3/2 黒褐色土層　粘性は強いが，締まりは弱い。ローム粒子・炭化粒子を少量，炭化物・赤色粒子を微量含む。
2　7.5YR3/3 暗褐色土層　締まりは弱い。ローム粒・炭化粒子を少量，炭化物・焼土粒子・赤色粒子を微量含む。
3　7.5YR4/4 褐色土層　締まりは強い。ロームブロックを多量，ローム粒子・小礫を少量，焼土ブロック・焼土粒子・砂粒を微量含む。
4　7.5YR4/3 褐色土層　ロームブロックを多量，小礫を微量含む。
5　7.5YR4/4 褐色土層　粘性・締まりは強い。ロームブロック・ローム粒子を多量に含む。
6　7.5YR3/4 暗褐色土層　ロームブロックを少量，炭化物・炭化粒子・焼土ブロック・赤色粒子・小礫を微量含む。
7　7.5YR4/3 褐色土層　粘性は強い。ロームブロックを多量に含む。
8　7.5YR4/4 褐色土層　ロームブロック・ローム粒子を多量，小礫を少量含む。
9　7.5YR4/3 褐色土層　ロームブロックを多量，ローム粒子を少量，炭化物・小礫を微量含む。
10　7.5YR4/3 褐色土層　締まりは弱い。ローム粒子を少量含む。
11　10YR5/2 灰黄褐色土層　灰黄褐色粘土を多量，ロームブロック・焼土ブロック・砂粒少量，ローム粒子・小礫を微量含む。
12　10YR3/2 黒褐色土層　粘性は強い。ローム粒・炭化粒子を少量，焼土粒子を微量含む。

第４号竪穴建物跡１号ピット

1　7.5YR3/4 暗褐色土層　粘性は強いが，締まりは弱い。ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土ブロックを微量含む。
2　7.5YR3/4 暗褐色土層　粘性は強いが，締まりは弱い。ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土ブロックを微量含む。
3　7.5YR4/4 褐色土層　粘性は強い。ローム粒子を多量，ロームブロック・小礫を少量含む。
4　7.5YR4/3 褐色土層　粘性は強い。ロームブロック・ローム粒子を少量含む。

第４号竪穴建物跡２号ピット

1　7.5YR3/4 暗褐色土層　粘性は強い。ロームブロック・炭化粒子を微量含む。
2　7.5YR3/3 暗褐色土層　炭化粒子を少量，ローム粒子を微量含む。
3　7.5YR3/4 暗褐色土層　炭化粒子を少量，炭化物・焼土ブロックを微量含む。
4　7.5YR4/3 褐色土層　粘性は強い。ロームブロック・ローム粒子を少量含む。

第４号竪穴建物跡３号ピット

1　7.5YR3/4 暗褐色土層　炭化粒子を少量，ローム粒子を微量含む。
2　7.5YR3/3 暗褐色土層　粘性は強い。ローム粒子・炭化粒子・焼土ブロックを少量，炭化物・小礫を微量含む。
3　7.5YR4/3 褐色土層　ロームブロックを多量，ローム粒子を少量含む。
4　7.5YR4/4 褐色土層　ロームブロック・ローム粒子を少量含む。

第４号竪穴建物跡４号ピット

1　7.5YR3/4 暗褐色土層　ローム粒子を少量含む。
2　7.5YR3/3 暗褐色土層　粘土ブロック・小礫を少量，ローム粒子を微量含む。
3　7.5YR4/4 褐色土層　ローム粒子を多量，ロームブロックを少量，焼土ブロックを微量含む。
4　7.5YR3/3 暗褐色土層　小礫を少量，ローム粒子を微量含む。
5　7.5YR3/4 暗褐色土層　ロームブロック・炭化粒子を少量，ローム粒子・炭化物を微量含む。

第４号竪穴建物跡５号ピット

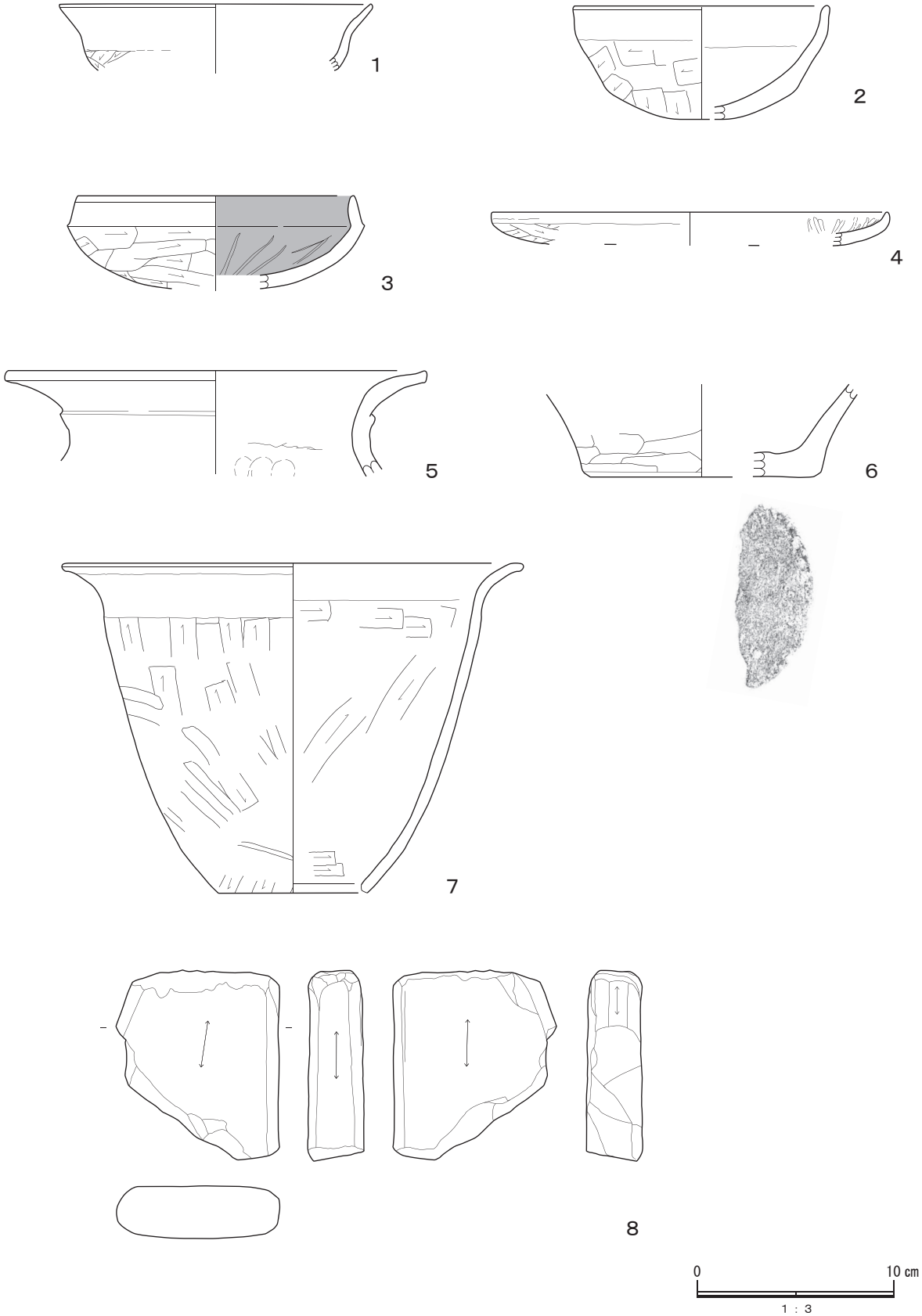
1　10YR3/3 暗褐色土層　ローム粒子を少量，ロームブロック・炭化粒子を微量含む。
2　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性は無い。ローム粒子を多量，ロームブロックを少量，小礫を微量含む。

第４号竪穴建物跡６号ピット

1　10YR3/4 暗褐色土層　粘性は強い。ロームブロックを少量，ローム粒子・炭化物を微量含む。

第 11 表　第４号竪穴建物跡内部施設属性一覧

遺構番号	位置	平面形態	長径（cm）	短径（cm）	床面からの深さ（cm）	断面形態	切り合い関係	備考
１号ピット	北側	不整円形	102	85	51	有段逆台形状	－	主柱穴，柱抜き取り痕
２号ピット	東側	楕円形	71	62	49	窪みをもつ筒状	－	主柱穴，圧痕
３号ピット	南側	楕円形	89	82	56	有段筒状	－	主柱穴，圧痕
４号ピット	西側	楕円形	90	77	61	窪みをもつ筒状	－	主柱穴，圧痕，柱抜き取り痕
５号ピット	南東側	楕円形	38	29	21	逆台形状	－	出入口ピット
６号ピット	南東側	楕円形	69	49	21	皿状	－	



第 17 図　第 4 号竪穴建物跡出土遺物

第 12 表　第４号竪穴建物跡出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	種別	器種	残存部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
1	２区 １層	土師器	坏	口縁部 ～体部	5	(15.6)	－	〈3.4〉	須恵器蓋坏模倣坏。口縁部長く外反，体部との境に稜を持たない。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面多方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ。	白色粒子	良 好	2.5YR5/8 明赤褐色	
2	１区	土師器	坏	口縁部 ～底部	25	(12.7)	－	5.7	丸底で深い須恵器蓋坏模倣坏。口縁部はやや開き，体部との境に稜は持たない。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面多方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ。	白色・赤色粒子・石英粒・長石粒	良 好	10YR7/4 にぶい黄橙色	
3	Ｎｏ５	土師器	坏	口縁部 ～体部	30	(13.7)	－	〈4.6〉	丸底で内面黒色処理が施された須恵器坏身模倣坏。口縁部は内傾して，体部との境に明瞭な稜。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面横方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ後１条１単位の粗い放射状暗文。	白色・黒色粒子	良 好	外面：10YR7/4 にぶい黄橙色 内面：10YR2/1 黒色	
4	４区 ４層	土師器	高坏	口縁部 ～体部	5	(20.0)	－	〈1.7〉	扁平で口縁部短く直立。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面斜方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ後１条１単位の放射状暗文。	白色粒子	良 好	10YR3/3 暗褐色	
5	Ｎｏ３	土師器	壺	口縁部 ～胴部	5	(20.8)	－	〈5.3〉	口縁部上位大きく外反，中位に補強帯。口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面指頭痕。	石英粒・長石粒・小礫	良 好	2.5YR5/8 明赤褐色	外面器面剥離顕著
6	４区 ２層	土師器	甕	胴部～ 底部	5	－	(11.0)	〈4.6〉	胴部横方向ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ。底部外面ナデ。	石英粒・長石粒	良 好	7.5YR6/4 にぶい橙色	
7	Ｎｏ １・２	土師器	甑	口縁部 ～底部 開口部	35	(29.0)	－	21.4	単孔。口縁部は大きく外反する。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面多方向ヘラケズリ後ナデ，内面多方向ヘラナデ後ナデ，下端ヘラケズリで整形。	白色粒子・石英粒・長石粒・小礫	良 好	10YR7/3 にぶい黄橙色	

第 13 表　第４号竪穴建物跡出土石器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	種別	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	石質	特徴	備考
8	覆土	石器	砥石	〈9.5〉	8.1	2.8	〈335.3〉	砂岩	自然礫を利用。砥面は４面以上	

第５号竪穴建物跡

位　　置　調査区中央部，標高 19.24 m地点に位置する。本跡北西部が調査区外に延びている。

規模と形状　長軸 496 cm，短軸 462 cmの方形を呈し，主軸方向は東西壁および南壁を基準にN－10°－Eを示す。壁高は最大高は 71 cmを測り，ほぼ垂直に立ち上がる。

重複関係　第５号土坑に先行する。

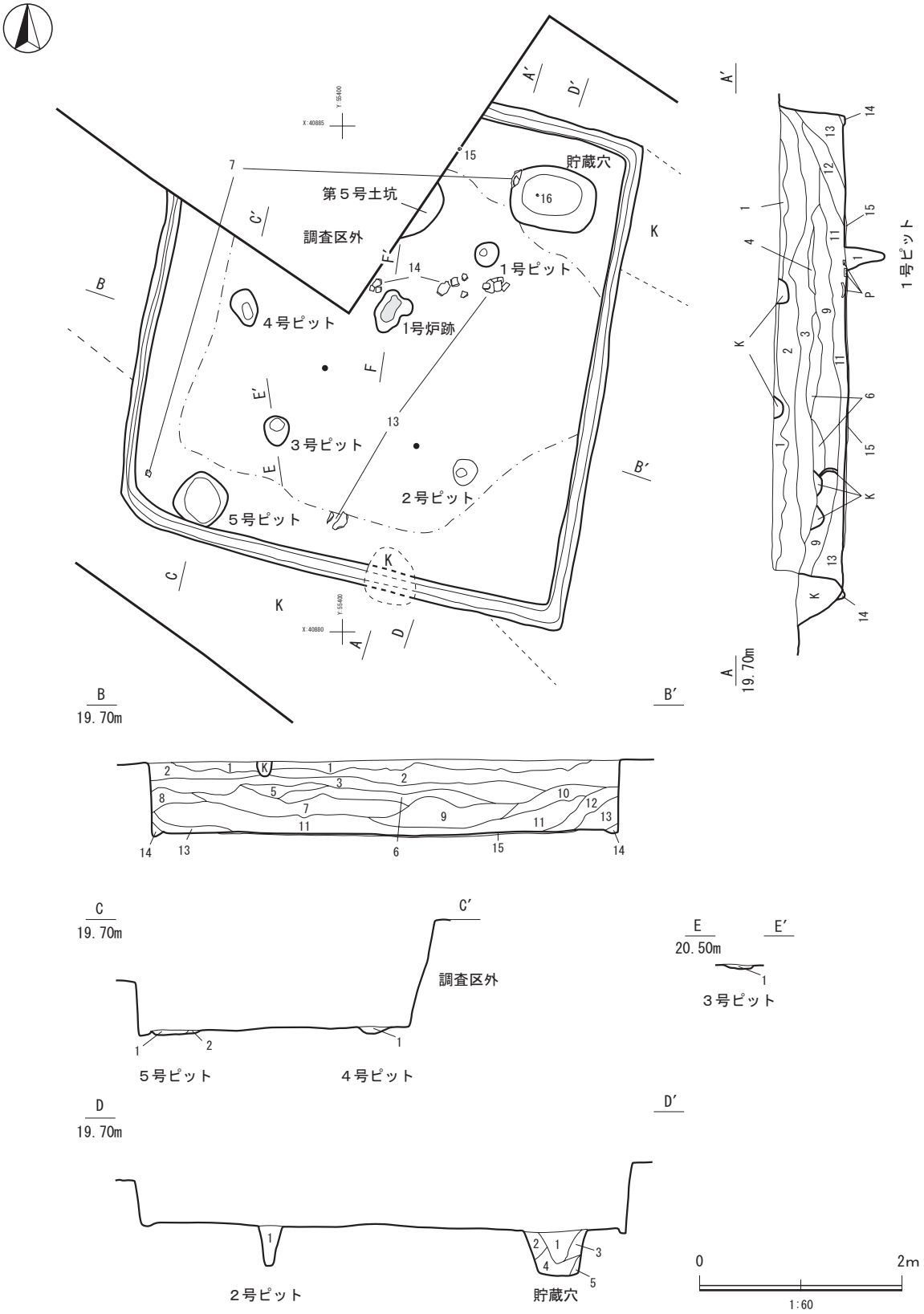
土　　層　15 層に分けられ，レンズ状の自然な埋没状況を示す。

床　　面　ロームブロックを含む褐色土により緻密で堅固な貼床が厚さ２cmから４cmほど貼られている。概ね平坦である。

壁　　溝　検出された範囲で全周し，幅８cmから 20 cm，深さ４cmから８cmを測る。断面形は皿状を呈する。

カマド・炉　本跡中央部やや北寄りに地床炉が１基検出されている。平面形は不整形で長軸 39 cm，短軸 32 cm，深さ２cmの皿状を呈する。火床面は全面が被熱により起伏に富み，赤変硬化が激しい。

柱　　穴　５基検出された。各ピットの位置から１号から３号ピットは主柱穴，５号ピットは出入口ピットと考えられる。



第 18 図　第５号竪穴建物跡

第５号竪穴建物跡

1　7.5YR3/3 暗褐色土層　粘性は強いが，締まりは弱い。炭化粒子を少量，ローム粒子・赤色粒子を微量含む。
2　7.5YR3/4 暗褐色土層　ロームブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子を微量含む。
3　7.5YR3/4 暗褐色土層　ローム粒子・炭化粒子を少量，ロームブロックを微量含む。
4　7.5YR3/4 暗褐色土層　粘性は強い。粘土ブロックを少量，ロームブロック・炭化物・焼土ブロック・赤色粒子を微量含む。
5　7.5YR3/4 暗褐色土層　ローム粒子を少量，ロームブロック・赤色粒子を微量含む。
6　7.5YR3/4 暗褐色土層　ロームブロックを少量，ローム粒子・赤色粒子を微量含む。
7　7.5YR3/4 暗褐色土層　ロームブロック・ローム粒子を少量，炭化物・炭化粒子・小礫・砂粒を微量含む。
8　7.5YR3/4 暗褐色土層　ロームブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子・小礫を微量含む。
9　7.5YR4/3 褐色土層　ロームブロックを多量，ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含む。
10　7.5YR3/3 暗褐色土層　炭化粒子・焼土ブロック・赤色粒子・小礫を微量含む。
11　7.5YR3/3 暗褐色土層　ロームブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土ブロック・焼土粒子・赤色粒子・砂粒を微量含む。
12　7.5YR3/4 暗褐色土層　ロームブロック・ローム粒子を少量，砂粒を微量含む。
13　7.5YR4/3 にぶい黄褐色土層　ロームブロック・ローム粒子を多量に含む。
14　7.5YR3/4 暗褐色土層　締まりは弱い。ローム粒を少量，炭化粒子を微量含む。
15　7.5YR4/4 褐色土層　粘性は強い。ロームブロック・ローム粒子を多量，小礫を微量含む。

第５号竪穴建物跡貯蔵穴

1　7.5YR3/4 暗褐色土層　締まりは弱い。炭化粒子を多量，ロームブロック・ローム粒子・炭化物を少量，焼土粒子を微量含む。
2　7.5YR3/4 暗褐色土層　締まりは弱い。ローム粒子・炭化物・炭化粒子を少量，焼土粒子を微量含む。
3　7.5YR3/3 暗褐色土層　ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含む。
4　7.5YR3/ ３暗褐色土層　ローム粒子を多量，炭化粒子・焼土粒子を微量含む。
5　7.5YR4/4 褐色土層　ローム粒子を多量，ロームブロックを少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含む。

第５号竪穴建物跡１号ピット

1　7.5YR3/3 暗褐色土層　ローム粒子を少量，ロームブロック・炭化粒子を微量含む。

第５号竪穴建物跡２号ピット

1　7.5YR3/3 暗褐色土層　ローム粒子を少量，ロームブロック・炭化粒子を微量含む。

第５号竪穴建物跡３号ピット

1　7.5YR3/4 暗褐色土層　ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含む。

第５号竪穴建物跡４号ピット

1　7.5YR3/3 暗褐色土層　ローム粒子・炭化粒子・小礫を少量含む。

第５号竪穴建物跡５号ピット

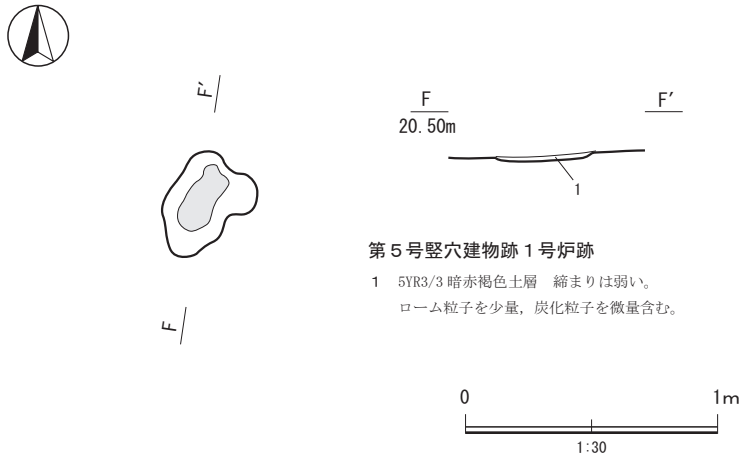
1　7.5YR3/3 暗褐色土層　締まりは弱い。ローム粒子・炭化粒子・小礫（径５～10㎝）・砂粒を少量含む。
2　7.5YR4/4 褐色土層　粘性は強い。ローム粒・小礫（径２～３㎝）を多量に含む。

貯 蔵 穴　本跡北東部壁際に検出された。底面は平坦であるが，硬化していない。

掘 り 方　本跡隅を中心に床面から５㎝から 12 ㎝の深さまで掘り込まれている。

遺物出土状況　794 点，11379.8g の遺物が出土している。内訳は縄文土器の深鉢が 58 点，弥生土器の甕・壺類が 13 点，須恵器蓋坏が１点，土師器坏類が 233 点，高坏が２点，鉢が５点，甕・壺類が 436 点，器種不明が 44 点，土製品は紡錘車が２点である。１は東海系と考えられる須恵器の蓋坏である。端部が僅かに広がる器形である。２から 10 は土師器坏である。２は体部が直線的で平底の坏である。３から 10 は丸底である。３は口縁部が直立する器形で，４は口縁部が内湾し，体部が丸みを帯びる器形である。５から７は口縁部が長く大きく開く器形で，須恵器蓋坏模倣坏である。８は須恵器の坏身模倣坏で，口縁部が長く直立する。９は口縁部が内傾する須恵器坏身模倣坏である。10 は体部のみ残存するが，内面に黒色や赤色の付着物が認められる。11・12 は土師器高坏の坏部である。11 は体部の厚みなどから高坏と判断した。13・14 は土師器壺である。14 は球胴状を呈する。15・16 は土製紡錘車である。15 は断面形が逆台形状を呈し，16 は貯蔵穴の底面出土で方形を呈する。

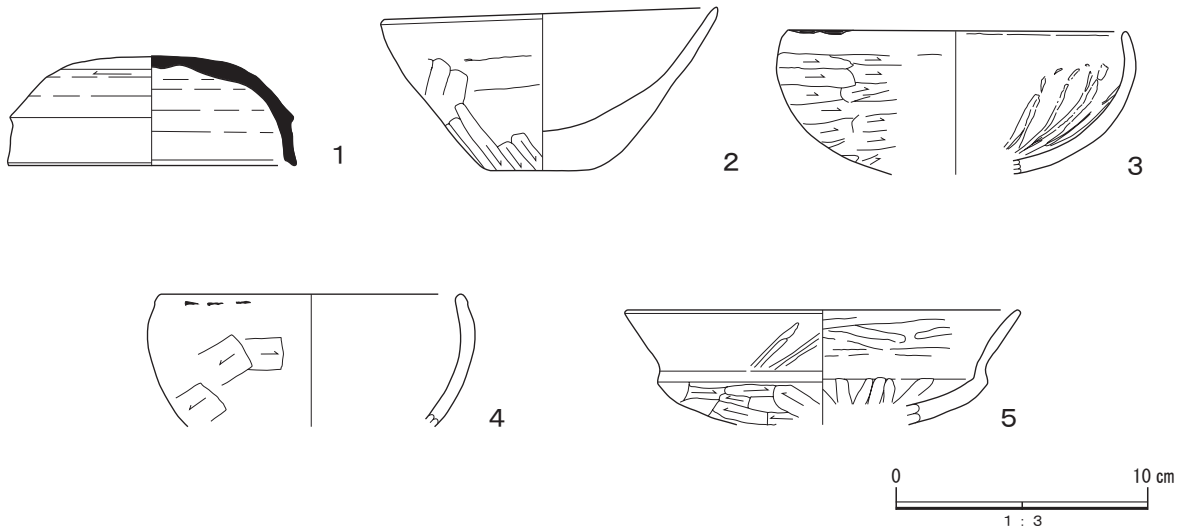
所　　見　南東隅周溝上面に焼土粒子が集中する箇所が検出されたが，周溝埋没の過程で混入している様相が見て取れ，範囲が限定的で壁面に被熱部分などは確認されていないことなどから，本跡に伴わない時期のものと判断した。時期は，出土した遺物から５世紀後葉から６世紀前葉頃と考えられる。



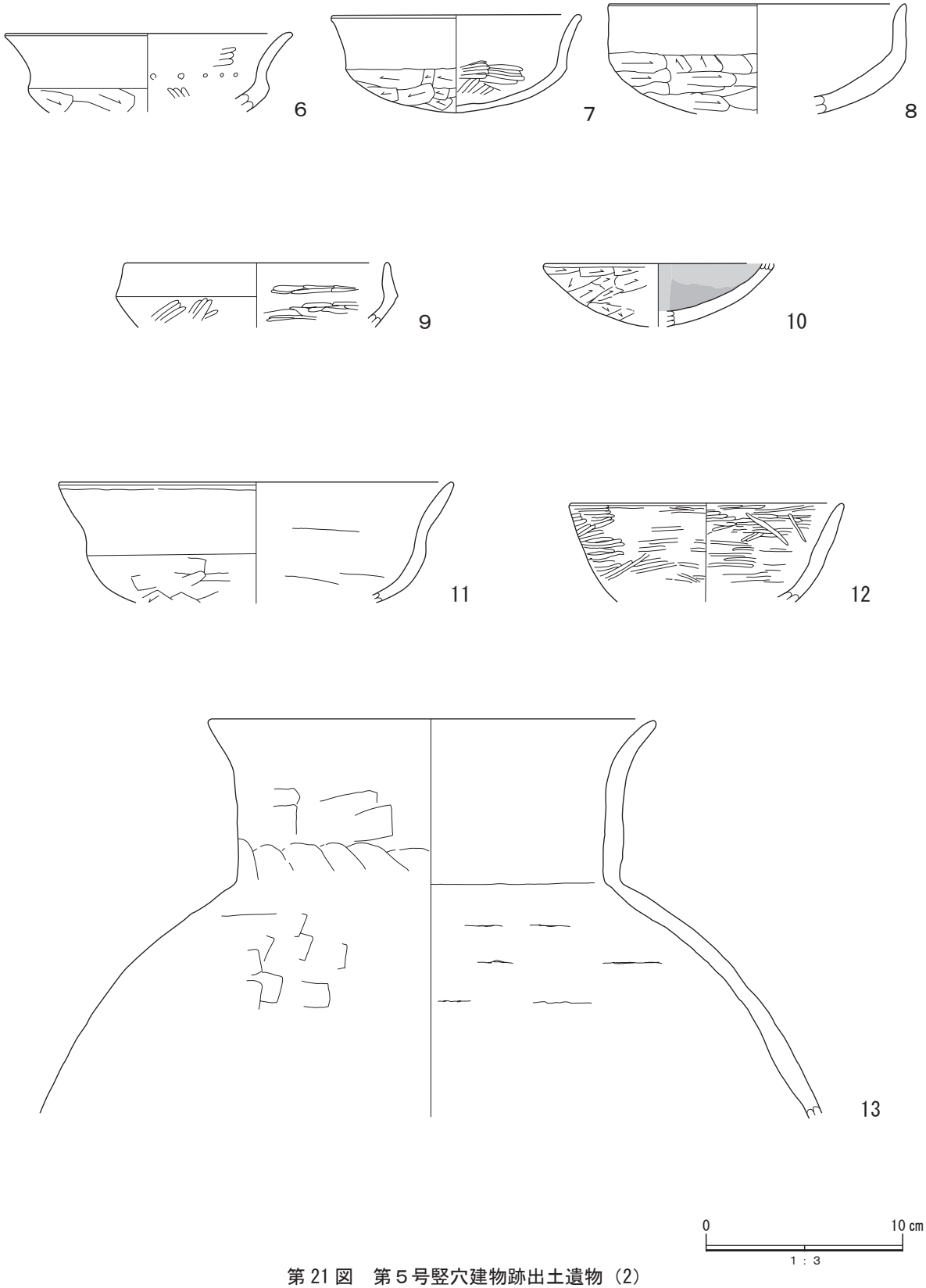
第 19 図　第５号竪穴建物跡炉跡

第 14 表　第５号竪穴建物跡内部施設属性一覧

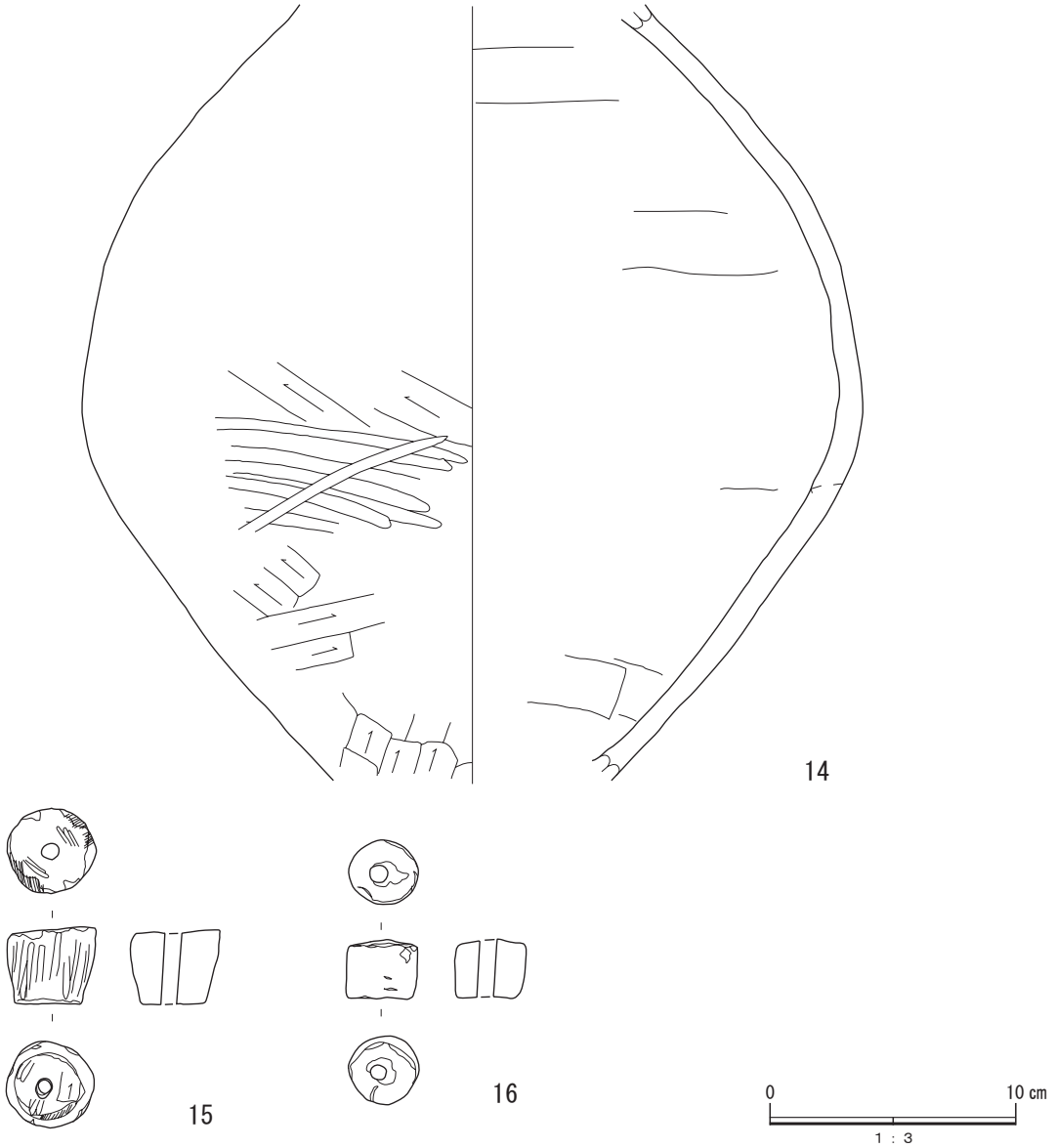
遺構番号	位置	平面形態	長径（cm）	短径（cm）	床面からの深さ（cm）	断面形態	切り合い関係	備考
貯蔵穴	北東側隅	隅丸長方形	85	63	44	逆台形状	－	主軸方向 N － 77°－W
１号ピット	北東側	楕円形	27	23	39	逆台形状	－	主柱穴
２号ピット	南東側	円形	23	－	40	逆台形状	－	主柱穴
３号ピット	南西側	円形	27	－	4	皿状	－	主柱穴
４号ピット	北西側	不整楕円形	37	25	9	皿状	－	
５号ピット	南西側	隅丸正方形	49	－	40	有段筒状	－	出入口ピット



第 20 図　第５号竪穴建物跡出土遺物（1）



第 21 図　第５号竪穴建物跡出土遺物（2）



第 22 図　第５号竪穴建物跡出土遺物（3）

第 15 表　第５号竪穴建物跡出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	種別	器種	残存部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
1	４区	須恵器	蓋坏	天井部～端部	25	(11.3)	―	4.3	天井部外面上位回転方向不明のヘラケズリ，中位以下回転ナデ，内面回転ナデ。端部が僅かに広がる。	石英粒・長石粒・小礫	良好	N 4/0 灰色	東海系
2	１・４区４層	土師器	坏	口縁部～底部	75	13.2	4.3	6.5	体部が直線的に口縁部に向かい外反する器形。平底。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面斜方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ。底部外面ナデ。	白色・赤色粒子・石英粒	良好	5YR6/6 橙色	
3	４区２層	土師器	坏	口縁部～底部	20	(13.4)	―	〈5.8〉	球胴状で丸底。口縁部短く直立して，体部との境に稜を持たない。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面横方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ後２条１単位の放射状暗文。	白色粒子	良好	2.5YR4/8 赤褐色	口唇部に煤付着

図版番号	出土地点遺構	種別	器種	残存部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
4	４区４層	土師器	坏	口縁部～体部	15	(11.8)	－	〈5.3〉	口縁部内湾，体部丸味を帯びる器形。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面多方向ヘラケズリ後ナデ,内面丁寧なナデ。	黒色粒子・石英粒・長石粒・白雲母片	良好	5YR6/6 橙色	
5	２区３層	土師器	坏	口縁部～体部	15	(15.5)	－	〈4.6〉	須恵器蓋坏模倣坏。口縁部は長く大きく外反，体部との境に不明瞭な稜。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面多方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ。	白色粒子・石英粒・長石粒	良好	10R5/6 赤色	
6	３・４区２層	土師器	坏	口縁部～体部	10	(14.4)	－	〈4.0〉	須恵器蓋坏模倣坏。口縁部は長く大きく外反，体部との境に明瞭な稜。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面斜方向ヘラケズリ，内面丁寧なナデ。	黒色粒子・石英粒・長石粒・白雲母片・小礫	良好	5YR6/6 橙色	
7	Ｎｏ８・９	土師器	坏	口縁部～底部	50	12.4	－	5.0	丸底の須恵器蓋坏模倣坏。口縁部長く外反，体部との境に不明瞭な稜。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面多方向ヘラケズリ，内面丁寧なナデ後多方向ミガキ。	白色粒子・石英粒・長石粒・白雲母片・小礫	良好	5YR5/6 明赤褐色	
8	１区４層	土師器	坏	口縁部～体部	15	(15.0)	－	〈5.6〉	須恵器坏身模倣坏。口縁部が長く直立，体部との境に稜を持たない。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面横方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ。	白色・黒色粒子・石英粒・長石粒・白雲母片	良好	10R5/6 赤色	
9	３区	土師器	坏	口縁部～体部	10	(13.2)	－	〈3.3〉	須恵器坏身模倣坏。口縁部内傾して体部との境に明瞭な稜。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面斜方向ヘラケズリ後斜方向ミガキ，内面横方向ミガキ。	黒色粒子・石英粒・白雲母片	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	
10	４区４層	土師器	坏	体部	10	－	－	〈3.2〉	体部のみ残存。体部外面多方向ヘラケズリ後ナデ，内面全面に黒色および赤色付着物。	白色粒子	良好	5YR5/6 明赤褐色	
11	１区３層	土師器	高坏坏部	口縁部～体部	5	(19.8)	－	〈6.1〉	口縁部は長く大きく外反，体部との境に明瞭な稜。口縁部外面ヨコナデ後一部斜方向ミガキ，内面ヨコナデ後横方向ミガキ。体部外面横方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ	白色・赤色粒子・石英粒	良好	5YR6/6 橙色	
12	３区２層	土師器	高坏坏部	口縁部～体部	10	(13.8)	－	〈5.0〉	口縁部内外面丁寧なナデ後横方向ヘラミガキ。	白色粒子・石英粒	良好	5YR5/6 明赤褐色	
13	Ｎｏ１・５	土師器	壺	口縁部～胴部	20	22.4	－	〈20.2〉	口縁部長く上端が外反。内外面横方向ヘラケズリ後ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ後ナデ。	石英粒・長石粒・小礫	良好	5YR6/6 橙色	内外面器面剥離顕著
14	Ｎｏ１・７	土師器	壺	胴部	15	－	－	〈31.4〉	球胴状を呈する。胴部外面中央部より上位斜方向ヘラケズリ後ナデ，下位斜方向ミガキおよび多方向ヘラケズリ，内面横方向ヘラナデ後ナデ。	赤色粒子・石英粒・長石粒	良好	5YR6/6 橙色	

第 16 表　第５号竪穴建物跡出土土製品属性一覧

図版番号	出土地点遺構	種別	器種	残存率（%）	径（cm）	厚さ（cm）	孔径（cm）	重量（g）	文様・調整	胎土	焼成	色調	備考
15	Ｎｏ 10	土製品	紡錘車	100	3.6	3.1	0.7	48.4	焼成前穿孔，断面逆台形。全面を丁寧なナデ後ミガキ。	石英粒・長石粒・小礫	良好	5YR5/6 明赤褐色	
16	Ｎｏ６	土製品	紡錘車	100	2.8	2.3	0.7	23.1	焼成前穿孔，断面方形。全面を丁寧なナデ。	白色・黒色粒子・石英粒・長石粒	良好	10YR6/6 明黄褐色	

第６号竪穴建物跡

位　　置　調査区北西部，標高 19.32 m地点に位置する。本跡西部が調査区外にあり，上面に第１号溝跡が存在しており，その部分は検出することができなかった。

規模と形状　長軸 514 ㎝，残存短軸 435 ㎝の方形を呈し，主軸方向はＮ－８°－Ｅを示す。壁高の最大高は 50 ㎝を測り，急角度で立ち上がる。

重複関係　第１号溝跡に先行し，第２号竪穴建物跡に後続する。

土　　層　６層に分けられ，レンズ状の自然な埋没状況を示す。

床　　面　緻密だが軟弱なロームブロックを含む褐色土で構築された貼床が厚さ１㎝から２㎝ほど貼られている。概ね平坦である。

壁　　溝　検出されていない。

カマド・炉　北壁中央部にカマドが位置する。黄灰色シルトで構築されている。カマドの主軸方向はＮ－ 13°－Ｅを示し，本跡の主軸方位とは５°ほど東に傾く。焚口部から煙道部までは 101 ㎝を測る。天井部分は崩落しており，カマド土層断面図中の３層が天井部である。また，袖部は比較的良好に遺存しており，黄灰色砂質粘土で構築している。また，内壁の一部が被熱により赤変していることが確認され，基部の最大幅は 86 ㎝を測る。火床部は床面から 33 ㎝ほど掘り窪めて造られており，赤変するが硬化は弱い。煙道は壁外に 20 ㎝ほど削り出して造られ，火床面から煙道は緩やかに立ち上がる。

柱　　穴　検出されていない。

貯 蔵 穴　本跡北東部壁際に検出された。底面は平坦であるが，硬化していない。遺物は土師器の甕･壺類を中心に 152 点出土している。図示した４が底部で出土している。

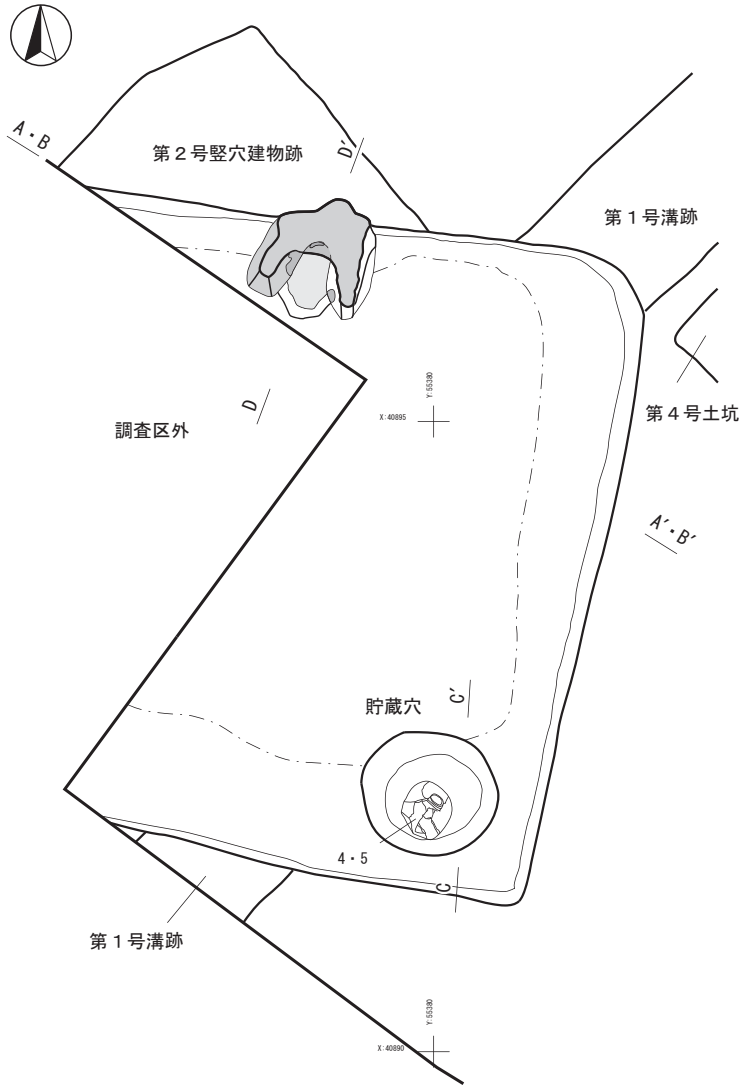
掘 り 方　中央部の貼床部分を中心に床面から１㎝から３㎝の深さまで掘り込まれている。

遺物出土状況　779 点，15,901.6g の遺物が出土している。内訳は縄文土器の深鉢が 327 点，石器が３点，弥生土器の甕・壺類が８点，土師器坏類が 84 点，高坏が１点，甕・壺類が 311 点，器種不明が 45 点である。このうち５点を図示することができた。１から３は丸底で口縁部が長く外反する須恵器蓋坏模倣坏である。１・３は内面に放射状の暗文が施されカマド出土である。４は貯蔵穴出土で扁平な算盤球状の土師器壺である。５も貯蔵穴出土で底部に木葉痕をもつ肥厚する土師器甕底部である。

所　　見　時期は出土した遺物や切り合い関係により，6 世紀前葉頃と考えられる。

第 17 表　第６号竪穴建物跡内部施設属性一覧

遺構番号	位置	平面形態	長径（㎝）	短径（㎝）	床面からの深さ（㎝）	断面形態	切り合い関係	備考
貯蔵穴	南東隅	楕円形	100	97	60	逆台形状	第１号溝跡に先行	主軸方向Ｎ－ 88°－Ｗ

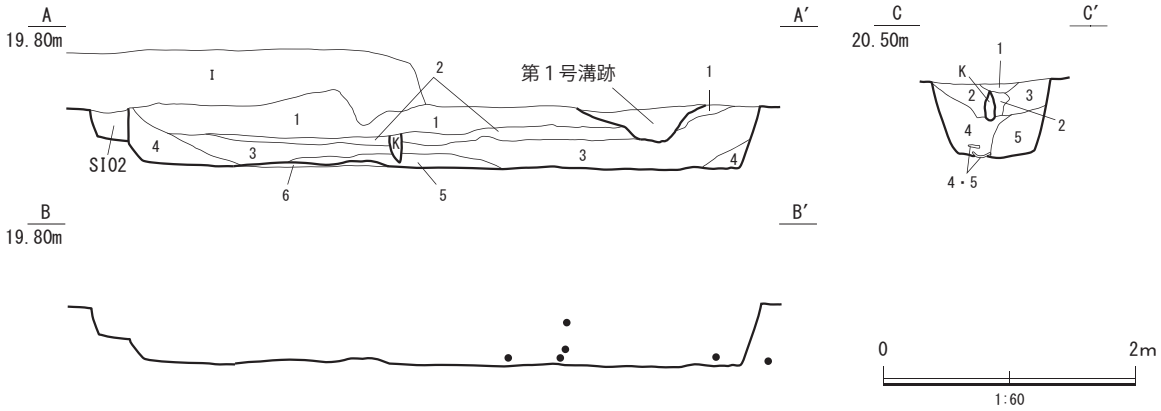


第６号竪穴建物跡

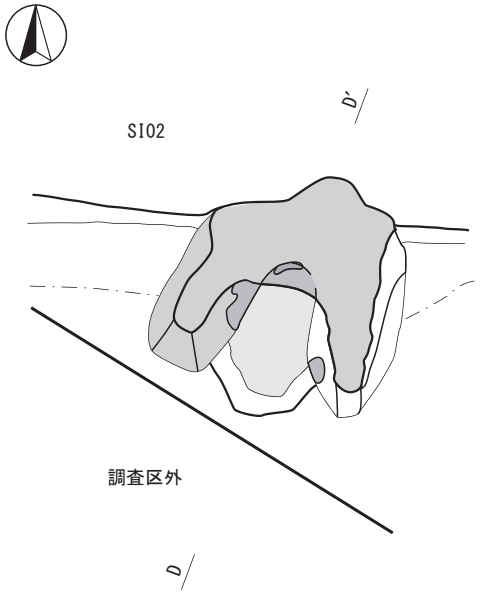
1　7.5YR3/3 暗褐色土層　粘性は強い。
　　ロームブロック・赤色粒子・小礫を微量含む。
2　7.5YR3/4 暗褐色土層　ロームブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子・赤色粒子・小礫を微量含む。
3　7.5YR3/4 暗褐色土層　締まりは強い。
　　ロームブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子・赤色粒子を微量含む。
4　7.5YR4/3 褐色土層　粘性は強い。
　　ロームブロック・ローム粒子を少量含む。
5　10YR3/2 黒褐色土層　粘性は強い。
　　ローム粒子・炭化粒子を少量，焼土粒子を微量含む。
6　7.5YR4/4 褐色土層　粘性は強い。
　　ロームブロック・ローム粒子を多量に含む。

第６号竪穴建物跡貯蔵穴

1　7.5YR4/3 褐色土層　締まりは強い。
　　ロームブロック・ローム粒子を少量，赤色粒子・小礫を微量含む。
2　7.5YR3/4 暗褐色土層
　　炭化粒子を少量，ローム粒子・赤色粒子を微量含む。
3　7.5YR3/4 暗褐色土層
　　ローム粒子を少量，赤色粒子を微量含む。
4　7.5YR3/3 暗褐色土層　粘性は強い。
　　ロームブロック・炭化粒子・赤色粒子を微量含む。
5　7.5YR3/3 暗褐色土層　締まりは強い。
　　ロームブロック・炭化粒子を少量，ローム粒子・赤色粒子・小礫を微量含む。

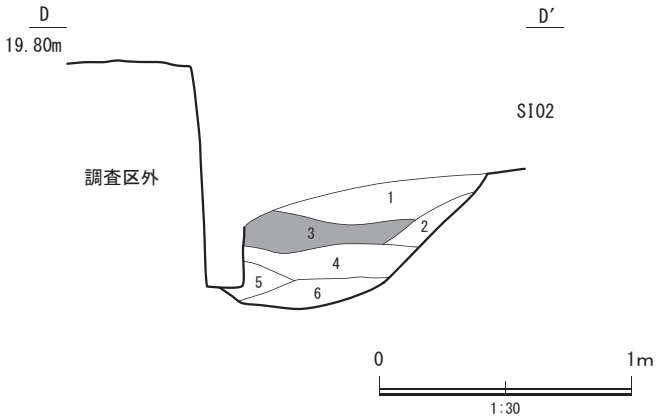


第 23 図　第６号竪穴建物跡

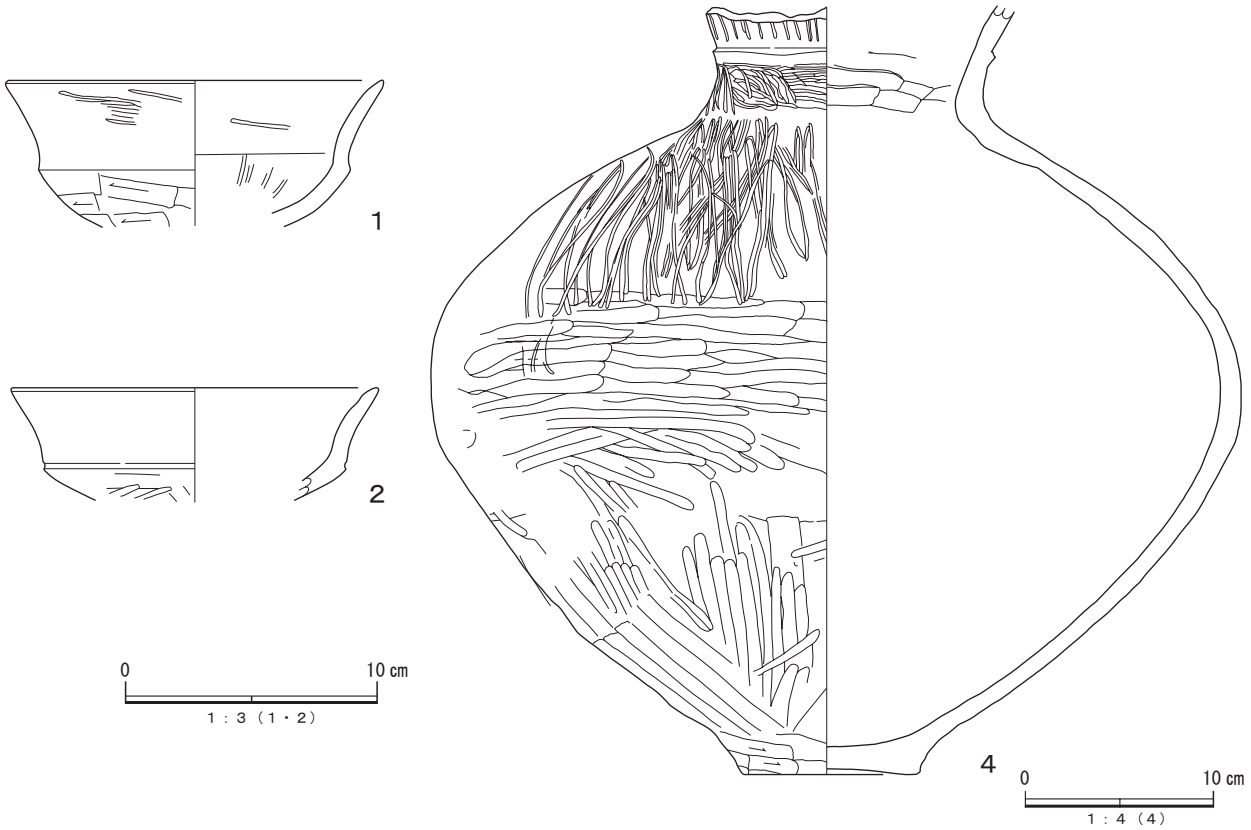


第６号竪穴建物跡カマド

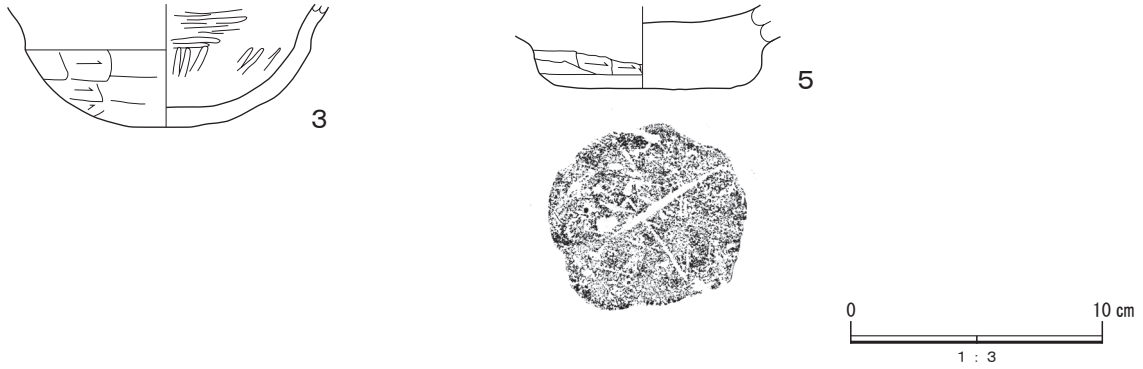
1　7.5YR3/4 暗褐色土層
　　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子を少量含む。
2　7.5YR5/8 褐色土層
　　ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
3　2.5Y6/1 黄灰色シルト層　粘性は強いが，締まりは無い。
　　粘土ブロックを多量に，ローム粒子・焼土粒子を微量含む。
4　5YR5/3 にぶい赤褐色土層
　　焼土ブロック・焼土粒子を少量，炭化物を微量含む。
5　5YR4/3 にぶい赤褐色土層
　　焼土ブロック・焼土粒子を少量，炭化粒子を微量含む。
6　5YR3/3 暗赤褐色土層　粘性・締まり共に無し。
　　焼土ブロックを多量，焼土粒子を少量，炭化粒子を微量含む。



第 24 図　第６号竪穴建物跡カマド



第 25 図　第６号竪穴建物跡出土遺物（1）



第 26 図　第６号竪穴建物跡出土遺物（2）

第 18 表　第６号竪穴建物跡出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	種別	器種	残存部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
1	カマド１層	土師器	坏	口縁部～体部	20	(14.6)	－	〈5.8〉	丸底の須恵器蓋坏模倣坏。口縁部外反して体部との境に明瞭な稜。口縁部内外面ヨコナデ後横方向ミガキ。体部外面横方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ後放射状の暗文。	白色粒子・石英粒・長石粒・小礫	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	
2	４区	土師器	坏	口縁部～体部	5	(14.4)	－	〈4.5〉	丸底の須恵器蓋坏模倣坏。口縁部は長く大きく外反,体部との境に明瞭な稜。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面器面の剥離のため不明。	白色粒子・石英粒・長石粒	良好	2.5YR6/6 橙色	器面の剥離顕著
3	カマド１層	土師器	坏	口縁部～底部	30	－	－	〈4.7〉	丸底の須恵器蓋坏模倣坏。口縁部外面ヨコナデ，内面ヨコナデ後横方向ミガキ。体部外面横方向ヘラケズリ，内面丁寧なナデ後放射状の暗文。	白色粒子・石英粒・白雲母片	良好	2.5YR6/6 橙色	
4	貯蔵穴 Ｎｏ７	土師器	壺	胴部～底部	65	－	9.5	〈40.7〉	扁平な算盤球状を呈する。底部突出，口縁部下位補強帯を巡らす。口縁部内外面ヨコナデ後外面縦方向ミガキ。頸部外面多方向ミガキ,内面ヘラケズリ。胴部外面上位ナデ後縦方向ミガキ，中位横方向ヘラケズリ後ナデ，下位縦方向ミガキ様ヘラケズリ，下端横方向ヘラケズリ。内面ナデ。	白色粒子・石英粒・長石粒・白雲母片	良好	2.5YR6/6 橙色	
5	貯蔵穴 Ｎｏ７	土師器	甕	底部	5	－	7.1	〈3.3〉	肥厚する底部。外面横方向ヘラケズリ，内面ナデ。底部外面木葉痕。	赤色粒子・石英粒・長石粒・白雲母片	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	

第７号竪穴建物跡

位　　置　調査区中央部やや南東側，標高 19.12 m地点に位置する。本跡の北西隅および東部が調査区外にあり，その部分は検出することができなかった。

規模と形状　長軸 838 cm，残存短軸 542 cmの方形を呈し，主軸方向はＮ－ 17°－Ｅを示す。壁高の最大高は 64 cmを測り，垂直に立ち上がる。

重複関係　単独で存在する。

土　　層　20 層に分けられ，レンズ状の自然な埋没状況を示す。

床　　面　緻密だが軟弱な貼床が厚さ２cmから４cmほど貼られている。概ね平坦である。

壁　　溝　西側の一部を除いて，ほぼ検出された範囲で周回し，幅 10 cmから 27 cm，深さ２cmから４cmを測る。断面形は筒状である。

カマド・炉　本跡北壁中央部に位置し，黄灰色砂質粘土で構築されている。カマドの主軸方向はＮ－22°－Ｅを示し，本跡の主軸方位とは５°ほど東に傾く。焚口部から煙道部までは146㎝を測る。天井部は崩落しており，カマド土層断面図中の４層が崩落土と考えられる。また，袖部は比較的良好に遺存しており，内壁が被熱により赤変硬化していることが確認された。基部の最大幅は57㎝を測る。火床部は床面から３㎝ほど掘り窪めて造られており，ゴツゴツと赤変硬化している。煙道は壁外に22㎝程削り出して造られ,火床面から煙道は緩やかに立ち上がる。また,遺物が多量に出土しており，土師器の壺や袖部の芯材として利用されていたと思われる凝灰岩などが確認された。

柱　　穴　２基検出された。各ピットの位置からどちらも主柱穴と考えられる。１号ピットの土層断面には柱痕跡が確認された。

貯 蔵 穴　検出されていない。

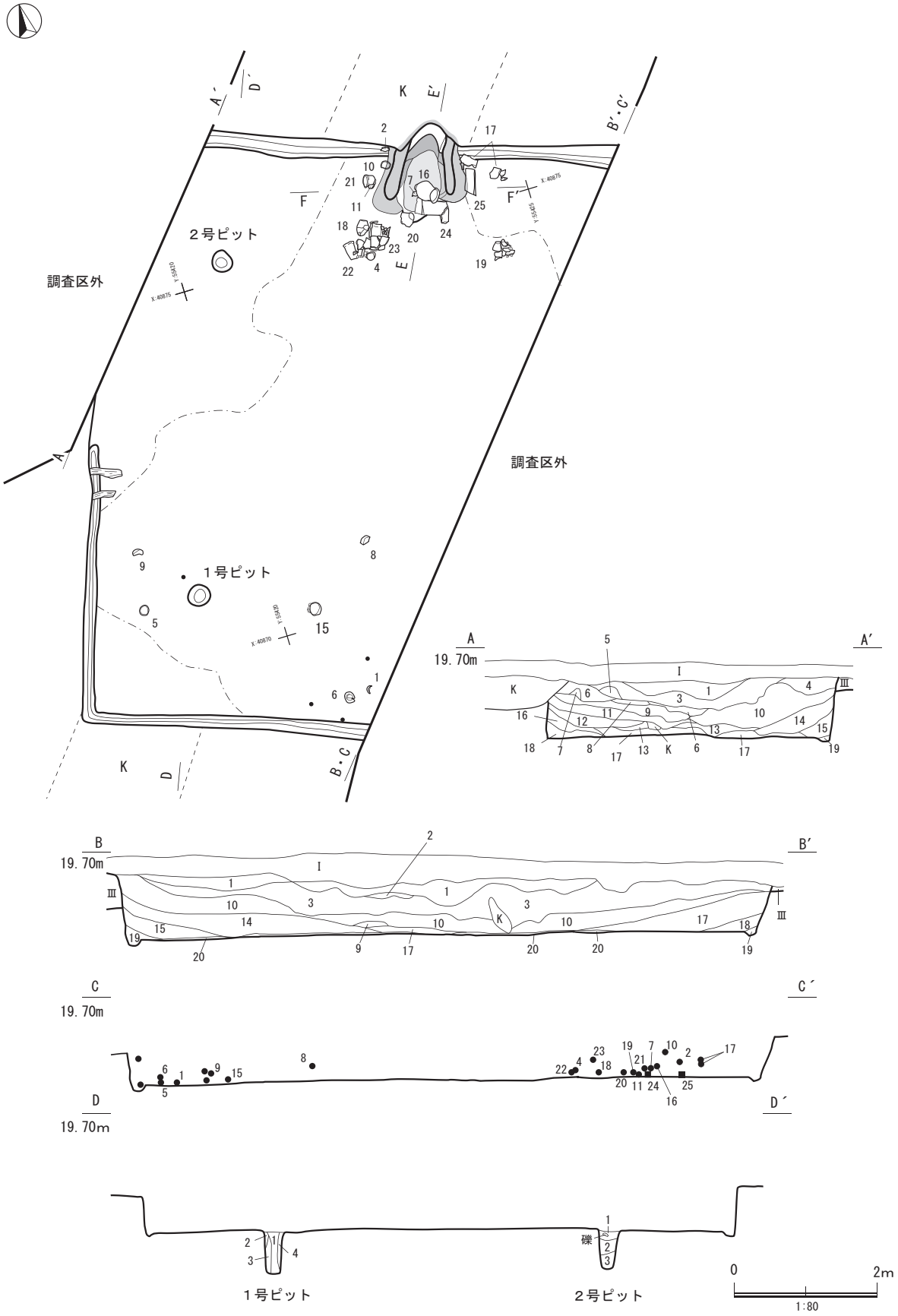
掘 り 方　検出されていない。

遺物出土状況　658点，31,836.7gの遺物が出土している。内訳は縄文土器の深鉢が119点，石器が４点，土師器の坏類が59点，坩が14点，高坏が４点，鉢が５点，甕・壺類が383点，甑が42点，器種不明が28点出土している。このうち25点を図示することができた。１から10は丸底の土師器坏である。１から３は器形が半球状である。４から10は須恵器模倣坏である。４・５は口縁部が内傾や内湾する。６から９は口縁部が外反あるいは外傾する。また，１・４・６・７・９の内面は放射状の暗文が施される。11は丸底で最大径は体部中位となる土師器の坩である。12から14は土師器の高坏である。12・13は高坏坏部で，口縁部は短く直立している。14は柱状中実の高坏脚部である。15は最大径が口縁部にある土師器鉢である。16から19は土師器壺である。16・17の最大径は胴部中位にあり，17は器形が球胴状となる。18は最大径は胴部にあり，19は最大径が胴部中位にある。20は土師器甕である。底部が突出しており，胴部外面は斜め方向の粗いミガキが施される。21から23は土師器甑である。すべて単孔で，21は鉢型，22・23は甕型である。24・25はカマドの芯材として再利用されていた縄文時代の台石と凹石である。24は向かって左側の袖部，25はカマドの前庭部で利用されていた。また，図示はできなかったが，本跡西壁際において，炭化物が２点壁に寄りかかる様に出土している。

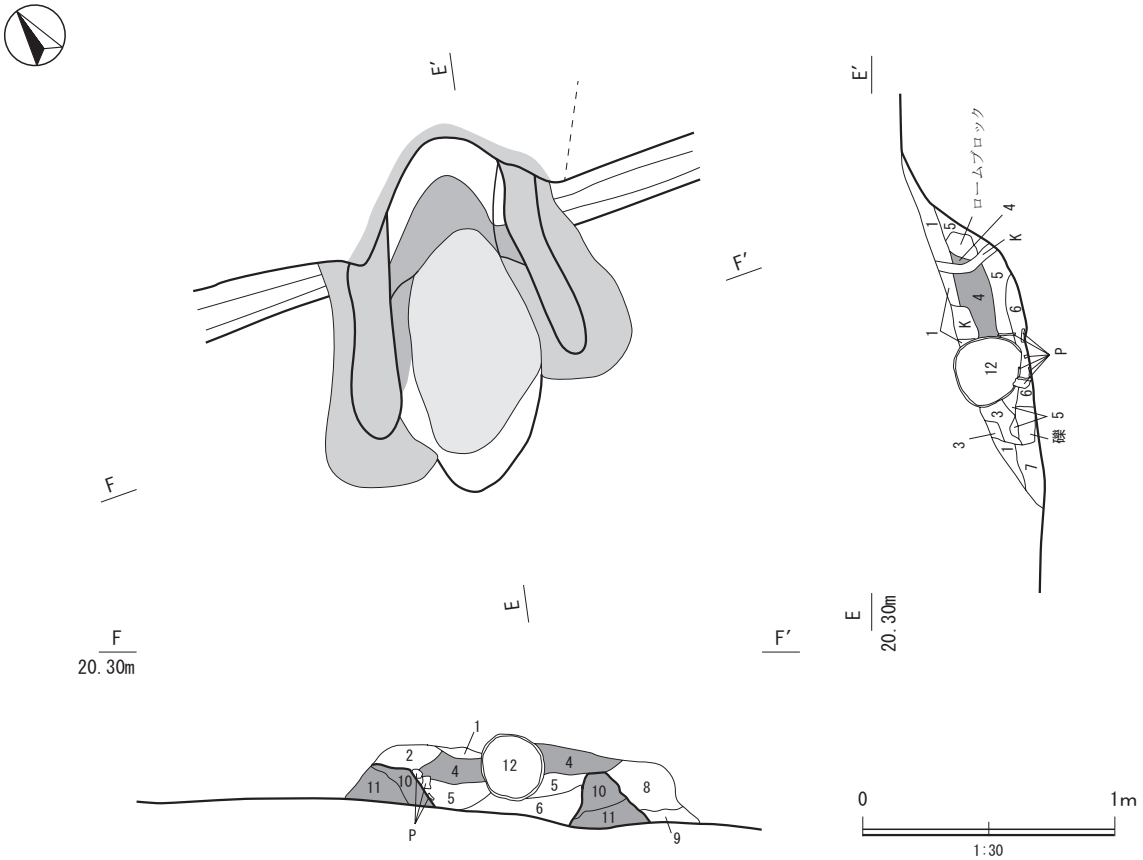
所　　見　出土した遺物から，６世紀前葉頃と考えられる。

第19表　第７号竪穴建物跡内部施設属性一覧

遺構番号	位置	平面形態	長径（㎝）	短径（㎝）	床面からの深さ（㎝）	断面形態	切り合い関係	備考
１号ピット	南西側	楕円形	32	29	49	逆円錐状	－	柱痕跡
２号ピット	北東側	楕円形	31	27	50	筒状	－	



第 27 図　第７号竪穴建物跡



第 28 図　第７号竪穴建物跡カマド

第７号竪穴建物跡

1	7.5YR3/3 暗褐色土層	粘性は強い。ローム粒子・炭化粒子・赤色粒子を微量含む。
2	7.5YR4/3 褐色土層	ローム粒子を少量含む。
3	7.5YR3/4 暗褐色土層	粘性はやや強い。ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子・赤色粒子・小礫を微量含む。
4	7.5YR3/4 暗褐色土層	ロームブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・赤色粒子を微量含む。
5	7.5YR4/3 褐色土層	粘性は強い。ロームブロック・粘土ブロックを多量，ローム粒子を少量含む。
6	7.5YR3/3 暗褐色土層	締まりは弱い。炭化物・炭化粒子を少量，ロームブロック・赤色粒子を微量含む。
7	7.5YR3/3 暗褐色土層	粘性は強い。ロームブロック・粘土ブロックを多量，ローム粒子を少量含む。
8	7.5YR3/4 暗褐色土層	粘性は弱い。ロームブロック・炭化粒子を少量，ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・赤色粒子を微量含む。
9	7.5YR3/4 暗褐色土層	ロームブロック・炭化粒子を少量，ローム粒子・炭化物・焼土ブロック・焼土粒子・赤色粒子を微量含む。
10	7.5YR4/3 褐色土層	締まりはやや強い。ロームブロックを多量，ローム粒子を少量，赤色粒子を微量含む。
11	7.5YR3/3 暗褐色土層	炭化物・炭化粒子を少量，ロームブロック・焼土ブロック・赤色粒子を微量含む。
12	7.5YR4/4 褐色土層	粘性は弱い。ロームブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・焼土ブロックを少量，焼土粒子・赤色粒子を微量含む。
13	5YR3/4 暗赤褐色土層	焼土ブロック・焼土粒子を多量，炭化物・炭化粒子・赤色粒子・小礫を微量含む。
14	7.5YR4/3 褐色土層	締まりは強い。ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を少量，炭化物・焼土粒子・赤色粒子を微量含む。
15	7.5YR4/4 褐色土層	ロームブロックを多量，ローム粒子を少量，赤色粒子・小礫を微量含む。
16	5YR3/4 暗赤褐色土層	締まりは弱い。焼土ブロック・焼土粒子を多量，炭化物・炭化粒子を微量含む。
17	7.5YR3/3 暗褐色土層	締まりは弱い。炭化粒子を少量，ロームブロック・炭化物・焼土ブロック・小礫を微量含む。
18	7.5YR3/4 暗褐色土層	粘性は弱い。炭化物・炭化粒子・焼土粒子を少量，ロームブロック・焼土ブロック・赤色粒子・小礫を微量含む。
19	7.5YR4/3 褐色土層	締まりは弱い。ロームブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含む。
20	7.5YR4/4 褐色土層	粘性・締まりは強い。ロームブロック・ローム粒子を多量に含む。

第７号竪穴建物跡カマド

1	7.5YR3/4 暗褐色土層	ローム粒子を少量，炭化粒子・焼土粒子を微量含む。
2	7.5YR3/4 暗褐色土層	ローム粒子を少量，焼土ブロック・焼土粒子・砂粒を微量含む。
3	7.5YR4/3 褐色土層	ロームブロック・ローム粒子を少量，粘土粒子・焼土ブロックを微量含む。
4	2.5Y6/4 にぶい黄色土層	粘性・締まりは共に強い。粘土ブロック・粘土粒子を多量，焼土粒子を少量，凝灰岩切石片を微量含む。
5	5YR3/4 暗赤褐色土層	締まりは強い。ローム粒子・焼土ブロック・砂粒を少量含む。
6	5YR4/6 赤褐色土層	粘性は弱く，締まりは強い。焼土ブロックを多量，ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・砂粒を少量含む。
7	5YR6/6 暗赤褐色土層	締まりは弱い。焼土粒子を多量，ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土ブロック・焼土ブロック・灰・砂粒を少量，炭化物を微量含む。
8	10YR3/4 暗褐色土層	ロームブロック・粘土粒子・砂粒を少量，ローム粒子・炭化粒子・焼土ブロックを微量含む。
9	7.5YR3/ 4 暗褐色土層	ロームブロックを少量，ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。

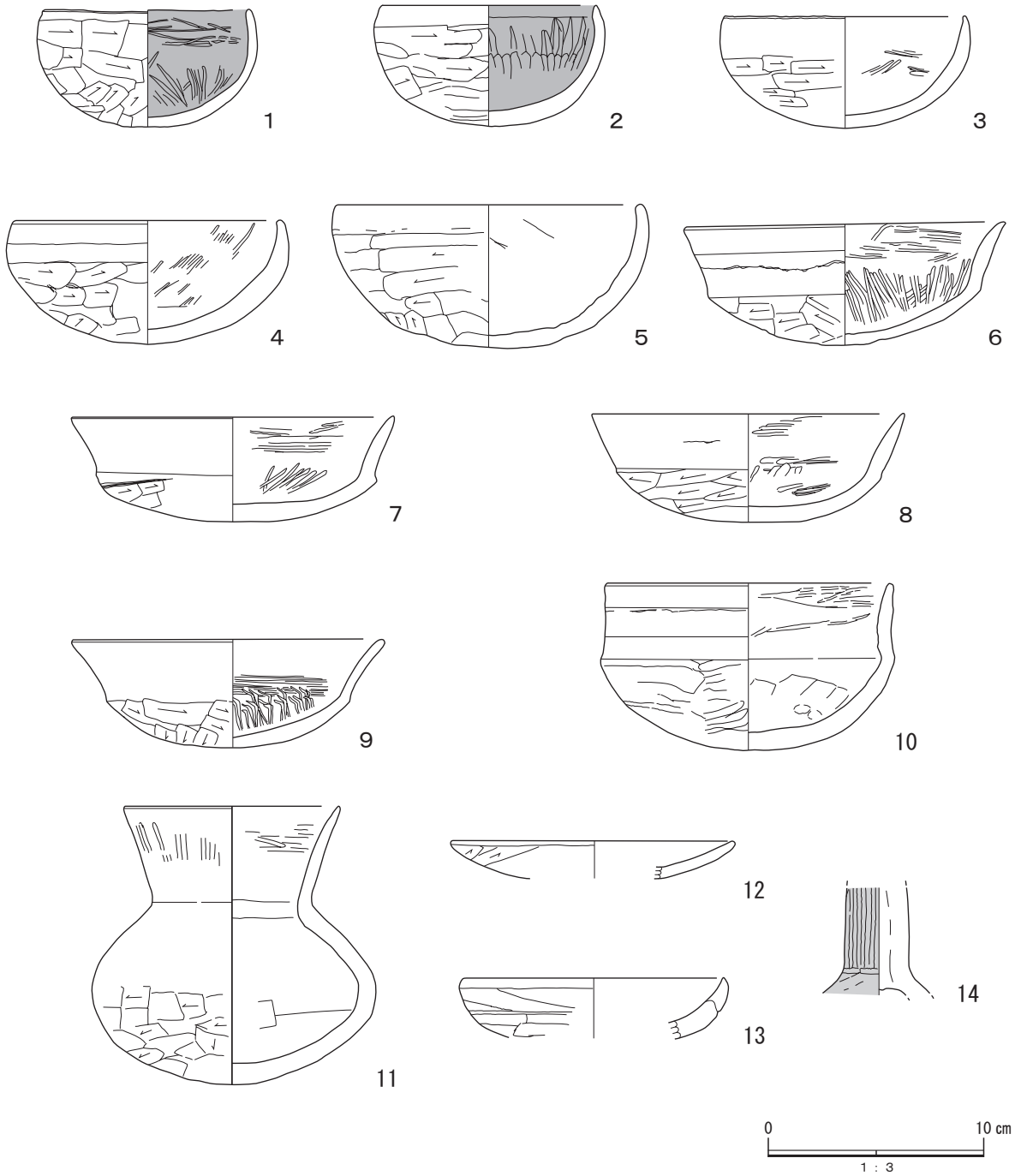
10　2.5Y6/4 にぶい黄色土層　粘性・締まりは共に強い。粘土ブロック・焼土粒子を多量，凝灰岩切石片を少量含む。
11　10YR3/4 暗褐色土層　ロームブロック・粘土ブロック・粘土粒子・砂粒を少量，ローム粒子を微量含む。
12　7.5YR4/3 暗褐色土層　締まりは弱い。ロームブロック・ローム粒子を多量に含む。（土師器の中に入り込んだ土）

第７号竪穴建物跡１号ピット

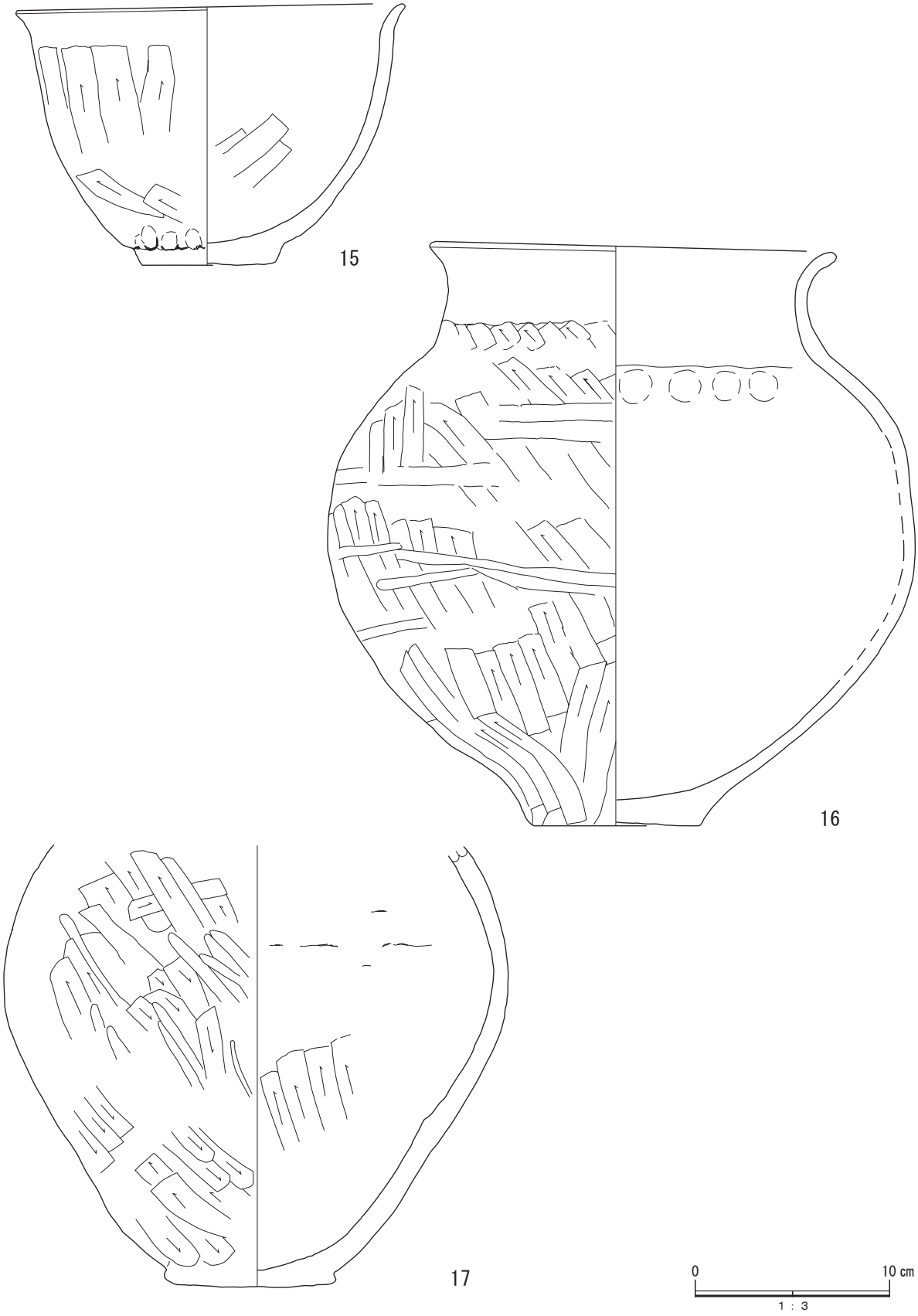
1　7.5YR3/3 暗褐色土層　締まりは弱い。炭化粒子を多量，ロームブロック・ローム粒子・小礫を少量含む。
2　7.5YR4/4 褐色土層　ロームブロック・ローム粒子・小礫を多量に含む。
3　7.5YR4/4 褐色土層　ロームブロック・ローム粒子を多量，炭化粒子・小礫を少量含む。
4　7.5YR5/8 明褐色土層　ローム粒子･小礫を多量，ロームブロックを少量含む。

第７号竪穴建物跡２号ピット

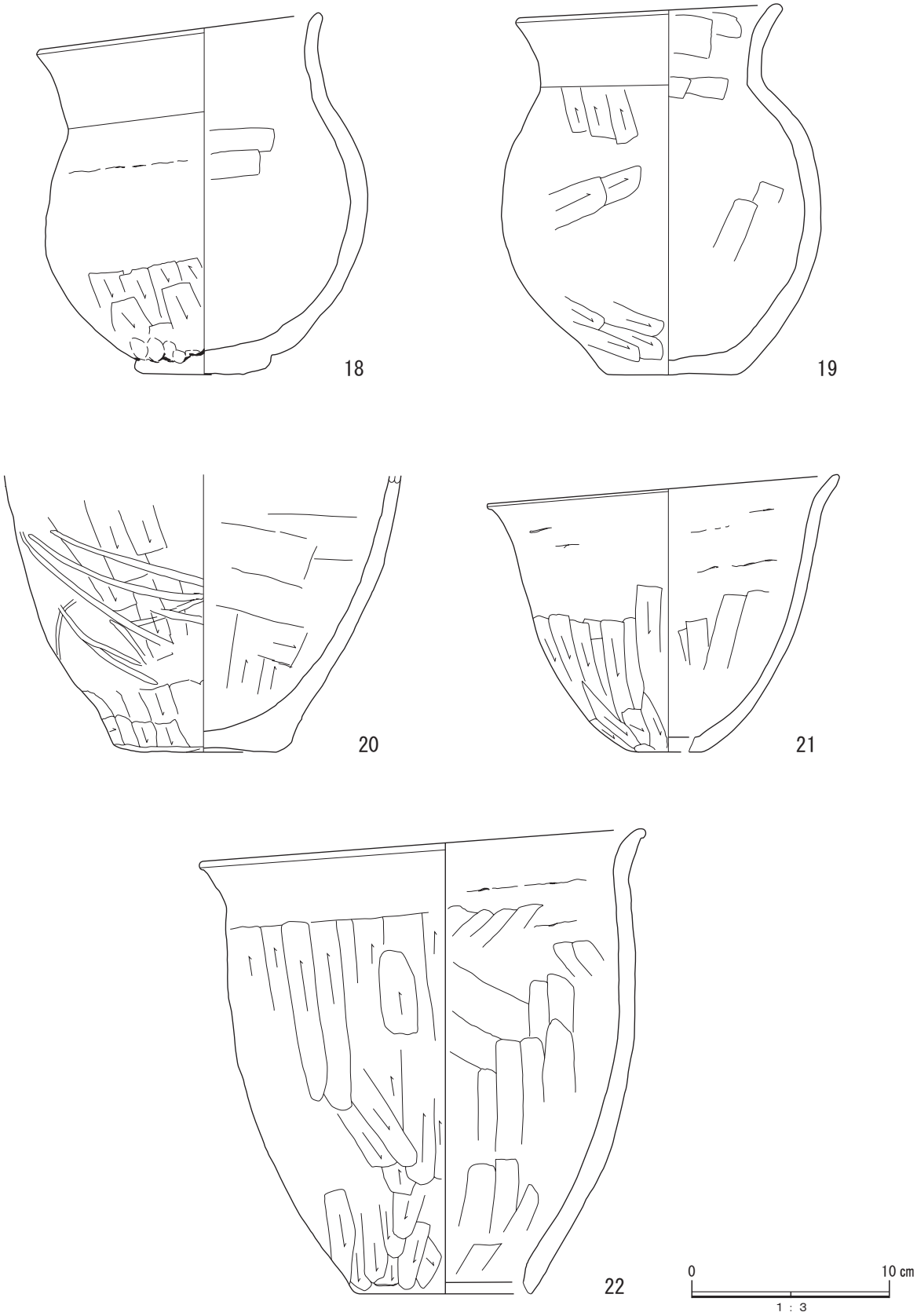
1　7.5YR2/2 黒褐色土層　締まりは弱い。炭化粒子を多量，ローム粒子を少量，焼土粒を微量含む。
2　7.5YR3/3 暗褐色土層　ローム粒子・炭化粒子・小礫を少量含む。
3　7.5YR3/4 褐色土層　小礫を多量，ローム粒子・炭化粒子を少量含む。



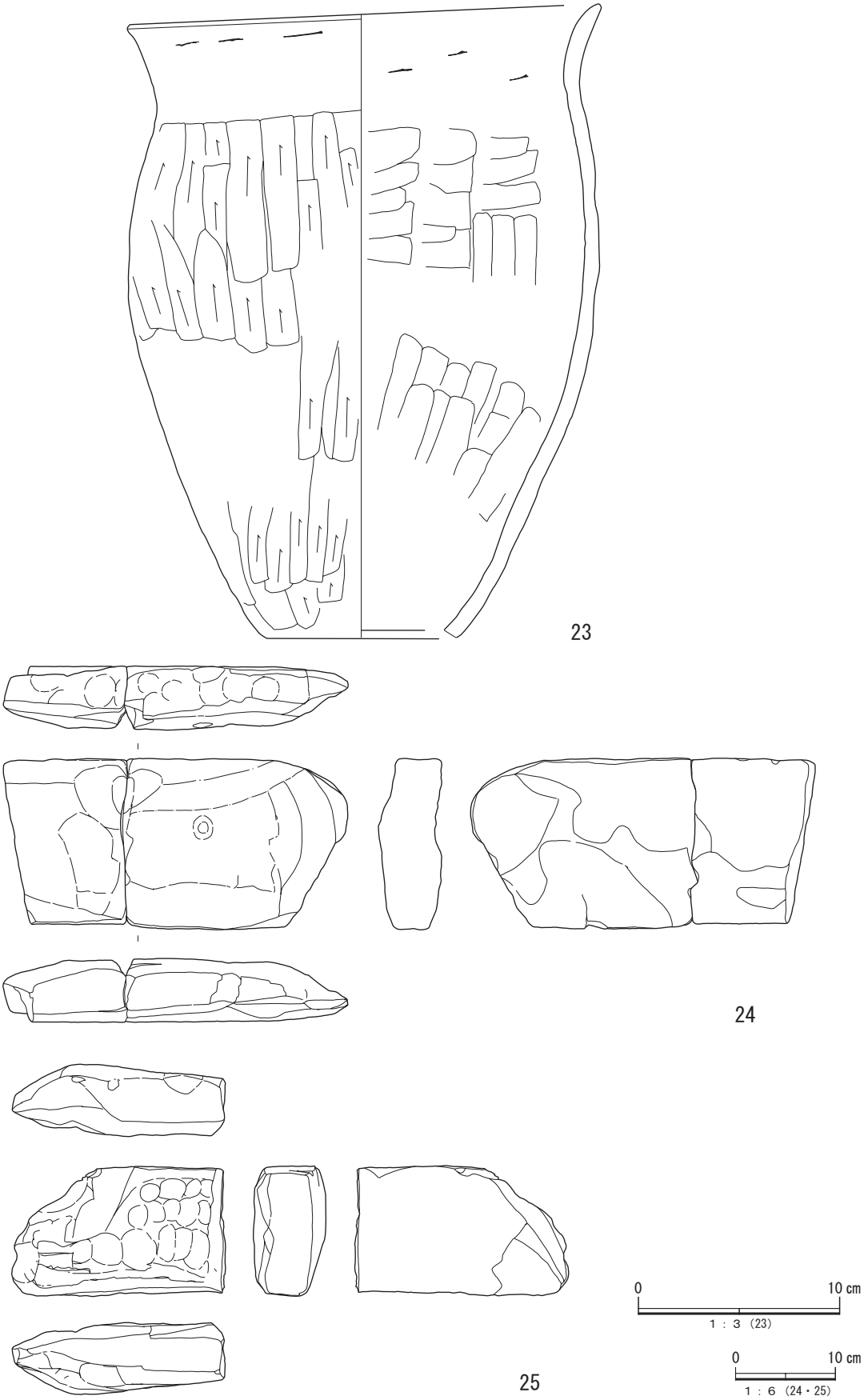
第 29 図　第７号竪穴建物跡出土遺物（1）



第 30 図　第 7 号竪穴建物跡出土遺物（2）



第 31 図　第 7 号竪穴建物跡出土遺物（3）



第 32 図　第 7 号竪穴建物跡出土遺物（4）

第 20 表　第７号竪穴建物跡出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	種別	器種	残存部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
1	Ｎｏ８	土師器	坏	口縁部～底部	100	9.5	－	5.5	丸底で半球状で内面が黒色処理が施される。口縁部は僅かに内傾，内外面ヨコナデ。体部外面多方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ後１条１単位の放射状暗文。	石英粒・長石粒・白雲母片・小礫	良好	5YR6/6 橙色	
2	カマド Ｎｏ 23	土師器	坏	口縁部～底部	95	9.9	－	5.6	丸底で半球状で内面が黒色処理が施される。口縁部は僅かに内傾，内外面ヨコナデ。体部外面横方向ヘラケズリ後ナデ，一部ミガキ，内面丁寧なナデ後縦方向ヘラミガキ。	石英粒・長石粒・白雲母片	良好	10YR6/3 にぶい黄橙色	
3	カマド	土師器	坏	口縁部～底部	40	(11.2)	－	5.2	丸底で半球状。口縁部は僅かに内傾，内外面ヨコナデ。体部外面横方向ヘラケズリ後ナデ，一部ミガキ，内面丁寧なナデ後多方向ヘラミガキ。	白色・黒色粒子・石英粒・長石粒・白雲母片	良好	2.5YR4/6 赤褐色	
4	カマド Ｎｏ 19	土師器	坏	口縁部～底部	95	12.1	－	5.7	丸底で口縁部僅かに内傾。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面横方向ヘラケズリ，内面丁寧なナデ後放射状暗文。	石英粒・長石粒	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	
5	Ｎｏ３	土師器	坏	口縁部～底部	95	14.0	－	6.6	丸底で口縁部は僅かに内湾する。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面横方向ヘラケズリ後ナデ，内面器面の剥離のため調整不明。	石英粒・長石粒・小礫	良好	2.5YR6/6 橙色	内面器面の剥離顕著
6	Ｎｏ６	土師器	坏	口縁部～底部	95	14.6	－	5.7	丸底の須恵器蓋坏模倣坏。口縁部長く大きく外反，体部との境に明瞭な稜。口縁部外面ヨコナデ，内面ヨコナデ後横方向ミガキ。体部外面多方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ後２条１単位の放射状暗文。	白色・赤色粒子・石英粒・長石粒	良好	7.5YR7/4 にぶい橙色	
7	カマド Ｎｏ 12	土師器	坏	口縁部～底部	40	14.9	－	4.8	丸底の須恵器蓋坏模倣坏。口縁部長く外傾，体部との境に明瞭な稜。口縁部外面ヨコナデ，内面ヨコナデ後横方向ミガキ。体部外面斜方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ後放射状暗文。	石英粒・長石粒・小礫	良好	5YR6/8 橙色	
8	Ｎｏ 10	土師器	坏	口縁部～底部	50	14.4	－	5.0	丸底の須恵器蓋坏模倣坏。口縁部長く外傾，体部との境に不明瞭な稜。口縁部外面ヨコナデ，内面ヨコナデ後横方向ミガキ。体部外面横方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ後多方向ミガキ。	白色・黒色粒子・石英粒・長石粒・白雲母片・小礫	良好	5YR6/6 橙色	
9	Ｎｏ１	土師器	坏	口縁部～底部	45	(13.6)	－	5.0	丸底の須恵器蓋坏模倣坏。口縁部は大きく外反して，体部との境に不明瞭な稜。口縁部内外面ヨコナデ，外面下位に横方向ミガキ。体部外面多方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ後２条１単位の暗文。	白色・黒色粒子・石英粒・長石粒・白雲母片	良好	5YR5/6 明赤褐色	
10	カマド Ｎｏ 24	土師器	坏	口縁部～底部	95	13.0	－	7.8	丸底の須恵器模倣坏。口縁部長く直立し，体部との境に不明瞭な稜。口縁部外面ヨコナデ，内面ヨコナデ後横方向ミガキ。体部外面横方向ヘラケズリ後ミガキ，内面縦方向ヘラケズリ後丁寧なナデ，指頭痕。	白色粒子・石英粒・長石粒・白雲母片	良好	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	
11	カマド Ｎｏ 15	土師器	坩	口縁部～底部	80	(9.8)	－	12.9	丸底で最大径が体部中位となる器形。口縁部は直立し外傾，内外面ヨコナデ後外面縦方向ミガキ，内面横方向ミガキ。体部外面上位ナデ，中位以下多方向ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ。	黒色粒子・石英粒・長石粒・白雲母片	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	
12	カマド	土師器	高坏	口縁部～体部	5	(13.0)	－	〈1.8〉	扁平で口縁部短い。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面斜方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ。	白色粒子・石英粒	良好	10YR6/4 にぶい黄褐色	

図版番号	出土地点遺構	種別	器種	残存部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
13	カマド	土師器	高坏	口縁部～体部	5	(12.0)	－	〈2.8〉	口縁部短く直立，内外面ヨコナデ。体部外面輪積痕と思われる僅かな窪み，横方向ヘラケズリ後ナデ。内面丁寧なナデ。	白色粒子・長石粒	良好	5YR5/6 明赤褐色	
14	１区	土師器	高坏	脚部～裾部	5	－	－	〈4.9〉	柱状中実高坏脚部下位。外面丁寧なナデ後縦方向ミガキ。裾部外面斜方向ヘラナデ後丁寧なナデ。外面赤彩。	白色粒子	良好	外面：10YR7/6 黄橙色 内面：5YR4/6 赤褐色	
15	Ｎｏ９	土師器	鉢	口縁部～底部	90	19.7	6.2	13.4	最大径は口縁部。口縁部上端が外傾，底部突出。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向ヘラケズリ後ナデ，下端指頭痕，内面斜方向ヘラナデ後ナデ。底部外面ナデ。	白色粒子・石英粒・長石粒・白雲母片	良好	10YR6/4 にぶい黄橙色	
16	カマド Ｎｏ 11	土師器	壺	口縁部～底部	95	20.3	8.7	30.0	最大径は胴部中位，口縁部窄まり気味に立ち上がり上端が外反，底部は突出する。口縁部内外面ヨコナデ，胴部外面斜方向ヘラケズリ後ナデ，内面ヘラナデ後ナデ，指頭痕。	石英粒・長石粒・小礫	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	
17	カマド Ｎｏ 21・22	土師器	壺	胴部～底部	40	－	8.3	〈22.6〉	球胴状を呈する。底部突出する。胴部外面多方向ヘラケズリ後斜方向ミガキ，内面斜方向ヘラナデ後ナデ。胴部外面下端から底部外面にかけて強いナデ。	石英粒・長石粒・白雲母片・小礫	良好	7.5YR5/6 明褐色	
18	カマド Ｎｏ 16	土師器	壺	口縁部～底部	80	14.1	6.8	18.2	最大径は胴部，口縁部長く僅かに外反，底部突出。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面中位以上ナデ，下位斜方向ヘラケズリ後ナデ，下端指頭痕，内面横方向ヘラナデ後ナデ。	石英粒・長石粒・小礫	良好	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	歪み大きい。
19	カマド Ｎｏ 20	土師器	壺	口縁部～底部	70	(13.3)	6.4	18.7	最大径は胴部下位。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面多方向ヘラケズリ後ナデ，内面多方向ヘラナデ後ナデ。	石英粒・長石粒・白雲母片・小礫	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	
20	カマド Ｎｏ 13	土師器	甕	胴部～底部	20	－	9.0	〈14.0〉	底部突出。胴部外面斜方向ヘラケズリ後ナデおよび粗い斜方向ミガキ，内面斜および縦方向ヘラナデ後ナデ。底部外面ナデ。	白色粒子・石英粒・長石粒・白雲母片・小礫	良好	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	
21	カマド Ｎｏ 14	土師器	甑	口縁部～底部開口部	100	17.6	－	14.0	単孔鉢型の甑，胴部は丸みを帯び，口縁部外反する。内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向ヘラケズリ後ナデ，内面縦方向ヘラナデ後ナデ。底部開口部内面ヘラケズリで整形，孔は小さい。	石英粒・長石粒・小礫	良好	5YR6/6 橙色	
22	カマド Ｎｏ 17	土師器	甑	口縁部～底部開口部	90	22.3	－	23.6	単孔。最大径は口縁部。口縁部内外面ヨコナデ，胴部外面縦方向ヘラケズリ後ナデ，内面縦方向ヘラナデ後ナデ，内面下端ヘラケズリで整形。	石英粒・長石粒・白雲母片・小礫	良好	10YR6/6 明黄褐色	
23	カマド Ｎｏ 18 カマド前表土	土師器	甑	口縁部～底部開口部	90	23.2	－	31.4	単孔。最大径は口縁部および胴部中位。口縁部外面縦方向強いナデ後ヨコナデ，内面ヨコナデ，輪積痕あり。胴部外面縦方向ヘラケズリ後ナデ，内面上位横方向，中位以下縦方向ヘラケズリ後ナデ。開口部内面ヘラケズリで整形後ナデ。	石英粒・長石粒・白雲母片・小礫	良好	10YR6/4 にぶい黄橙色	

第 21 表　第７号竪穴建物跡出土石器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	種別	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	石質	特徴	備考
24	カマド Ｎｏ １・２	石器	凹石	〈45.6〉	22.6	8.3	5251.2	凝灰岩	上面および側面を粗く成形する。上面中央部に窪みを穿つ。	縄文時代の凹石をカマド構築材として再利用
25	カマド Ｎｏ３	石器	台石	17.5	〈28.3〉	9.5	2821.1	凝灰岩	上面および側面を粗く成形する。	縄文時代の台石をカマド構築材として再利用

第８号竪穴建物跡

位　　置　調査区北東部，標高 19.32 m地点に位置する。本跡の大半は調査区外にあり，その部分は検出することができなかった。

規模と形状　長軸 376 ㎝以上，短軸 139 ㎝以上の方形と推定される。主軸方向は西壁および南壁を基準にＮ－ 48°－Ｗを示す。壁高の最大高は 64 ㎝を測り，垂直に立ち上がった後大きく開く。

重複関係　単独で存在する。

土　　層　７層に分けられ，レンズ状の自然な埋没状況を示す。

床　　面　ロームブロックを含む褐色土により緻密で軟弱な貼床が厚さ１㎝から２㎝ほど貼られている。概ね平坦である。

壁　　溝　検出されていない。

カマド・炉　検出されていない。

柱　　穴　３基検出されたが，本跡の検出範囲は限定的であり，主柱穴や出入口ピットは不明である。

貯 蔵 穴　検出されていない。

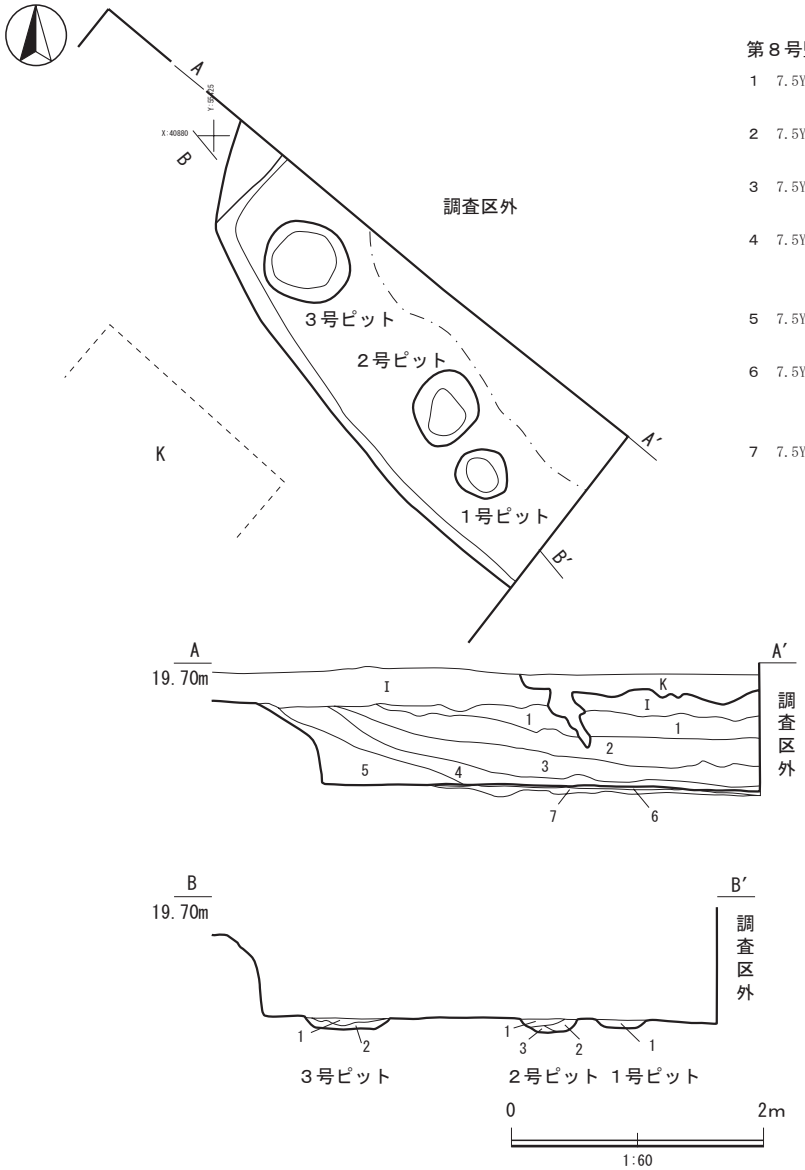
掘 り 方　中央部の貼床部分を中心に床面から１㎝から５㎝の深さまで掘り込まれている。

遺物出土状況　67 点，724.2g の遺物が出土している。内訳は縄文土器の深鉢が９点，土師器の坏類が 13 点，坩が１点，甕・壺類が 44 点である。このうち３点を図示することができたが，出土遺物はどれも遺存度が悪く，時期を決定できる資料はごく少数であった。１・２は口縁部が長く大きく開く丸底の須恵器蓋坏模倣坏である。３は土師器の坩口縁部である。

所　　見　時期は遺物の遺存度が悪く判断は難しいが，６世紀代であろう。

第 22 表　第８号竪穴建物跡内部施設属性一覧

遺構番号	位置	平面形態	長径（㎝）	短径（㎝）	床面からの深さ（㎝）	断面形態	切り合い関係	備考
１号ピット	南側	楕円形	45	40	6	皿状	－	
２号ピット	南側	楕円形	62	50	12	皿状	－	
３号ピット	南西側	楕円形	70	65	9	逆台形状	－	



第８号竪穴建物跡

1　7.5YR4/4 褐色土層　粘性・締まりは共に強い。
　　ロームブロック・ローム粒子を多量に含む。
2　7.5YR3/4 暗褐色土層　粘性は強い。
　　粘土ブロックを少量，炭化粒子を微量含む。
3　7.5YR3/3 暗褐色土層　粘性は強い。
　　炭化粒子を少量，ローム粒子を微量含む。
4　7.5YR4/3 褐色土層　粘性・締まりは共に強い。
　　ロームブロック・ローム粒子を少量，小礫を微量含む。
5　7.5YR4/4 褐色土層　粘性は強い。
　　ロームブロック・ローム粒子を多量に含む。
6　7.5YR4/4 褐色土層　粘性は強い。
　　ロームブロック・ローム粒子を多量，小礫を微量含む。
7　7.5YR4/4 褐色土層　粘性は強い。
　　ロームブロック・ローム粒子を多量に含む。

第８号竪穴建物跡１号ピット

1　7.5YR3/3 暗褐色土層
　　ローム粒を多量，炭化粒子を微量含む。

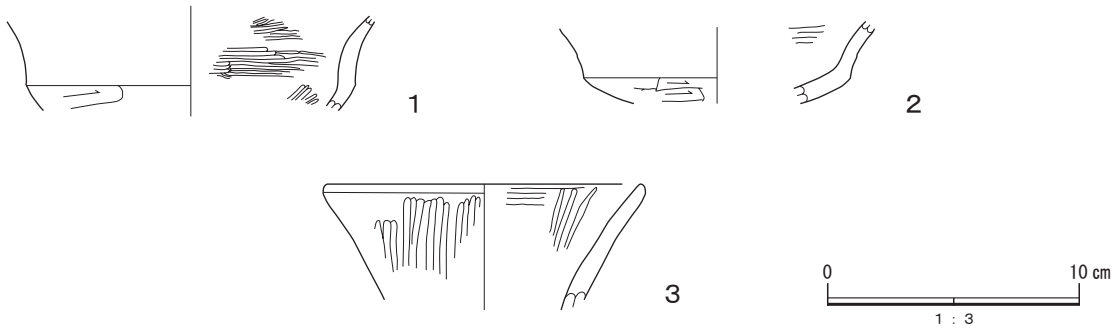
第８号竪穴建物跡２号ピット

1　7.5YR4/4 褐色土層
　　ロームブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含む。
2　7.5YR3/2 黒褐色土層
　　ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含む。
3　7.5YR4/4 暗褐色土層
　　ロームブロックを多量，ローム粒子を少量含む。

第８号竪穴建物跡３号ピット

1　7.5YR3/2 黒褐色土層
　　ローム粒・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。
2　7.5YR3/4 暗褐色土層
　　ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含む。

第 33 図　第８号竪穴建物跡



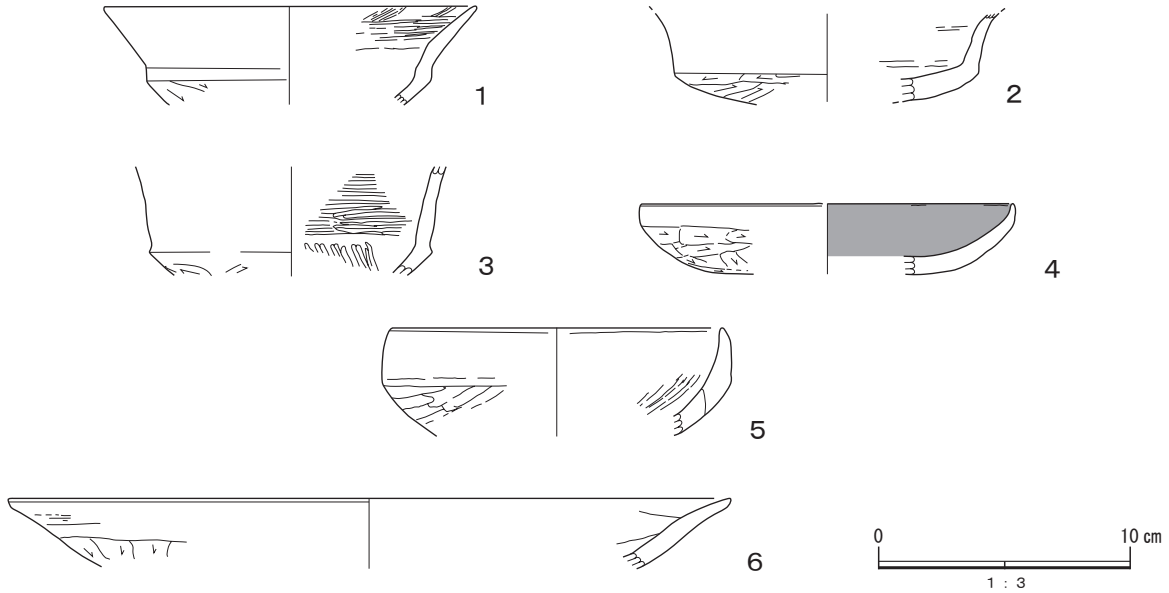
第 34 図　第８号竪穴建物跡出土遺物

第 23 表　第８号竪穴建物跡出土遺物属性一覧

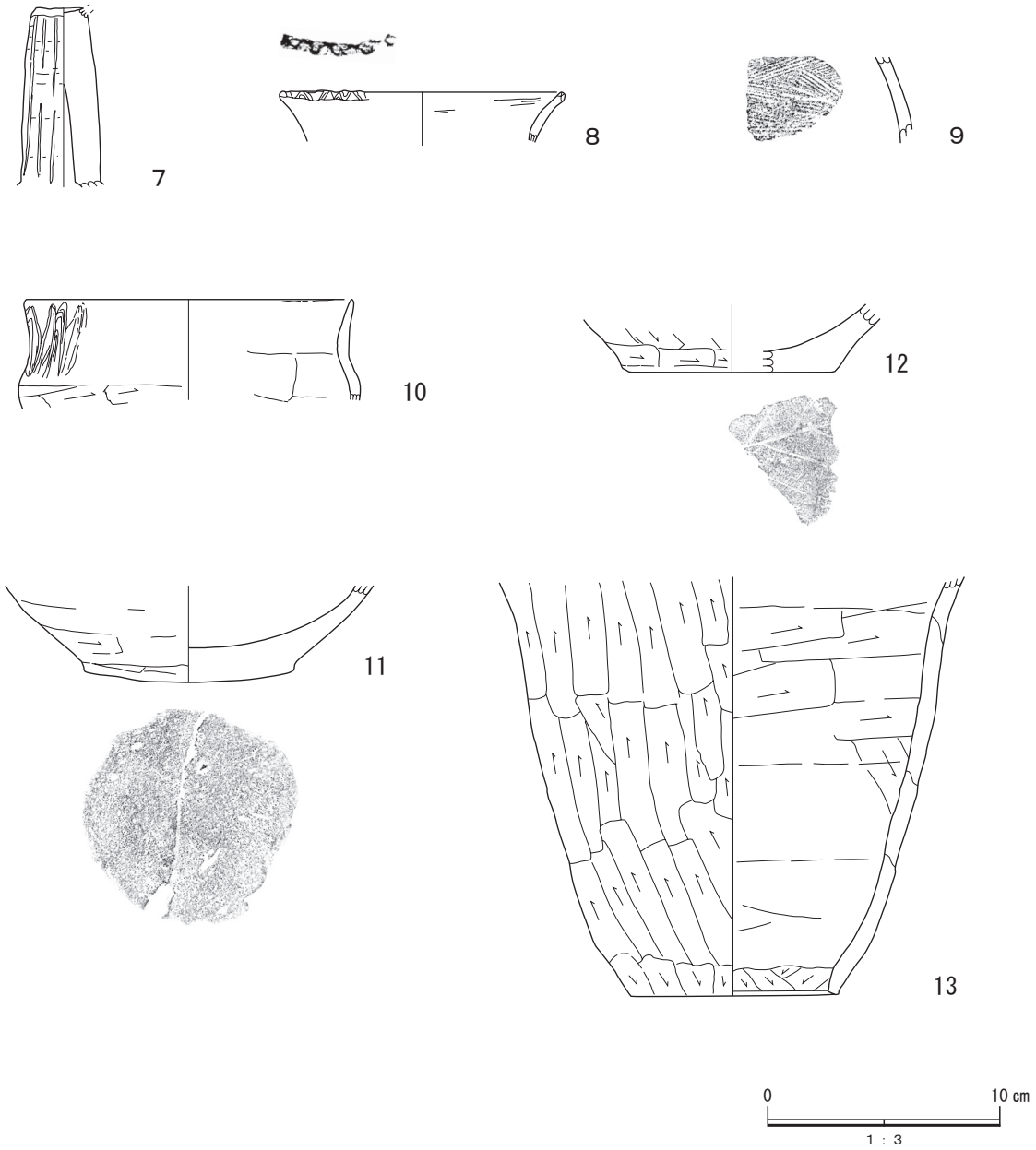
図版番号	出土地点遺構	種別	器種	残存部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
1	覆土	土師器	坏	口縁部～体部	5	－	－	〈3.8〉	須恵器蓋坏模倣坏。口縁部が大きく開き，体部との境に明瞭な稜。口縁部外面ヨコナデ，内面ヨコナデ後横方向ミガキ。体部外面横方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ後放射状の暗文。	白色粒子・石英粒・長石粒	良好	5YR5/6 明赤褐色	
2	覆土	土師器	坏	口縁部～体部	5	－	－	〈3.2〉	須恵器蓋坏模倣坏。口縁部が大きく開き，体部との境に不明瞭な稜。口縁部外面ヨコナデ，内面ヨコナデ後横方向ミガキ。体部外面横方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ。	白色・黒色粒子	良好	7.5YR5/4 にぶい褐色	
3	覆土	土師器	坩	口縁部	5	(12.4)	－	〈5.0〉	口縁部直線的に開き，内外面ヨコナデ後横および縦方向ミガキ。	赤色粒子・石英粒・長石粒	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	

古墳時代の遺構外出土遺物

古墳時代の遺構外出土遺物は坏類や甕類，高坏，甑などを中心に 244 点，3,692.1g が出土している。このうち 13 点を図示することができた。以下，出土した遺物について簡単な説明を加える。１から５は丸底の土師器坏である。１から３は口縁部が長く大きく開く器形の須恵器蓋坏模倣坏である。３には内面に放射状暗文が施される。４は内面が黒色処理が施され,扁平で口縁部が短く直立する器形,５は口縁部が直立し，上端が内傾する器形の須恵器模倣坏である。６・７は土師器高坏である。６は大型で体部に稜を持たない高坏の坏部である。７は中空の柱状高坏脚部の基部である。８から 11 は土師器の壺である。８は口唇部に内外から押圧を加えて波状をなしている。９は多方向の細いハケ目が施されている。10 は口縁部外面に波状のミガキが加えられている。11 は突出する底部片である。12 は土師器の甕で，底部に木葉痕が確認できる。13 は土師器の単孔甑である。時期は，８・９の土師器壺が４世紀代と考えられるが，他の遺物は５世紀後葉から６世紀中葉の範疇に収まる遺物であろう。



第 35 図　古墳時代の遺構外出土遺物（1）



第 36 図　古墳時代の遺構外出土遺物（2）

第 24 表　古墳時代遺構外出土遺物属性一覧

図版番号	出土地点遺構	種別	器種	残存部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
1	表土	土師器	坏	口縁部～体部	15	(14.6)	－	〈3.9〉	須恵器蓋坏模倣坏。口縁部長く大きく開く器形。体部との境に明瞭な稜。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面斜方向ヘラケズリ，内面横方向ミガキ，ナデ。	白色粒子	良好	2.5YR4/8 赤褐色	体部内面器面剥離顕著
2	SK- 5 2区	土師器	坏	口縁部～体部	10	－	－	〈4.5〉	須恵器蓋坏模倣坏。口縁部長く上端が外反，体部との境に稜を持たない。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面横方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ。	白色粒子	良好	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	
3	SD- 1 上層	土師器	坏	口縁部～体部	5	－	－	〈4.3〉	須恵器蓋坏模倣坏。口縁部長く直線的に外傾，体部との境に明瞭な稜。口縁部外面ヨコナデ，内面ヨコナデ後横方向ミガキ。体部外面多方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ後２条１単位の放射状暗文。	白色・黒色粒子・石英粒	良好	2.5YR6/6 橙色	

図版番号	出土地点遺構	種別	器種	残存部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
4	表土	土師器	坏	口縁部～体部	20	(14.6)	－	〈2.8〉	内面黒色処理。口縁部短く直立。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上位横方向ヘラケズリ後強いナデ，下位横方向ヘラケズリ，内面丁寧なナデ。	赤色粒子・石英粒	良好	外面：10YR6/4 にぶい黄橙色 内面：2.5Y3/1 黒色	
5	SK-５１区	土師器	坏	口縁部～底部	10	(13.0)	－	〈4.3〉	丸底の須恵器模倣坏。口縁部直立して上端が僅かに内傾する。口縁部と体部の境に稜を持たない。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面斜方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ。	白色粒子	良好	2.5YR4/8 赤褐色	
6	表土	土師器	高坏	口縁部～体部	10	(28.2)	－	〈2.8〉	口縁部長く大きく開く器形。体部との境に稜を持たない。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面横方向ヘラケズリ，内面横方向ナデ。	白色粒子・石英粒・長石粒	良好	10YR6/6 明黄褐色	
7	表土	土師器	高坏	基部	5	－	－	〈7.6〉	柱状中空脚。外面横方向強いナデ後縦方向ミガキ。内面ナデ。	白色・黒色粒子・石英粒・小礫	良好	5YR5/8 明赤褐色	
8	SI-５４区２層	土師器	壺	口縁部	5	(12.0)	－	－	口唇部を内外から交互に押捺。口縁部内外面ヨコナデ。	白色粒子・長石粒	良好	2.5YR5/8 明赤褐色	
9	SD-１上層	土師器	壺	胴部	5	－	－	－	胴部外面多方向のハケ目。	白色粒子・石英粒	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	
10	SK-５２区	土師器	壺	口縁部～胴部	5	(14.0)	－	〈4.4〉	口縁部僅かに外反，外面ヨコナデ後２条１単位の蛇行するミガキを横走，内面ヨコナデ。胴部外面横方向ヘラケズリ後ナデ，内面横方向ヘラナデ後丁寧なナデ。	白色粒子	良好	外面：10YR7/8 黄橙色 内面：2.5YR5/8 明赤褐色	
11	表土	土師器	壺	胴部～底部	10	－	9.2	〈4.1〉	丸味を帯び，突出する底部。胴部外面横方向強いナデ，下端横方向ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ。底部外面丁寧なナデ。	白色粒子・石英粒・長石粒	良好	10YR6/4 にぶい黄橙色	
12	表土	土師器	甕	胴部～底部	5	－	(8.6)	〈2.9〉	胴部外面斜方向ヘラケズリ後ナデ，下端横方向ヘラケズリ，内面横方向ヘラナデ後ナデ。底部外面木葉痕。	白色粒子・石英粒・小礫	良好	10YR3/4 暗褐色	
13	表土	土師器	甑	胴部～開口部	30	－	(8.8)	〈17.9〉	単孔甕型甑。胴部外面縦方向ヘラケズリ後ナデ，内面横方ヘラナデ後丁寧なナデ，下端斜方向ヘラケズリで開口部を成形。	白色粒子・石英粒・長石粒・小礫	良好	10YR7/6 明黄褐色	

４　中世以降の遺構

ここでは中世以降の遺構と遺物を取り上げる。遺構は，第１・３～６・８号土坑が中世以降，第１・２号溝跡，第２・７号土坑が近世以降である。これらは調査地点の北西部を中心に検出されている。遺物は，第２号土坑から出土した陶器の碗の他に，第４号竪穴建物跡に混入していた磁器の鉢，炻器の甕，礫が出土している。これらはいずれも小片のため，図示することはできなかった。以下，検出した遺構に対し簡単な説明を加えこととする。

溝跡

第１号溝跡

位　　置　調査区北西側，標高 19.2m 地点に位置する。

規模と形状　全長 782 cm，上幅 85 cmから 97 cm，下幅 20 cmから 46 cmを測る。確認面からの深

さは，18 ㎝から 25 ㎝を測り，断面形は北部が皿状を呈する。底面はやや起伏を持ち，壁面は大きく開き立ち上がる。

方　　向　N－34°－Eの方向へやや蛇行しながら延び，両端が調査区外へと延びている。

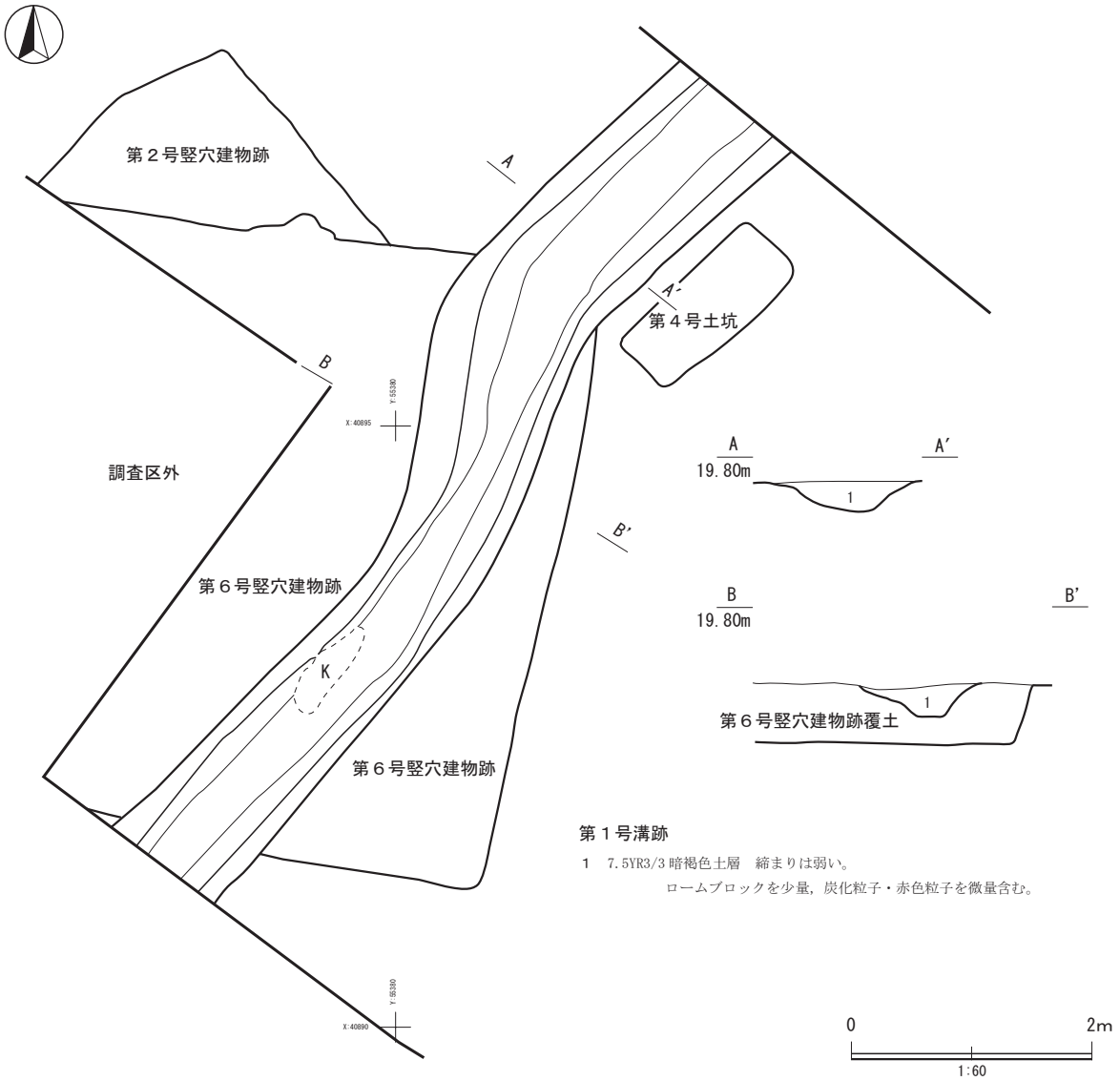
重複関係　第６号竪穴建物跡に後続する。

土　　層　単一層であり，人為的な埋没状況を示す。

付帯施設　検出されていない。

遺物出土状況　127 点，1635.0g の遺物が出土している。内訳は縄文土器の深鉢が 59 点，弥生土器の甕・壺類が２点，土師器坏類が９点，鉢が１点，甕類が 56 点である。遺物は第６号竪穴建物跡などからの流れ込みと考えられる。

所　　見　流水の痕跡は確認されていない。根切り溝もしくは区画溝と推測される。時期は，締まりの弱い覆土の状況から，近世以降の所産と推測される。



第 37 図　第１号溝跡

第２号溝跡

位　　置　調査区南東側，標高 19.1m 地点に位置する。

規模と形状　本跡中央部やや北寄りの部分で一度途切れるが，全長 17.4 ㎝，上幅 25 ㎝から 98 ㎝，下幅 8 ㎝から 79 ㎝を測る。確認面からの深さは５㎝から 21 ㎝を測り，断面形は皿状を呈する。壁面や底面は起伏に富み，大きく開き立ち上がる。

方　　向　Ｎ－ 53°－Ｗの方向へ直線的に延び，南端は調査区外へと延びる。

重複関係　単独で存在する。

土　　層　単一層であるが，遺存深度が浅いため埋没状況は不明である。

付帯施設　検出されていない。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所　　見　流水の痕跡は確認されていない。根切り溝もしくは区画溝と推測される。時期は，締まりの弱い覆土の状況から，近世以降の所産と推測される。

土坑

第１号土坑

位　　置　調査区北西部，標高 19.20m 地点に位置する。

規模と形状　平面形は長軸 91 ㎝，短軸 66 ㎝の不整長方形で，確認面からの深さは３㎝を測り，断面形は箱状を呈する。主軸方向はＮ－ 51°－Ｗを示す。底面はやや起伏を持ち，壁面は急角度に立ち上がる。

重複関係　単独で存在する。

土　　層　単一層であるが，覆土が浅いため埋没状況は不明である。

遺物出土状況　５点，21.8g の遺物が出土している。内訳は縄文土器の深鉢が２点，土師器の甕類が３点である。すべて細片のため図示することはできなかった。

所　　見　性格は不明である。時期は，締まりの弱い覆土の状況から，中世以降の所産であろう。

第２号土坑

位　　置　調査区北西部，標高 19.20m 地点に位置する。

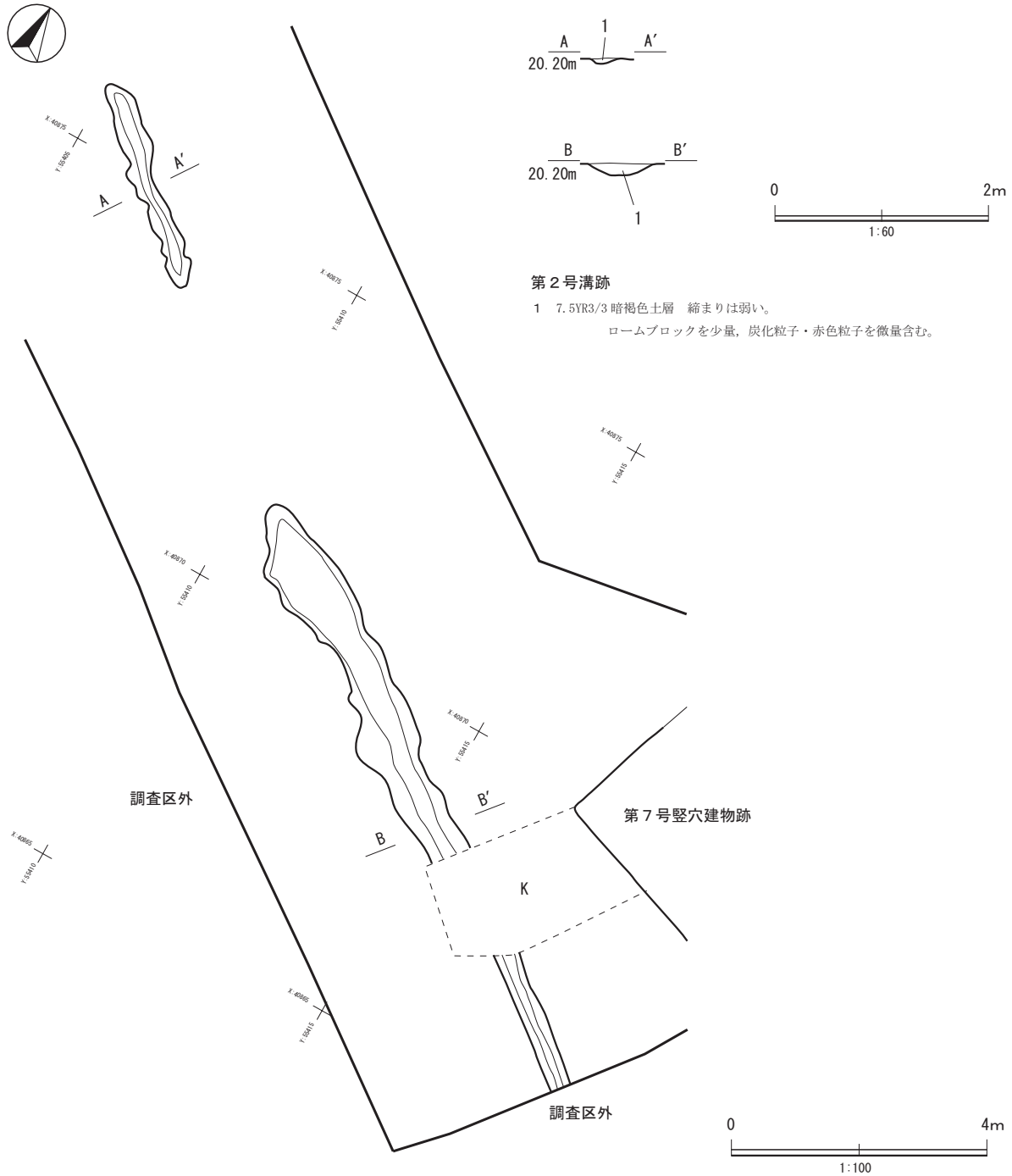
規模と形状　平面形は長軸 56 ㎝，短軸 56 ㎝の正方形で，確認面からの深さは４㎝を測り，断面形は逆台形状を呈する。主軸方向はＮ－ 25°－Ｅを示す。底面は起伏を持ち，壁面は急角度に立ち上がる。

重複関係　単独で存在する。

土　　層　単一層であるが，覆土が浅いため埋没状況は不明である。

遺物出土状況　２点，36.5g の遺物が出土している。内訳は縄文土器の深鉢が１点，近世以降の磁器の碗が１点である。すべて細片のため図示することはできなかった。

所　　見　性格は不明である。時期は，出土遺物や締まりの弱い覆土の状況から，近世以降の所産と推測される。


A
A′
20.20m
1
B
B′
20.20m
1
0
2m
1:60
第２号溝跡
1　7.5YR3/3 暗褐色土層　締まりは弱い。
ロームブロックを少量，炭化粒子・赤色粒子を微量含む。
調査区外
第７号竪穴建物跡
K
調査区外
0
4m
1:100

第 38 図　第２号溝跡

第３号土坑

位　　置　調査区中央部やや北西側，標高 19.0m 地点に位置する。

規模と形状　平面形は長軸 77 ㎝，短軸 61 ㎝の楕円形で，確認面からの深さは 22 ㎝を測り，断面形は筒状を呈する。主軸方向はＮ－ 16°－Ｗを示す。底面は丸味を帯び，概ね平坦であり，壁面は緩やかに立ち上がる。

重複関係　単独で存在する。

土　　層　２層に分けられ，人為的な埋没状況を示す。

遺物出土状況　５点，34.6g の遺物が出土している。すべて縄文土器の深鉢が５点であるが，いずれも細片のため図示することはできなかった。

所　　見　性格は不明である。時期は，やや締まりを持つ覆土の状況から，中世以降の所産と推測される。

第４号土坑

位　　置　調査区北西部，標高 19.2m 地点に位置する。

規模と形状　平面形は長軸 149 ㎝，短軸 61 ㎝の方形で，確認面からの深さは 49 ㎝を測り，断面形は逆台形状を呈する。主軸方向はＮ－ 45°－Ｅを示す。底面は平坦であり，壁面は急角度に立ち上がる。

重複関係　単独で存在する。

土　　層　単一層であり，人為的な埋没状況を示す。

遺物出土状況　10 点，126.4g の遺物が出土している。内訳は縄文土器の深鉢が４点，土師器の甕類が６点である。すべて細片のため図示することはできなかった。

所　　見　土坑の形状や締まりが弱い覆土の状況から，中世以降の芋穴と考えられる。

第５号土坑

位　　置　調査区中央部，標高 18.52m 地点に位置する。

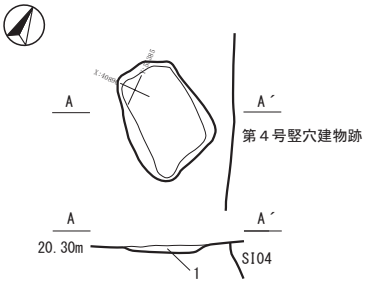
規模と形状　平面形は残存長軸 63 ㎝，残存短軸 17 ㎝の推定円形で，確認面からの深さは 20 ㎝を測り，断面形は筒状を呈する。主軸方向はＮ－ 30°－Ｅを示す。底面は丸味を帯び，概ね平坦であり，壁面は緩やかに立ち上がる。西部が調査区外にありその部分は調査ができなかった。

重複関係　第５号竪穴建物跡に後続する。

土　　層　レンズ状の自然な埋没状況を示す。

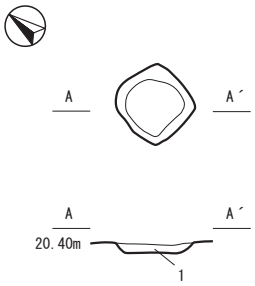
遺物出土状況　88 点，1040.7g の遺物が出土している。内訳は縄文土器の深鉢が９点，土師器の坏類が 16 点，高坏が２点，鉢が１点，甕類が 59 点，小型壺が１点である。このうち３点を図示することができたが，遺物は第５号竪穴建物跡からの流れ込みであるため，古墳時代遺構外出土遺物において掲載することとする。

所　　見　性格は不明である。遺構の切り合い関係から，中世以降の所産と推測される。



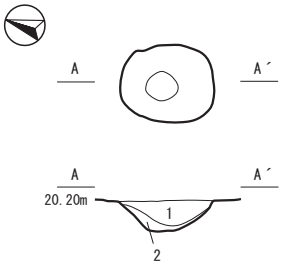
1　7.5YR3/4 暗褐色土層　締まりは弱い。
　　ローム粒子を少量，ロームブロック・
　　炭化粒子・赤色粒子を微量含む。

第１号土坑



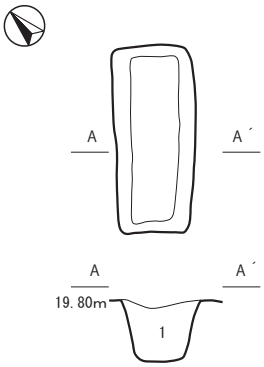
1　7.5YR3/4 暗褐色土層　締まりは弱い。
　　ローム粒子を少量，ロームブ
　　ロック・赤色粒子を微量含む。

第２号土坑



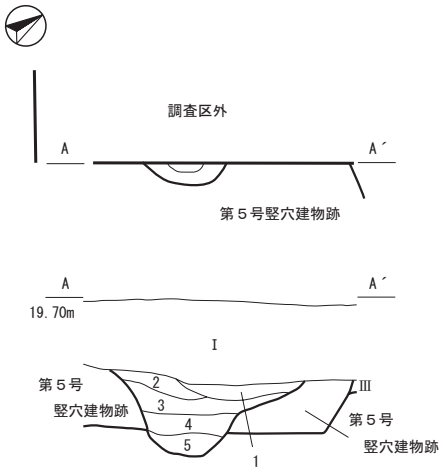
1　7.5YR4/3 褐色土層　ローム粒子を多量，
　　赤色粒子を微量含む。
2　7.5YR4/4 褐色土層　締まりはやや強い。
　　ロームブロック・ローム粒子を少量，
　　赤色粒子を微量含む。

第３号土坑



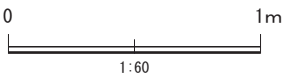
1　7.5YR3/4 暗褐色土層　粘性は強いが，締まりは弱い。
　　ロームブロックを多量，赤色粒子を微量含む。

第４号土坑



1　7.5YR3/3 暗褐色土層　締まりは弱い。
　　ローム粒子・炭化粒子を少量，赤色粒子・小礫を微量含む。
2　7.5YR4/3 褐色土層　粘性は強いが，締まりは弱い。
　　ロームブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含む。
3　7.5YR5/6 明褐色土層　粘性は強い。
　　ロームブロックを多量，ローム粒子・炭化粒子を少量，
　　赤色粒子を微量含む。
4　7.5YR4/4 褐色土層　締まりは弱い。
　　ロームブロックを多量，ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含む。
5　7.5YR3/4 暗褐色土層　粘性は強いが，締まりは弱い。
　　ローム粒子を少量，ロームブロックを微量含む。

第５号土坑



第 39 図　第１号から第５号土坑

第６号土坑

位　　置　調査区中央部，標高 19.29m 地点に位置する。

規模と形状　平面形は長軸 101 ㎝，短軸 88 ㎝の推定楕円形で，確認面からの深さは 73 ㎝を測り，断面形は筒状を呈する。主軸方向はＮ－ 38°－Ｅを示す。底面は丸味を帯び，平坦であり，壁面は急角度で立ち上がる。南東側は調査区外で，上面や西側が撹乱で破壊されており，その部分は調査はできなかった。

重複関係　単独で存在する。

土　　層　４層に分けられ，人為的な埋没状況を示す。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所　　見　性格は不明である。時期は，覆土の状況から，中世以降の所産と推測される。

第７号土坑

位　　置　調査区北西部，標高 19.17m 地点に位置する。

規模と形状　平面形は長軸 81 ㎝，短軸 71 ㎝の楕円形で，確認面からの深さは 13 ㎝を測り，断面形は筒状を呈する。主軸方向はＮ－ 22°－Ｅを示す。底面は丸味を帯び，概ね平坦であり，壁面はゆるやかに立ち上がる。

重複関係　第３号竪穴建物跡に後続する。

土　　層　単一層であり，人為的な埋没状況を示す。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所　　見　土坑の形状や切り合い関係，締まりを持たない覆土の状況から，近世以降の所産と推測される。

第８号土坑

位　　置　調査区北西部，標高 19.18m 地点に位置する。

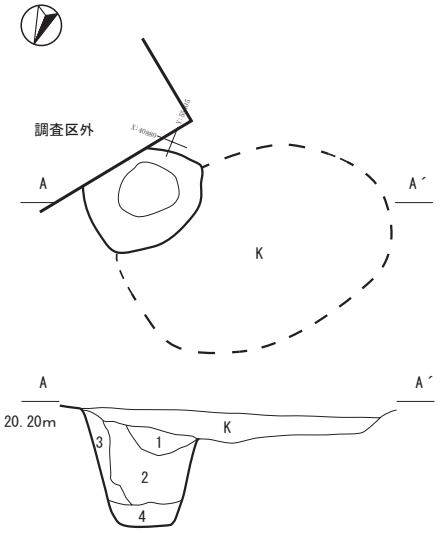
規模と形状　平面形は径 152 ㎝の円形で，確認面からの深さは 36 ㎝を測り，断面形は逆台形状を呈する。底面は平坦であり，壁面は急角度に立ち上がる。

重複関係　第４号竪穴建物跡に後続する。

土　　層　単一層であり，人為的な埋没状況を示す。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所　　見　性格は不明である。時期は，締まりの弱い覆土の状況から，中世以降の所産と推測される。



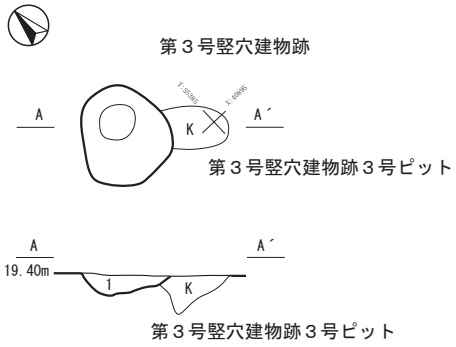
1　7.5YR3/3 暗褐色土層　粘性は強い。
　　ローム粒子・炭化粒子を少量，赤色粒子を微量含む。

2　7.5YR4/3 褐色土層
　　ロームブロック・ローム粒子を少量，炭化粒子・赤色粒子・小礫を微量含む。

3　7.5YR3/4 暗褐色土層　粘性は強い。
　　炭化粒子を少量，ロームブロック・ローム粒子・赤色粒子・小礫を微量含む。

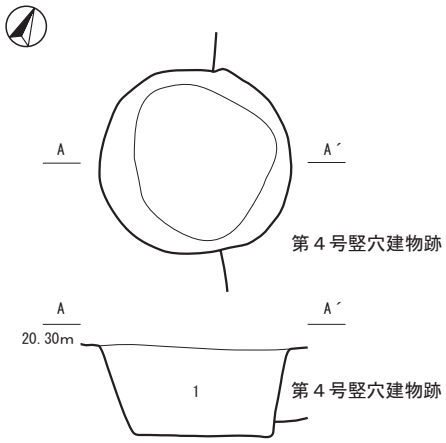
4　7.5YR4/4 褐色土層
　　ロームブロックを多量，ローム粒子を少量，炭化粒子を微量含む。

第６号土坑



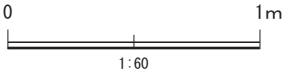
1　7.5YR3/4 暗褐色土層　粘性は強いが，締まりは無い。
　　ロームブロック・ローム粒子を少量含む。

第７号土坑



1　7.5YR3/3 暗褐色土層　粘性は強い。
　　ローム粒子・炭化粒子を多量，小礫を少量含む。

第８号土坑



第 40 図　第６号から第８号土坑

第25表　出土遺物計量表

出土地点			第１号竪穴建物跡		第２号竪穴建物跡		第３号竪穴建物跡		第４号竪穴建物跡		第５号竪穴建物跡		第６号竪穴建物跡	
出土遺物			点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）
縄文時代	早期深鉢	三戸			1	75.5								
	前期深鉢	黒浜	7	138.3	105	1700.2			54	658.2	38	360.0	87	1230.7
		浮島	23	391.7	33	556.0			54	643.6	9	125.6	139	1985.2
		諸磯	1	27.2	2	7.0			5	71.3			10	180.5
		不明（繊維含）			13	40.7			17	43.0	5	27.9	46	253.2
	小計		31	557.2	154	2379.4	0	0.0	130	1416.1	52	513.5	282	3649.6
	中期深鉢	阿玉台	2	23.5	1	18.1							1	10.2
		加曽利Ｅ	5	113.2					1	14.1			2	53.4
	小計		7	136.7	1	18.1	0	0.0	1	14.1	0	0.0	3	63.6
	不明深鉢		1	5.6	18	127.7			59	708.6	6	43.1	42	575.1
	小計		1	5.6	18	127.7	0	0.0	59	708.6	6	43.1	42	575.1
	石器	石鏃											2	11.7
		石匙							1	10.8				
		剥片											1	1.7
		凹石												
		台石												
	小計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	10.8	0	0.0	3	13.4
縄文時代小計			39	699.5	173	2525.2	0	0.0	191	2149.6	58	556.6	330	4301.7
弥生時代	後期	甕・壺類							11	118.7	13	150.7	8	118.2
	小計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	11	118.7	13	150.7	8	118.2
弥生時代小計			0	0.0	0	0.0	0	0.0	11	118.7	13	150.7	8	118.2

出土地点			第７号竪穴建物跡		第８号竪穴建物跡		第１号溝跡		第１号土坑		第２号土坑		第３号土坑	
出土遺物			点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）
縄文時代	早期深鉢	三戸												
	前期深鉢	黒浜	3	49.8	1	21.6	4	38.0	1	9.0			1	18.6
		浮島	2	25.7			52	676.1			1	32.7		
		諸磯					3	46.7						
		不明（繊維含）	37	66.9	4	29.7			1	4.5			1	7.9
	小計		42	142.4	5	51.3	59	760.8	2	13.5	1	32.7	2	26.5
	中期深鉢	阿玉台												
		加曽利Ｅ												
	小計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明深鉢		77	139.9	4	11.2							3	8.1
	小計		77	139.9	4	11.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	8.1
	石器	石鏃	1	5.8										
		石匙												
		剥片												
		凹石	2	5251.2										
		台石	1	2821.1										
	小計		4	8078.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
縄文時代小計			123	8360.4	9	62.5	59	760.8	2	13.5	1	32.7	5	34.6
弥生時代	後期	甕・壺類					2	17.0						
	小計		0	0.0	0	0.0	2	17.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
弥生時代小計			0	0.0	0	0.0	2	17.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

出土地点			第４号土坑		第５号土坑		撹乱		表採		総計	
出土遺物			点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）
縄文時代	早期深鉢	三戸									1	75.5
	前期深鉢	黒浜	1	7.3	4	49.8	5	98.8	48	584.6	359	4964.9
		浮島	2	37.2	5	75.5	6	84.0	35	658.1	361	5291.4
		諸磯							4	44.9	25	377.6
		不明（繊維含）					2	7.5	18	60.3	144	541.6
	小計		3	44.5	9	125.3	13	190.3	105	1347.9	890	11251.0
	中期深鉢	阿玉台									4	51.8
		加曽利Ｅ							1	10.7	9	191.4
	小計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	10.7	13	243.2
	不明深鉢		1	2.8			2	10.5	7	163.3	220	1795.9
	小計		1	2.8	0	0.0	2	10.5	7	163.3	220	1795.9
	石器	石鏃									3	17.5
		石匙									1	10.8
		剥片									1	1.7
		凹石									2	5251.2
		台石									1	2821.1
	小計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	8	8102.3
縄文時代小計			4	47.3	9	125.3	15	200.8	113	1521.9	1131	21392.4
弥生時代	後期	甕・壺類							1	16.4	35	421.0
	小計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	16.4	35	421.0
弥生時代小計			0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	16.4	35	421.0

出土地点			第１号竪穴建物跡		第２号竪穴建物跡		第３号竪穴建物跡		第４号竪穴建物跡		第５号竪穴建物跡		第６号竪穴建物跡		第７号竪穴建物跡		第８号竪穴建物跡		第１号溝跡	
出土遺物			点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）
古墳時代	須恵器	蓋坏									1	60.8								
	小計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	60.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	土師器	坏類	37	556.9	24	291.5			121	936.0	233	2632.7	84	431.2	59	2648.5	13	92.6	9	86.2
		碗			1	19.3			4	132.1										
		坩													14	612.7	1	20.8		
		高坏			3	144.2			1	32.1	2	77.0	1	39.1	4	94.9				
		鉢			1	32.7			2	76.9	5	165.6			5	913.2			1	20.4
		甕・壺類	23	455.8	95	1492.8	4	179.3	386	3622.5	436	7399.9	311	10872.3	383	13523.5	44	548.3	56	750.6
		小形壺																		
		甑							13	770.4					42	5615.3				
		不明	12	32.3	6	9.6			48	153.1	44	265.0	45	139.1	28	68.2				
	小計		72	1045.0	130	1990.1	4	179.3	575	5723.1	720	10540.2	441	11481.7	535	23476.3	58	661.7	66	857.2
	土製品	紡錘車									2	71.5								
	小計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	71.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	石製品	砥石							1	335.3										
	小計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	335.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
古墳時代小計			72	1045.0	130	1990.1	4	179.3	576	6058.4	723	10672.5	441	11481.7	535	23476.3	58	661.7	66	857.2
近世以降	陶器	碗							1	3.4										
	磁器	鉢																		
	炻器	甕							1	3.1										
	小計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	6.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
中世以降小計			0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	6.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
時代不明	礫	砂岩	1	23.5	9	779.3														
		石英							1	3.8										
	小計		1	23.5	9	779.3	0	0.0	1	3.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
時代不明小計			1	23.5	9	779.3	0	0.0	1	3.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
総計			112	1768.0	312	5294.6	4	179.3	781	8337.0	794	11379.8	779	15901.6	658	31836.7	67	724.2	127	1635.0

出土地点			第１号土坑		第２号土坑		第３号土坑		第４号土坑		第５号土坑		撹乱		表採		総計	
出土遺物			点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）
古墳時代	須恵器	蓋坏															1	60.8
	小計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	60.8
	土師器	坏類									16	159.2	6	95.1	24	241.7	626	8171.6
		碗															5	151.4
		坩															15	633.5
		高坏									2	43.8			8	323.6	21	754.7
		鉢									1	8.9					15	1217.7
		甕・壺類	3	8.3					6	79.1	59	687.3	28	323.1	112	1884.4	1946	41827.2
		小形壺									1	16.2					1	16.2
		甑													12	720.1	67	7105.8
		不明													54	104.1	237	771.4
	小計		3	8.3	0	0.0	0	0.0	6	79.1	79	915.4	34	418.2	210	3273.9	2933	60649.5
	土製品	紡錘車															2	71.5
	小計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	71.5
	石製品	砥石															1	335.3
	小計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	335.3
古墳時代小計			3	8.3	0	0.0	0	0.0	6	79.1	79	915.4	34	418.2	210	3273.9	2937	61117.1
近世以降	陶器	碗															1	3.4
	磁器	鉢			1	3.8											1	3.8
	炻器	甕															1	3.1
	小計		0	0.0	1	3.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	10.3
中世以降小計			0	0.0	1	3.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	10.3
時代不明	礫	砂岩															10	802.8
		石英															1	3.8
	小計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	11	806.6
時代不明小計			0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	11	806.6
総計			5	21.8	2	36.5	5	34.6	10	126.4	88	1040.7	49	619.0	324	4812.2	4117	83747.4

第４章　考察

御茶園遺跡は，北に千波湖や偕楽園を望む台地の縁辺部分に位置し，西に流れる桜川による開析谷の西岸，標高 19.5 m～ 22.3 mに分布する遺跡である。御茶園という遺跡名（地名）は，水戸藩第９代藩主徳川斉昭が天保６（1835）年に宇治の茶師・小川佐助を召抱え，この地に茶園を開いたことが由来となっている。御茶園遺跡は，過去３ヶ所の調査において少量の遺物は出土しているものの，遺構は検出されておらず，今回の第４地点の発掘調査において，はじめて遺構が検出された。検出された遺構は，古墳時代の竪穴建物跡８軒，中世以降の溝跡２条，土坑８基である。遺物は，縄文時代早期中葉の三戸式土器から，近世以降の陶器や磁器まで，計 4,117 点，約 83.7 kgが出土している。これらの遺構や遺物の詳細については第３章で述べたが，本章では，検出・出土した遺構や遺物をもとに，御茶園遺跡における土地利用の移り変わりを中心に考えていきたい。

縄文時代の遺構は検出されていないが，遺物が 1,331 点，21,392.4 g と，全出土遺物点数の 27％強，全遺物出土重量の 25％強を占める。時期は，縄文時代前期中葉の黒浜式期や後葉の浮島式期が中心で 67％を占め，889 点の土器が出土している。その他の時期としては，早期中葉の三戸式，中期中葉の阿玉台式期，後葉の加曽利Ｅ式期の土器が，14 点出土している。石器は，チャート製の石鏃や石匙，凹石，台石などが出土しているが，計８点であり，土器に比べきわめて少数にとどまっている。このうち第７号竪穴建物跡のカマドで再利用されていた凹石と台石は，その使用石材に疑問があるため，後述したい。なお，遺物の出土地点は表土中や撹乱土中の他，第２・４～６号竪穴建物跡内での出土が目立つ。これらの遺構は，調査区の北西部に集中しており，この付近の調査区外に縄文時代の遺構が存在する可能性が高い。調査区東側の千波湖畔には縄文時代前期の貝塚と考えられている柳崎貝塚が位置しているが，縄文時代前期の集落は近隣では確認されていない。

弥生時代については遺構が検出されず，遺物も 35 点の出土と少数にとどまった。桜川の対岸の植松遺跡や見川塚畑遺跡では，当該期の遺物が確認されているが，当遺跡には集落が存在していたとしても規模は小さかったと考えられる。遺物はすべて弥生時代後期と判断され，弥生時代前期から中期の様相は不明である。

古墳時代は，今回の発掘調査で中心となる時代である。遺構は今回検出された８軒の竪穴建物跡がすべてこの時代に収まり，遺物も土器が 2,934 点，61 kg弱と全出土遺物点数の 71％強，全遺物出土重量 72％強を占める。その他，土製紡錘車が第５号竪穴建物跡から２点，砥石が第４号竪穴建物跡から１点，それぞれ出土している。

竪穴建物跡の時期は，出土遺物や重複関係などから概ね４期に分けられる。しかし，調査範囲が狭く，耕作や他の遺構で破壊されており，不明確な点が多いということを留意した上で，各期における竪穴建物跡を見ていきたい。

１期は，本地点で検出された一番古い遺構で，４世紀代に比定される第３号竪穴建物跡である。この竪穴建物跡は，中央部やや東寄りに地床炉をもち，40°西に振れる軸方向をもつ。上面が耕作などにより削平されていたうえ，出土遺物も土師器片が４点と少なかったため，これ以上の時期までは追えなかった。

２期は，５世紀前葉から中葉に比定される第２号竪穴建物跡である。当遺構は，第６号竪穴建物跡や第１号溝跡に大半を破壊されている状況であった。内部施設は検出されていない。主軸方向は 42°西に振れている。

３期は，６世紀前葉に比定される第１・５～７号の竪穴建物跡４軒である。このうち第７号竪穴建物跡は一辺が８ｍ以上と大型であることは特筆される。第１号竪穴建物跡は大半が調査区外にあり，カマドの有無は確認できなかったが，第６・７号竪穴建物跡にはカマドを伴い，第５号竪穴建物跡には炉跡が伴う。また，各竪穴建物跡の主軸方向は第１号建物跡が 20°，第５号が 10°，第６号が８°，第７号が 17° と，どれも東側に振れている。これら竪穴建物跡が概ね８° から 20° の近接した主軸方向を示していることから，ほぼ同時期に各建物跡が存在していたと考えられ，出土した遺物もそれを裏付けている。

４期は，６世紀中葉から後葉に比定される第４号竪穴建物跡が該当する。主軸方向は 22° 西に振れていて，カマドを伴う。

以上検出された竪穴建物跡の中で，特に３期においては，遺物から判断した時期と主軸方向が近似値を示すことが確認できた。また，これら４期にわたる竪穴建物跡は調査区の北部を中心に点在して分布していることから，集落が調査区の北側を中心に展開していることは容易に推測できるが，第５号および第７号竪穴建物跡から南側では，竪穴建物跡が検出されていない。この理由が本調査地点が集落の南端であるからなのか，中央広場のような集落が途切れる位置であるからなのか，今回の発掘調査では確認できなかった。

次に，カマドが検出された第４・６・７竪穴建物跡については，いずれも北壁にカマドが位置しており，絶対数が少ないものの，基本的には竪穴建物跡の北壁に設置される傾向を持っている。また，カマドが設置されている竪穴建物跡はいずれも確認面から 50 ㎝以上であり，カマドが設置されていない竪穴建物跡と比べ，深く掘り込まれている傾向がある。これらが検出された竪穴建物跡を含む集落全体の傾向なのか，本調査地点付近のみに，立地条件などが原因で見られる傾向なのか，明確にすることはできなかった。今後の近隣の発掘調査で検出されるであろう竪穴建物跡を丁寧に確認していけば，これらの問題は自然に解決するであろう。

遺物は，前述したとおり本調査地点出土遺物の７割超が古墳時代の産物である。主に竪穴建物跡内出土遺物が大半を占めるが，第３号竪穴建物跡のように出土遺物が４点にとどまる竪穴建物跡もあれば，500 点を超える遺物が出土している第５・７号竪穴建物跡も存在する。土師器が大半を占め，須恵器は第５号竪穴建物跡出土の蓋坏１点のみである。器種は土師器の坏や甕・壺類，高坏，甑など日常的に使われていたと想定できる器種のみ出土しており，今回確認された建物跡は，一般的な集落の様相を呈する。このうち土師器坏は，須恵器蓋坏模倣坏を中心に，多様なバリエーションがみられる。また，土製品は第５号竪穴建物跡から，土製紡錘車が２点出土している。石器は第４号竪穴建物跡から，砥石が１点出土しているのみである。縄文時代の項目で言及している，第７号竪穴建物跡のカマドで利用されていた凹石や台石は凝灰岩製で，上面に円錐形の窪みや加工が施され，意図的に平坦面が造られていたため，縄文時代の石器の再利用と判断した。しかし，石材は凝灰岩と凹石や台石に適さない石材であり，その加工が施されている状況から，古墳の石室構築材として利用されていた石材の可能性もある。本遺跡の北東側には，前方後円墳１基，円墳２基確認されている千波山古墳群が立地しており，同古墳群との関係性について，留意しておく必要がある。

また，古代の遺構や遺物は検出・出土していないことから，古代における水戸市域中心地は，台渡里廃寺跡や台渡里官衙遺跡周辺，吉田台地近辺などに移動しているものと考えられ，本遺跡内における古代の土地利用は低調であったと推測される。

中・近世の遺構は溝跡２条，土坑８基が検出されている。この２条の溝跡は，その規模や底面の状

況から，どちらも近世の区画溝もしくは根切り溝である可能性が高い。８基の土坑は，その平面形などから芋穴などの用途が想定できる土坑もあるが，大部分は性格不明の土坑である。遺物は非常に少なく，陶器碗，磁器鉢，炻器甕が各１点ずつ確認された。伴う遺物が出土していないため，基本的には切り合い関係と覆土の締まりや覆土の包含物で時期を判断したが，これ以上に時期を特定することはできなかった。時期別でみると，中世以降は第１・３～６・８号土坑，近世以降は第１・２号溝跡，第２・７号土坑のみである。中・近世もまた古墳時代に比して遺構・遺物は少なく，古代同様，集落の移動あるいは縮小傾向が続いていると推測される。さらに，調査地点付近では 11 世紀ごろに桜川を挟んだ地点に，馬場大掾氏一族の箕川長幹により見川城が築城されている。想像の範疇を出ないものの，その対岸である本遺跡周辺では防御上の関係から，建物等が建ち並ぶ状況にはなかったことも想定される。なお，見川城は，慶長７（1602）年の徳川氏水戸城入城に伴い廃城となっているが，水戸城から見ても，本遺跡は自然の堀である桜川の対岸直上に位置するため，中世期と同じように見晴らしの良い状態を保つ必要があったことが想定される。また，徳川斉昭が本遺跡周辺に茶園を開設したことが本遺跡名の由来となっているように，近世以降も畑地が多い地域であったようで，明治期や大正期には旧陸前浜街道が南北に走るが，本遺跡近辺は畑地が広がる風景が第２次大戦前まで続いていたとのことである。

今回の発掘調査において，本地点では，縄文時代前期中葉ごろから土地利用の痕跡が確認されたが，縄文時代中期以降その痕跡は消えてしまう。次に確認できるのは弥生時代後期だが，その出土遺物量からみて，きわめて小規模な集落であったと推測される。その後，古墳時代には４世紀ごろから集落が営まれ，６世紀前葉において本地点において最盛期を迎えた。６世紀の中葉になると集落の痕跡は確認できず，移動あるいは衰退してしまったようである。その後，中世以降は土坑などを掘り込む状況はあっても，主体的な生活の痕跡は見られず近世を迎えるが，近世以降もさほどの変化は見られず，畑地が拡がった農村地域であったことが予想され，明治以降も第二次世界大戦前までこの状況は続いていたようである。

引用・参考文献

井上義安・蓼沼香未由ほか　1998『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書　平成 10 年度版』水戸市教育委員会

茨城県教育庁文化課編　2001『茨城県遺跡地図　地図編』茨城県教育委員会

茨城県立歴史館編　1995『茨城県史料　考古資料編４　奈良・平安時代』茨城県

齋藤弘道　2006『茨城の縄文土器　茨城県立歴史館史料叢書９』茨城県立歴史館

樫村宣行・浅井哲也　1992「常陸地域の鬼高式土器－久慈川・那珂川流域を中心として－『月刊考古学ジャーナル』342　ニューサイエンス社

樫村宣行　1993「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』２　茨城県教育財団

1996「和泉式土器編年考－茨城県を中心として－」『研究ノート』５　茨城県教育財団

樫村宣行・土生朗治・白石真理　1999「茨城県における５世紀の動向」『東国土器研究』第５号上巻　東国土器研究会

川口武彦・色川順子・関口慶久・新垣清貴　2009　『平成 18 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
川口武彦・色川順子・関口慶久・渥美賢吾ほか　2010　『平成 19 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
川口武彦・関口慶久・新垣清貴ほか　2007　『平成 17 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
後藤俊一・宮田和男・萩原宏季・高野恒一・西森忠幸　2014　『北原遺跡Ⅰ　道の駅整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』常陸大宮市教育委員会
中山信名著・栗田寛補　1969　『新編常陸国誌』宮崎報恩会
堀口友一　1981　『今昔　水戸の地名』暁印書館
水戸市史編さん委員会編　1991　『水戸市史　上巻』水戸市役所

写　真　図　版

調査区完掘全景　北西より

調査区完掘全景（中央部～西部）南東より

調査区完掘全景（東部）南西より

図版 2

第１号竪穴建物跡完掘状況　南東より

第１号竪穴建物跡遺物出土状況　南より

第２号竪穴建物跡遺物出土状況　南東より

第２号竪穴建物跡遺物出土状況　北東より

第２号・６号竪穴建物跡完掘状況　東より

第２号竪穴建物跡遺物出状況　東より

第２号竪穴建物跡土層　北東より

第３号竪穴建物跡完掘状況　北西より

第３号竪穴建物跡土層　南西より

第３号竪穴建物跡炉跡土層　南より

第４号竪穴建物跡完掘状況　南東より

第４号竪穴建物跡土層　南東より

第４号竪穴建物跡カマド完掘状況　南東より

第４号竪穴建物跡カマド土層　南東より

第４号竪穴建物跡遺物出土状況　南東より

第４号竪穴建物跡掘り方完掘状況　南東より

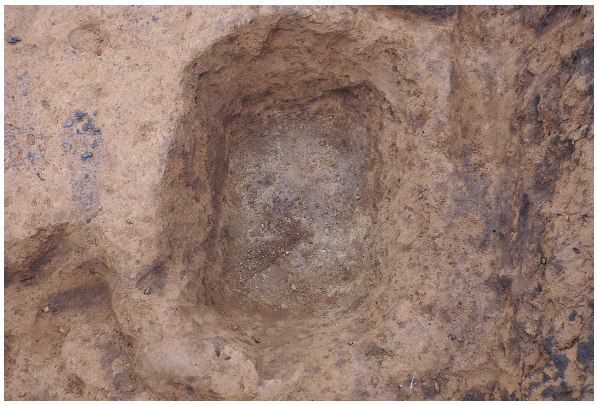
図版４

第４号竪穴建物跡カマド掘り方完掘状況　東より

第５号竪穴建物跡完掘状況　南より

第５号竪穴建物跡土層　南より

第５号竪穴建物跡炉跡完掘状況　南より



第５号竪穴建物跡貯蔵穴完掘状況　東より

第５号竪穴建物跡貯蔵穴土層　東より

第５号竪穴建物跡２号ピット土層　南東より

第５号竪穴建物跡遺物出土状況　南より

第５号竪穴建物跡遺物出土状況　東より

第５号竪穴建物跡掘り方完掘状況　南より

第６号竪穴建物跡カマド完掘状況　南より

第６号竪穴建物跡貯蔵穴遺物出土状況　東より

第６号竪穴建物跡貯蔵穴土層　東より

第６号竪穴建物跡カマド袖部断ち割り状況　南より

第７号竪穴建物跡完掘状況　南西より

第７号竪穴建物跡土層　南東より

図版 6

第７号竪穴建物跡カマド完掘状況　南東より

第７号竪穴建物跡カマド土層　西より

第７号竪穴建物跡１号ピット土層　東より

第７号竪穴建物跡遺物出土状況　南より

第７号竪穴建物跡遺物出土状況　北より

第７号竪穴建物跡遺物出土状況　南より

第７号竪穴建物跡遺物出土状況　南西より

第７号竪穴建物跡カマド遺物出土状況　南より

第７号竪穴建物跡カマド遺物出土状況　南より

第７号竪穴建物跡掘り方完掘状況　南より

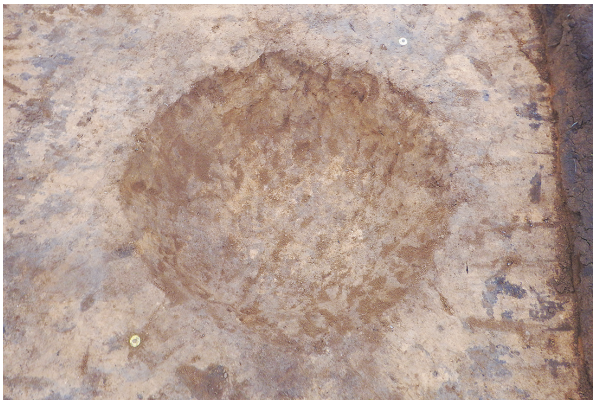
第８号竪穴建物跡完掘状況　南より

第８号竪穴建物跡土層　南西より

第８号竪穴建物跡掘り方完掘状況　北西より

第１号土坑土層　南東より

第２号土坑土層　南西より



第３号土坑完掘状況　北西より

図版 8

第４・７号土坑完掘状況　北東より

第５号土坑完掘状況　南東より

第６号土坑完掘状況　南西より

第８号土坑完掘状況　南東より

第２号溝跡完掘状況　南東より

第１号溝跡・第４号土坑完掘状況　北より

基本層序　北東より

第１号竪穴建物跡遺物１

第１号竪穴建物跡遺物２

第２号竪穴建物跡遺物１

第２号竪穴建物跡遺物２

第２号竪穴建物跡遺物３

第２号竪穴建物跡遺物４

第３号竪穴建物跡遺物１

第３号竪穴建物跡遺物２

図版 10

第４号竪穴建物跡遺物１

第４号竪穴建物跡遺物２

第４号竪穴建物跡遺物３

第４号竪穴建物跡遺物４

第４号竪穴建物跡遺物５

第４号竪穴建物跡遺物６

第４号竪穴建物跡遺物７

第４号竪穴建物跡遺物８（表）

第４号竪穴建物跡遺物８（裏）

第５号竪穴建物跡遺物１

第５号竪穴建物跡遺物２

第５号竪穴建物跡遺物３

第５号竪穴建物跡遺物４

第５号竪穴建物跡遺物５

第５号竪穴建物跡遺物６

図版 12

第５号竪穴建物跡遺物７

第５号竪穴建物跡遺物８

第５号竪穴建物跡遺物９

第５号竪穴建物跡遺物 10

第５号竪穴建物跡遺物 11

第５号竪穴建物跡遺物 12

第５号竪穴建物跡遺物 13

第５号竪穴建物跡遺物 15

第５号竪穴建物跡遺物 14

第５号竪穴建物跡遺物 16

第６号竪穴建物跡遺物１

第６号竪穴建物跡遺物２

第６号竪穴建物跡遺物３

第６号竪穴建物跡遺物４

図版 14

第６号竪穴建物跡遺物５

第７号竪穴建物跡遺物１

第７号竪穴建物跡遺物２

第７号竪穴建物跡遺物３

第７号竪穴建物跡遺物４

第７号竪穴建物跡遺物５

第７号竪穴建物跡遺物６

第７号竪穴建物跡遺物７

第７号竪穴建物跡遺物８

第７号竪穴建物跡遺物９

第７号竪穴建物跡遺物 10

第７号竪穴建物跡遺物 12

第７号竪穴建物跡遺物 13

第７号竪穴建物跡遺物 14

第７号竪穴建物跡遺物 11

図版 16

第７号竪穴建物跡遺物 15

第７号竪穴建物跡遺物 16

第７号竪穴建物跡遺物 17

第７号竪穴建物跡遺物 18

第７号竪穴建物跡遺物 19

第７号竪穴建物跡遺物 20

第７号竪穴建物跡遺物 21

第７号竪穴建物跡遺物 22

第７号竪穴建物跡遺物 23

第７号竪穴建物跡遺物 24（表）

第７号竪穴建物跡遺物 24（裏）

第７号竪穴建物跡遺物 25（表）

第７号竪穴建物跡遺物 25（裏）

図版 18

第８号竪穴建物跡遺物１

第８号竪穴建物跡遺物２

第８号竪穴建物跡遺物３

縄文時代の遺構外出土遺物（１）

縄文時代の遺構外出土遺物（2）

弥生時代の遺構外出土遺物

図版 20

古墳時代の遺構外出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	おさえんいせき（だいよんちてんだいにじ）
書名	御茶園遺跡（第４地点第２次）
副書名	宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告第69集
編集者名	米川暢敬・宮田和男・林邦雄
著者名	米川暢敬・宮田和男・林邦雄
編集機関	水戸市教育委員会
所在地	〒310-8610　茨城県水戸市中央1-4-1　☎ 029-224-1111
発行年月日	2016（平成28）年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
御茶園（おさえんいせき）遺跡	水戸市千波町字千波山（みとしせんばちょうあざせんばやま）2591-1ほか	201	325	36° 21′ 56″	140° 26′ 52″	2015.3.7 ～ 2015.4.10	562㎡	宅地造成工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
御茶園遺跡	集落跡	縄文時代	なし	縄文土器 石器	今回の調査において縄文時代早期から近世までの遺構と遺物が確認された。特に，縄文時代前期の遺物が多く出土し，黒浜期から浮島期における集落が当該地付近に展開している可能性が高い。また，古墳時代前葉から中葉までを中心に竪穴建物跡８軒が検出されている。このうちカマドが確認された竪穴建物跡は３軒である。その他，少量ではあるが弥生後期の土器が出土し，中・近世以降の溝跡が２条，土坑が８基検出されている。今回の発掘調査で初めて本遺跡において遺構が検出され，当該地における古墳時代における集落の一端が確認できたことは大きな成果となった。
		弥生時代	なし	弥生土器	
		古墳時代	竪穴建物跡８軒	須恵器 土師器 石器 土製品	
		中世以降	溝跡２条，土坑８基	陶器 磁器	

項目	遺物の取り扱い
水洗い	・すべて行った。
注記	・手書きによる。例）201325-004　SD1のように注記した。
接合	・接合は必要に応じて最小限行った。
実測	・遺物実測図は報告書掲載分についてのみ作成した。
台帳	・遺物台帳，図面台帳，写真台帳があり，検索が可能なように作成している。
遺物保管方法	・出土遺物は，報告書使用と未使用に分け，収納箱に納めた。各箱には収納内容を明記している。

水戸市埋蔵文化財調査報告第 69 集

御茶園遺跡（第 4 地点第 2 次）

－宅地造成工事に伴う埋蔵文化財調査報告書－

発行日　　平成 28 年 3 月 31 日

発　行　　水戸市教育委員会
〒 310-8610　茨城県水戸市中央 1 丁目 4 番 1 号
TEL　029-224-1111

編　集　　関東文化財振興会株式会社
〒 308-0846　茨城県筑西市布川 1012
TEL　0296-28-7737

印　刷　　山三印刷株式会社
〒 311-4153　茨城県水戸市河和田町 4433-33
TEL　029-252-8481